ONKYO®

DVD レシーバー

DR-2000

取扱説明書

COMPACT disc DIGITAL VIDEO

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書
とともに大切に保管してください。

特長

DR-2000は、DVDプレーヤーとサラウンドAVアンプのオールイン1BOX(ワン ボックス)。ご家庭のTVラックに無理なく入るリビングサイズの上にわずらわしい接続は不要。単体スピーカーとの接続だけで、すぐにでもホームシアターを堪能していただけます。

アンプ部

- ■ 定格出力（6Ω・1kHz・0.6%THD）：
  フロント 30W+30W、センター 30W、
  サラウンド 30W+30W
- ■ 高速処理と信頼性に優れた24bit DSP(ディーエスピー)チップ採用
- ■ 音声信号の大きさの基準となるグランド電位の安定化
- ■ ドルビー※1デジタル＆ドルビープロロジックデコーダー、DTS(ディーティーエス)※2デコーダー搭載
- ■ スマートコンフィグ機能装備
- ■ アコースティックコントロール
- ■ サブウーファープリアウト
- ■ 4つのオーディオ入力と2つのオーディオ出力端子装備
- ■ Sビデオ入出力各2系統装備
- ■ 耐熱設計の大型電源トランス
- ■ アルミニウム製押し出し大型ヒートシンク搭載
- ■ デジタル入力端子として、光端子2系統装備
  デジタル出力端子として、光端子1系統装備
- ■ オンキヨーオリジナルサラウンドモードは洗練された5モード（オーケストラ、アンプラグド、スタジオミックス、オールチャンネルステレオ、TVロジック）に厳選し、ナチュラルな音声作りを実現
- ■ レイトナイト機能
- ■ ドルビー社の許可を受けた、Theater-Dimensional™（シアターディメンショナル）バーチャルサラウンドモード搭載

チューナー部

- ■ 30局ランダムプリセット
- ■ FMオートチューニング
- ■ FM室内用アンテナ、AM室内用アンテナ付属

DVD部

- ■ コンポーネント(色差)映像出力端子装備
- ■ 3段階ズーム機能
- ■ 基本機能の設定がモニター画面に表示されるオンスクリーン機能
- ■ ビデオCD対応
- ■ CD-R対応

※1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
※2 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS Digital Surround”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

メモリー保持について

本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したチューナーのプリセット局やスピーカー設定、リスニングモード設定などを停電時などに保持するためのものです。2週間以上本機の主電源を切った状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

ご使用になる前に準備する

基本操作ですぐ楽しい

いろいろな再生機能を使う

接続した機器と連携して使う

その他

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⦸記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対に外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの背面などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。
  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

- 本機の通風孔、ディスク挿入口などから金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠警告

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

- 雷が鳴りだしたら、アンテナ線や、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災・けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台や、ぐらついたり傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 電源を入れたときは、音量に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音がひずんだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- お子様がディスク挿入口に手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。
- レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

⚠注意

■ 接続について

● 本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。
● ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
● 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
● 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。
● 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

● 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

● スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

● 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をおすすめします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除・点検費用等についても販売店にご相談ください。
● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
● アンテナ工事には、経験と技術が必要ですので、販売店にご相談ください。
● 屋外アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
● シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

● 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書などをお読みください。

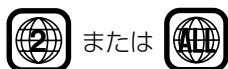
ディスクについての予備知識

本取扱説明書の内容について

この取扱説明書は、本機の基本的な操作のしかたを説明しています。DVDビデオ、ビデオCDは、ディスク制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機はディスク制作者が意図した内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに動作しないことがあります。再生するディスクに付属の説明書もご覧ください。

ボタン操作中にテレビ画面に「⊘」が表示されることがあります。「⊘」が表示されたときは、本機もしくはディスクがその操作を禁止しています。

リージョン番号（再生可能地域番号）について

DVDビデオによって、リージョン番号が指定されているものがあります。リージョン番号はそのディスクを再生できる地域を限定するもので、日本はリージョン番号「2」が指定されています。
リージョン番号が指定されたディスクにはそれを表わすマークがプリントされています。本機では以下のマークのついたディスクを再生することができます。

または
これ以外のリージョン番号マークのついたディスクを再生しようとすると、再生できない旨の表示が画面にでます。

コピー防止について

本機はアナログコピー防止システムに対応しています。
ディスクによっては、コピー禁止信号がはいっているものがあり、そのようなディスクを本機で再生してビデオデッキで録画しても、コピー防止システムが働いて正常に録画されません。

著作権について

ディスクを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。

本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用はマクロビジョンコーポレーションの許可が必要であり、マクロビジョンコーポレーションの許可なしでは、一般家庭用または他のかぎられた視聴用だけに使用されるようになっています。改造または分解は禁止されています。

再生できるディスク

本機は下記のディスクを再生することができます。

	マーク（ロゴ）	記録内容	ディスクの大きさ	最長再生時間
DVDビデオ	DVD VIDEO	音声＋映像（動画）	12 cm	片面ディスク 約4時間
				両面ディスク 約8時間
			8 cm	片面ディスク 約80分
				両面ディスク 約160分
ビデオCD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO	音声＋映像（動画）	12 cm	74分
			8 cm	20分
音楽用※CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	音声	12 cm	74分
			8 cm（CDシングル）	20分

※ ファイナライズされたCD-Rを含みます。
ファイナライズとは、ディスクの特別なエリア（PMA）に記録されたTOC情報（曲番など）をディスクに書き込む操作です。ファイナライズ後、CD-RはCDプレーヤーでも演奏できる状態になります。

以下のディスクは再生できません。
CD-RW、CD-ROM、DVDオーディオ、DVD-ROM、DVD-RAM、DVD-RW、CDV、CDG、SACD

本機はNTSC（エヌティーエスシー）カラー方式に適したDVDレシーバーです。他のカラー方式（PAL（パル）、SECAM（セカム））表示のディスクには使用できません。

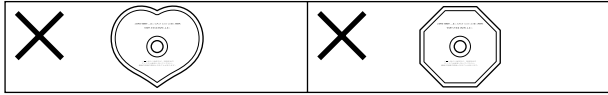
ビデオCDについて

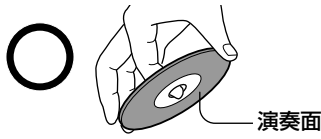
本機はPBC（ピービーシー）付きビデオCD（バージョン 2.0）に対応しています。（PBCは、Playback Control（プレーバック コントロール）の略です。）
ディスクによって、2種類の再生を楽しめます。

ディスクの種類	楽しみかた
PBCなしビデオCD（バージョン 1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（画像）を再生できます。
PBC付きビデオCD（バージョン 2.0）	PBCなしのビデオCDの楽しみかたに加えて、テレビ画面のあるソフトを使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（メニュー再生）。この取扱説明書で、説明されている機能が働かない場合があります。

ディスクについてのご注意

■ 異形ディスクについて

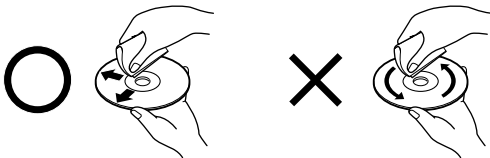
ハート型や八角形など特殊形状のディスクは使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。

■ 取り扱いについて

演奏面に触れないように、両端をはさむように持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

演奏面はもちろんレーベル面に紙やシールを貼ったり、文字を書いたりしないでください。またキズなどをつけないようにしてください。

■ レンタルディスクの注意について

ディスクにセロハンテープやディスクのラベルなどののりがはみ出したり、剥がしたあとがあるものはお使いにならないでください。そのまま本機にかけますと、ディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

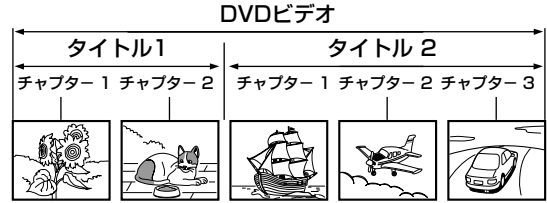
■ お手入れについて

汚れにより信号読み取りが低減し、音とびや画像の乱れが生じることがあります。汚れている場合は、演奏前に演奏面についた指紋やホコリを柔らかい布でディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。

汚れがひどい場合には、柔らかい布を水で浸し、よく絞ってから汚れを拭き取り、そのあと柔らかい布で水気を拭き取ってください。
アナログレコード用スプレー、帯電防止剤などは使用できません。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品は表面が侵されることがありますので絶対に使用しないでください。

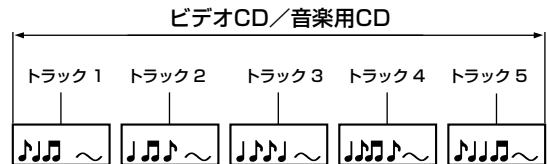
■ 保管上の注意について

直射日光のあたる場所、暖房器具の近くなど、温度が高くなるところや、極端に温度の低い場所はさけて保管してください。
必ず専用ケースに入れて保管してください。

ディスクに関する用語について

● DVDビデオは、「タイトル」という大きな区切りと、「チャプター」という小さな区切りに分かれています。

タイトル　DVDビデオの内容を、いくつかの部分に大きく区切ったものです。短編集の第1話、第2話の「話」に相当します。

チャプター　タイトルの内容を、場面や曲ごとにさらに小さく区切ったものです。上記「話」を分割する第1章、第2章の「章」に相当します。

● ビデオCD／音楽用CDは、「トラック」で区切られています。

トラック　ビデオCD／音楽用CDの内容を曲ごとに区切ったものです。

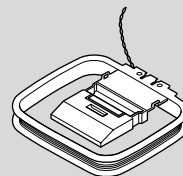
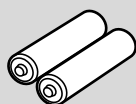
それぞれのタイトルやチャプター、トラックには順番に番号がふられています。これらの番号を「タイトル番号」、「チャプター番号」、「トラック番号」といいます。
（ディスクによっては、各々の番号が記録されていないものもあります。）

結露について

本機を冷えた所から、暖かい部屋に持ち込んだり、寒い部屋をストーブなどで急に暖めた場合、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは正常に働かないばかりでなくディスクや部品を痛めてしまいます。本機をご使用にならないときは、ディスクを取り出しておくことをお勧めします。
結露しているおそれがある場合は、本機の電源を入れて約1時間放置してからご使用ください。

付属品を確認する

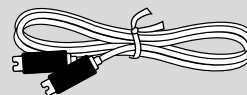
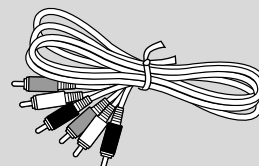
本機には以下の付属品が同梱されています。
お確かめください。
［ ］内の数字は数量を表わしています。

● リモコン(RC-437M)［1］

● 単3乾電池［2］

● 取扱説明書 （本書）［1］

● 保証書［1］
（外箱に添付しています。）

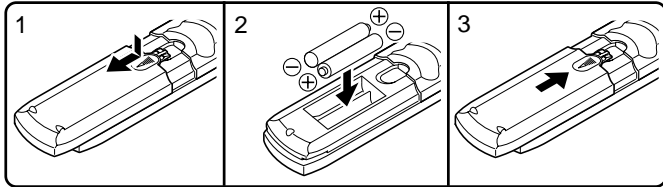
● FM室内アンテナ［1］

● AM室内アンテナ［1］

● Sビデオコード［1］

● オーディオ・ビデオ用ピンコード［1］

リモコンを準備する

乾電池を入れる

1　カバーを矢印の方向にずらしてはずす。
2　中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を+（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる。
3　カバーを戻す。

ご注意

SEND/LEARN インジケーター

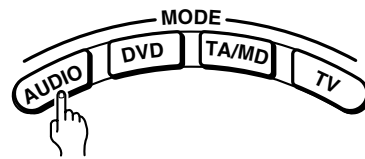
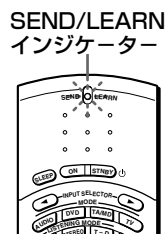
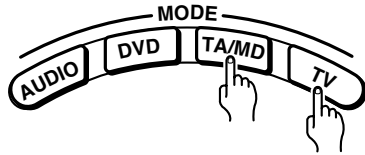
● 電池が減ってくると、リモコン上部のSEND/LEARNインジケーターが 点滅します。ランプが点滅したら新しい乾電池と交換してください。（SEND/LEARNインジケーターには他の機能もあります。右欄と、66ページを参照してください。）
● 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
● 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
● 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
● 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池は、単3型（UM3）をご使用ください。

リモコンを使う

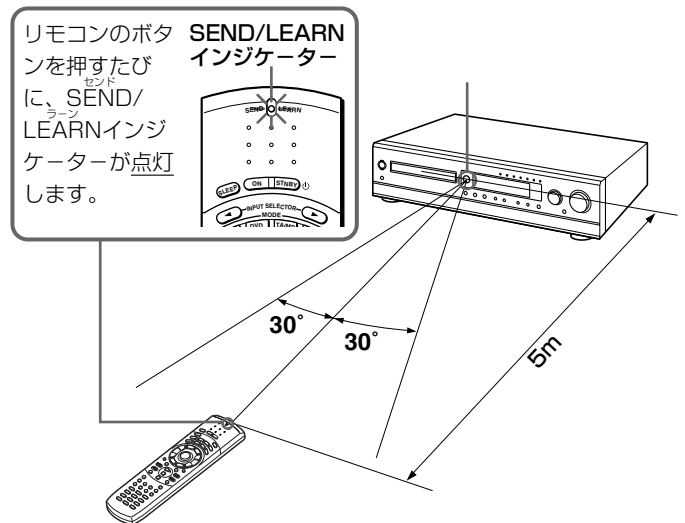
■ リモコン機能を切り換える

リモコンのボタンは、ボタンによって2つ以上の機能をかねています。 機能を切り換えるには、4つのMODEボタン（AUDIO、DVD、TA/MD、TV）を使います。
1度押すと、他のMODEボタンを押すまで機能は切り換わりません。

（MODEボタンと各操作の関係について詳しくは、後のページで、それぞれの操作ごとに説明されています。）

本機のDVD関係の操作をするときは、MODE DVDを押した後で、目的のボタンを押します。

本機のスピーカー、音声効果関係の操作をするときは、MODE AUDIOを押した後で、目的のボタンを押します。

MODE TA/MDは、オンキヨー製のMDレコーダー、またはオンキヨー製のカセットテープデッキをRI接続して操作する時に押します（☞17、33ページ）。

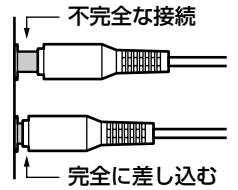
MODE TVは、テレビを操作する時に押します（☞33ページ）。ただし、事前にテレビのリモコン信号を、本機のリモコンに学習させる必要があります（☞33、66ページ）。

■ リモコンをDVDレシーバーの受光部に向けて使用する

ご注意

● リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
● 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
● リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
● オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
● リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

テレビを接続する

接続する前に

- 接続するテレビの取扱説明書も参照してください。
- 接続するときは、テレビの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。本機の電源コードはまだ接続しないでください。
- 本機はテレビと直接接続してください。ビデオデッキなどを経由してテレビと接続した場合、コピープロテクトされたディスクを再生すると画像が歪みます。
- プラグは奥までしっかり接続してください。
- 本機には、以下のコードが付属されています。
  - オーディオ・ビデオ用ピンコード（1本）
  - Sビデオコード（1本）

テレビにコンポーネントビデオ入力端子があるとき

コンポーネントビデオ入力端子接続をすると、Sビデオ接続よりもよい画像を得ることができます。

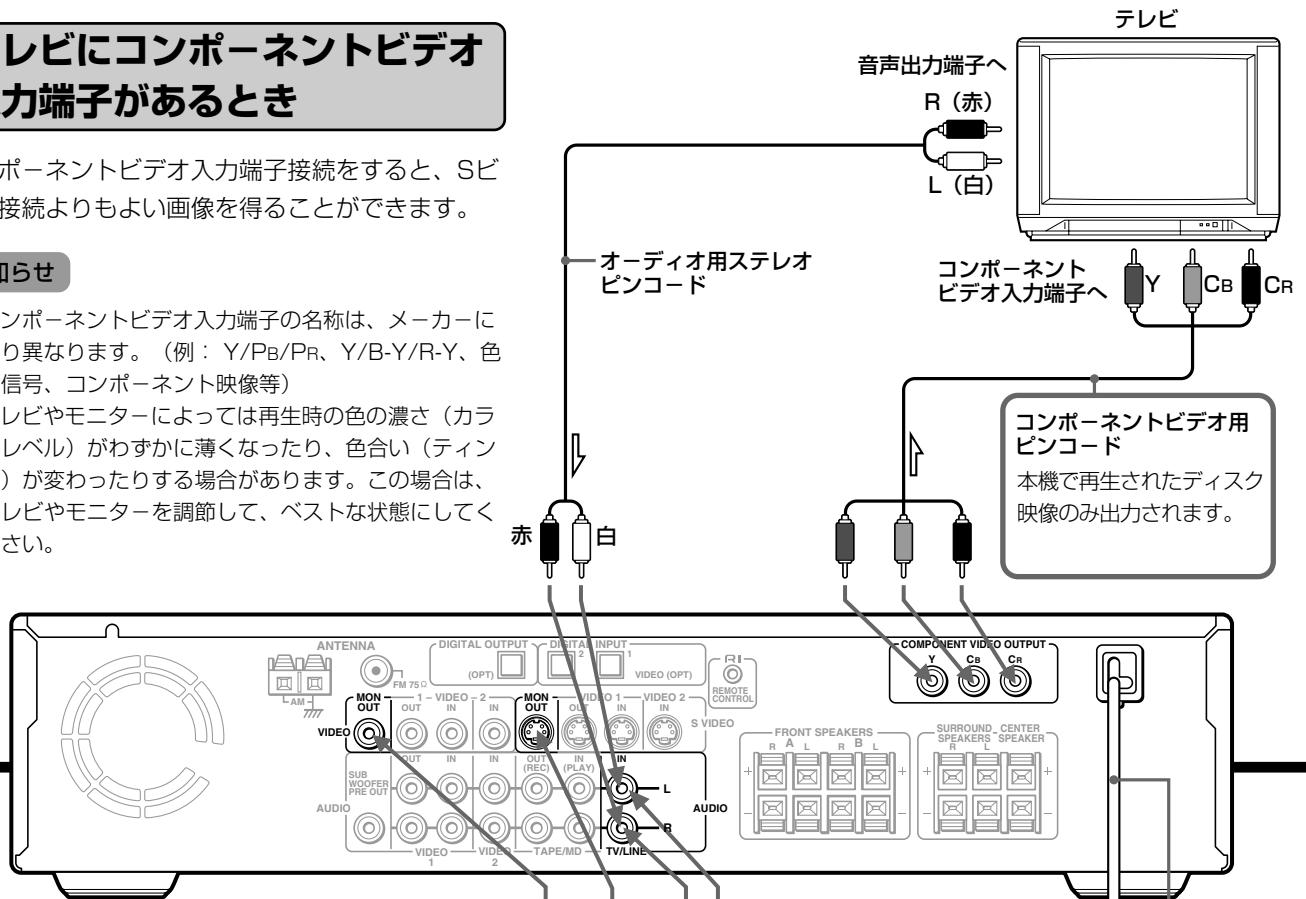
お知らせ

- コンポーネントビデオ入力端子の名称は、メーカーにより異なります。（例： Y/PB/PR、Y/B-Y/R-Y、色差信号、コンポーネント映像等）
- テレビやモニターによっては再生時の色の濃さ（カラーレベル）がわずかに薄くなったり、色合い（ティント）が変わったりする場合があります。この場合は、テレビやモニターを調節して、ベストな状態にしてください。

テレビ
音声出力端子へ
R（赤）
L（白）
オーディオ用ステレオピンコード
コンポーネントビデオ入力端子へ Y CB CR

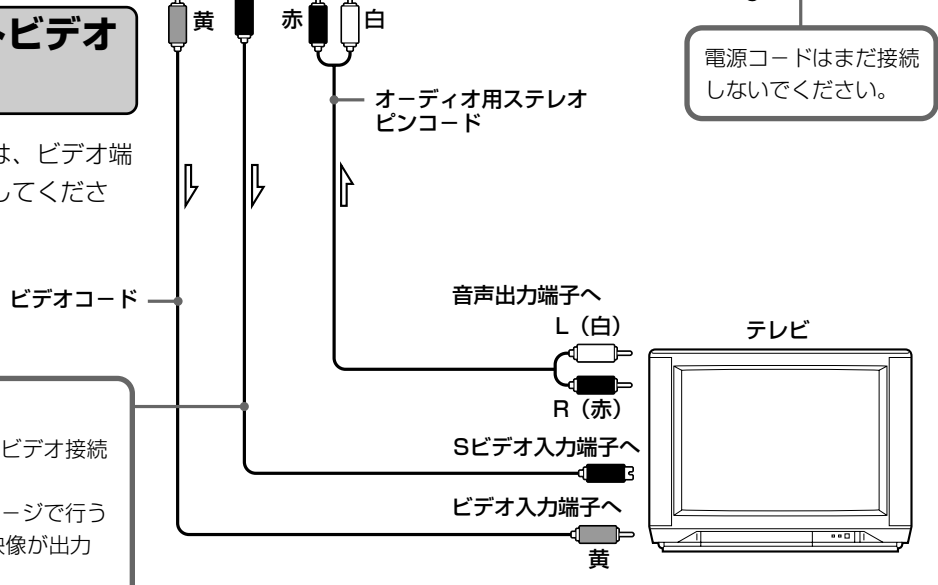
コンポーネントビデオ用ピンコード
本機で再生されたディスク映像のみ出力されます。

赤 白

電源コードはまだ接続しないでください。

テレビにコンポーネントビデオ入力端子がないとき

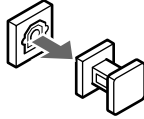
テレビにSビデオ入力端子があるときは、ビデオ端子接続と同時にSビデオ端子にも接続してください。よりよい映像が得られます。

黄 赤 白
オーディオ用ステレオピンコード
ビデオコード
音声出力端子へ
L（白）
R（赤）
Sビデオ入力端子へ
ビデオ入力端子へ
黄
テレビ

Sビデオコード
Sビデオ接続をする場合も通常のビデオ接続が必要です。
Sビデオ接続のみをすると、次ページで行う接続によっては外部機器からの映像が出力されないことがあります。

：信号の流れ

オーディオ／ビデオ機器を接続する

接続する前に

- 接続する機器の取扱説明書も参照してください。
- 接続するときは、接続するすべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。本機の電源コードはまだ接続しないでください。
- デジタル端子に接続するときは、キャップをはずしてください。デジタル端子を使用しないときは、必ずキャップをはめてください。
- プラグは奥までしっかり接続してください。
- S映像入力端子からの信号はS映像出力端子へ、通常のビデオ入力端子からの信号は通常のビデオ出力端子へのみ、出力されます。
- **VIDEO 1、VIDEO 2端子について**
  Sビデオ端子接続をする場合も通常のビデオ端子接続を必ずしてください。
- 本機には、以下のコードが付属されています。
  - オーディオ・ビデオ用ピンコード（1本）
  - Sビデオコード（1本）

ビデオデッキ／DVDレコーダーなど

LDプレーヤー／ビデオカセットプレーヤー／衛星チューナー／BSデジタルチューナーなど

音声入力端子へ
映像入力端子へ
映像出力端子へ
音声出力端子へ
デジタル音声（光）出力端子へ
S映像入力端子へ
S映像出力端子へ
オーディオ・ビデオ用ピンコード
Sビデオコード
赤　白　黄

光デジタルケーブル
デジタル音声（光）出力端子があれば接続してください。アナログ端子接続も必要です。

VIDEO 1へ
VIDEO 2へ
TAPE/MDへ

電源コードはまだ接続しないでください。

光デジタルケーブル
接続する録音機器にデジタル音声（光）入力端子があれば接続してください。アナログ端子接続も必要です。

デジタル音声（光）入力端子へ
音声出力（再生）端子へ
L（白）
R（赤）
MDレコーダー／DAT／CDレコーダー／カセットテープデッキ等
音声入力（録音）端子へ
オーディオ用ステレオピンコード

：信号の流れ

スピーカーを配置する

本機には、2系統のスピーカーシステム端子（SPEAKERS A、SPEAKERS B）があります。
SPEAKERS A系統のスピーカーは、メインルームに、SPEAKERS B系統のスピーカーはサブルームに置くなどの使い方ができます。

SPEAKERS A系統のスピーカー構成
フロントの左、センター、右スピーカー、サラウンドの左右スピーカー、サブウーファーが接続でき、マルチチャンネル再生ができます。

SPEAKERS B系統のスピーカー構成
フロント左右スピーカーのみが接続でき、ステレオでの再生ができます。

■ SPEAKERS A系統の標準的なスピーカー配置

サラウンド音声を再生するには、スピーカーを正しく配置することが必要です。
スピーカーの配置は、部屋の大きさや壁の材質などによっても変わってきますが、ここでは標準的なスピーカー配置を紹介します。以下を参考にしてサラウンド音声を最大限に生かしてください。

右の図のように、すべてのスピーカーを接続すると最も理想的なサラウンド効果を得ることができます。
しかし、センタースピーカーやサブウーファーがないときは、センタースピーカーやサブウーファーから出力される音声を他のスピーカーに最適に配分し、現在のスピーカー構成で可能なサラウンド効果を最大限に引き出します。

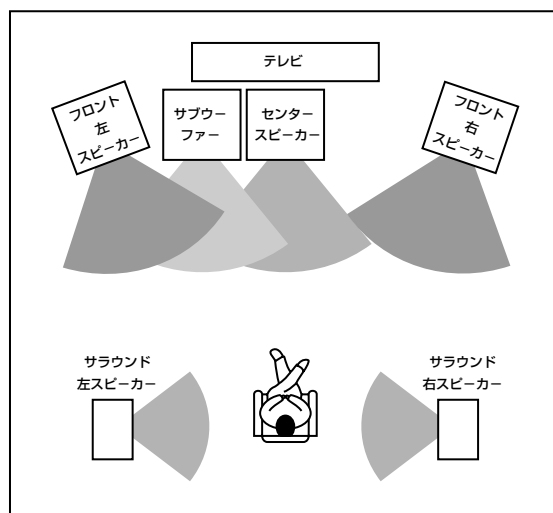
フロントスピーカーについて
フロントスピーカーのうち、センタースピーカーは音源効果や、音の動きを高め、より豊かなサウンドイメージを再現します。

- ● 左右スピーカーとフロントの3つのスピーカーを音楽や映画を鑑賞する人（リスナー）に向けて配置します。
- ● 高さはリスナーの耳の位置に調節します。

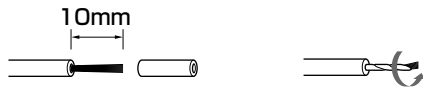
サラウンドスピーカーについて
サラウンドスピーカーは音の立体的な動きを表現し、あたかもその場にいるかのような臨場感を高めます。

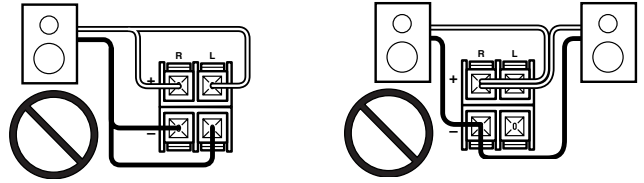
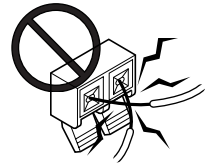
- ● 左右のサラウンドスピーカーが左右から向き合うようにし、リスナーがサラウンドスピーカーからの音の広がりの範囲内に入るように設置します。
- ● 高さは、リスナーの耳の位置より1メートル高くなるように調節します。

サブウーファーについて
アンプ内蔵のサブウーファーを使用してください。力強い重低音を再現します。
サブウーファーはどこに配置しても音響効果にはさほど影響を与えません。置きやすい場所に設置してください。

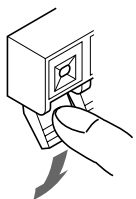
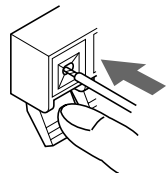
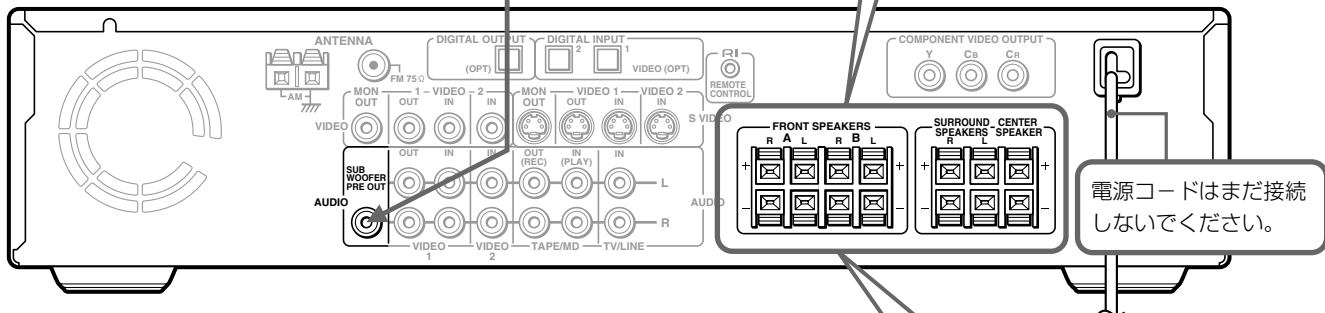
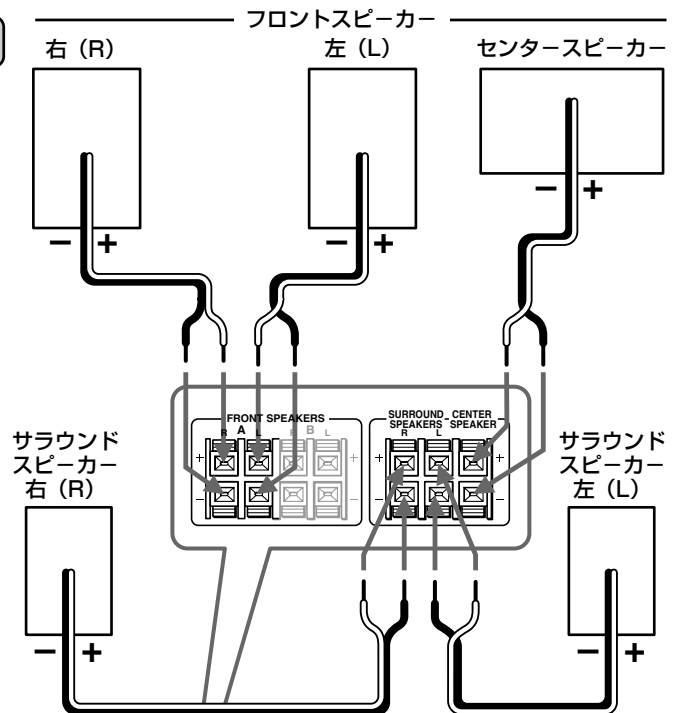
スピーカーの取扱説明書も同時に参照し、最も効果のあるサラウンド音声をお楽しみください。

スピーカーを接続する

接続する前に

- 接続するスピーカーの取扱説明書も参照してください。
- 本機は各スピーカーが以下のインピーダンス（抵抗）以上のときに高性能を発揮します。最適なスピーカーを選択し接続してください。
  フロントスピーカー： 左右それぞれ6Ω
  センタースピーカー： 6Ω
  サラウンドスピーカー： 左右それぞれ6Ω
- スピーカーコードの先のビニール（絶縁体）部分を、芯線を残して10mmはがし、露出した芯線をよじってください。

- 回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯線を絶対にショートさせないでください。
- 1個のスピーカーからのコードを左右（L／R）端子に同時に接続したり、複数のスピーカーを同じ端子に接続することは、絶対にやめてください。

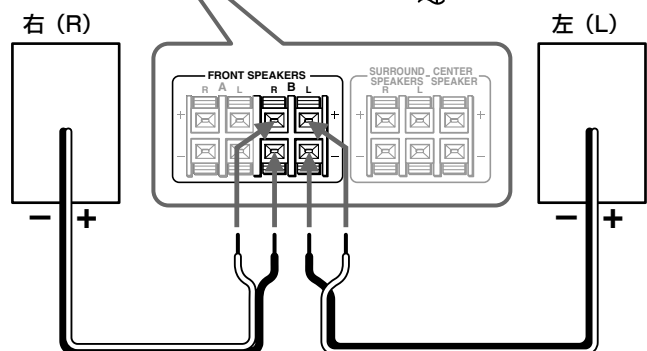
SPEAKERS A系統の接続

メインのスピーカー系統は、SPEAKERS（スピーカーズ エー） Aです。
右図のように接続してください。

フロントスピーカー
右（R）
左（L）
センタースピーカー
サラウンドスピーカー右（R）
サラウンドスピーカー左（L）
アクティブサブウーファー（アンプ内蔵サブウーファー）

スピーカー端子への接続のしかた

つまみを押して広げる。

スピーカーコードの先を差し込む。指を離すとつまみが元の位置に戻ります。

電源コードはまだ接続しないでください。

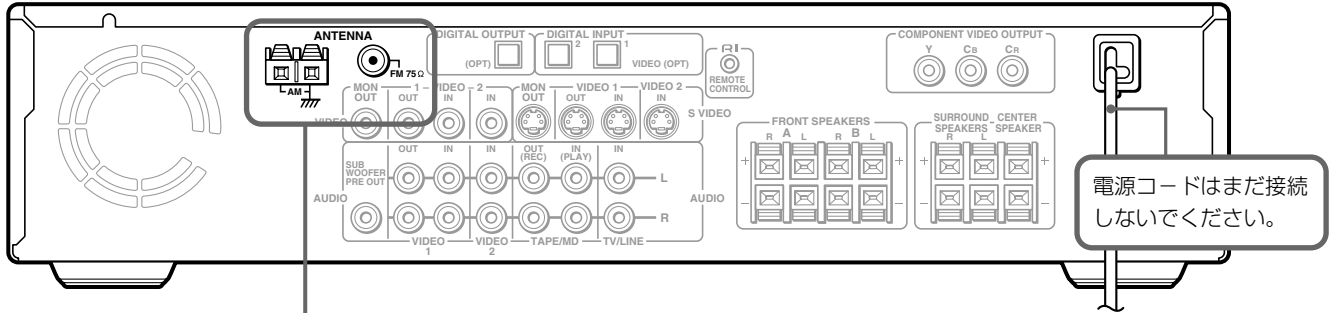
SPEAKERS B系統の接続

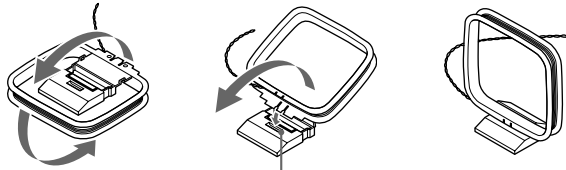
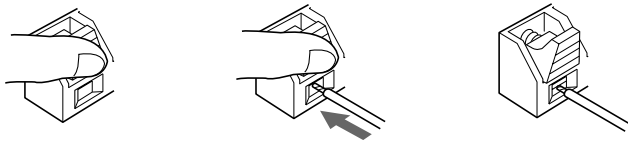
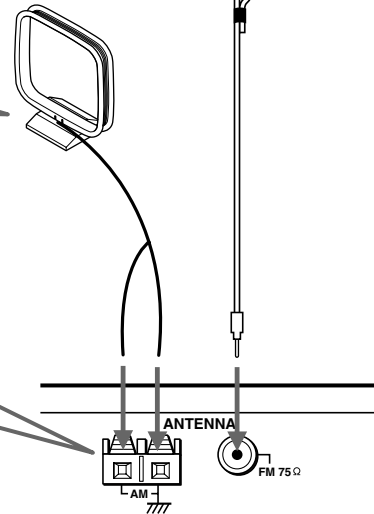
サブルーム等にスピーカーを設置するときは、右のSPEAKERS（スピーカーズ ビー） Bの接続を行ってください。

右（R）
左（L）

FM ／ AM アンテナを接続する

付属のFM／AM室内アンテナを接続する

電源コードはまだ接続しないでください。

AM室内アンテナ

FM室内アンテナ

1 アンテナの外枠をぐるっと回転させる。 2 溝に差し込む。 3 アンテナのコードを引き出す。

1 つまみを押して広げる。 2 アンテナコードの先を差し込む。 3 指を離すとつまみが元の位置に戻ります。

■ FM室内アンテナの位置を調整する

FM放送を聞きながら(☞30ページ)、調整してください。
アンテナ線をぴんと張りながらいろいろな方向に動かし、最も受信状態がよい位置で、押しピンなどを使って固定します。

■ AM室内アンテナの位置を調整する

AM放送を聞きながら(☞30ページ)、調整してください。
AM室内アンテナをいろいろな方向に向けたり、位置を動かしてみて、最も受信状態がよい位置に置きます。
本機、テレビ、スピーカーコード、電源コードなどからできるだけ離して設置してください。

お知らせ

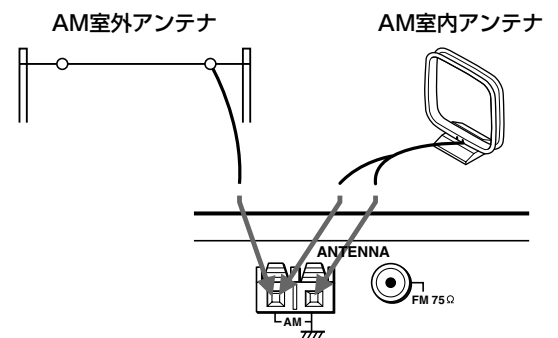
AMアンテナのコードは、分岐した先端を左右端子のどちらに接続してもかまいません。（スピーカーコードのように極性などによる区別はありません。）

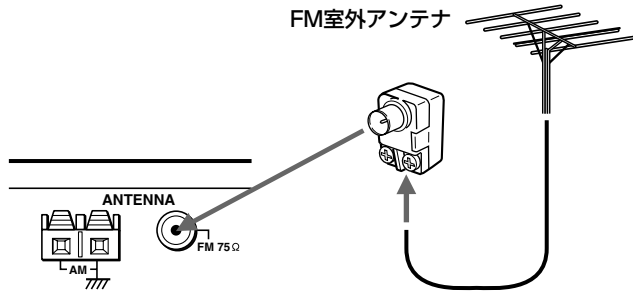
AM室外アンテナを接続する

鉄筋住宅などでAM室内アンテナだけでは受信状態が悪いときは、5m以上のビニール被覆線を窓際や屋外に張ってください。

接続は右図のようにしてください。AM外部アンテナを接続する場合は、AM室内アンテナも同時に接続します。

ご注意

落雷や感電による事故を防ぐため、アースは必ず接続してください。

FM室外アンテナを接続する

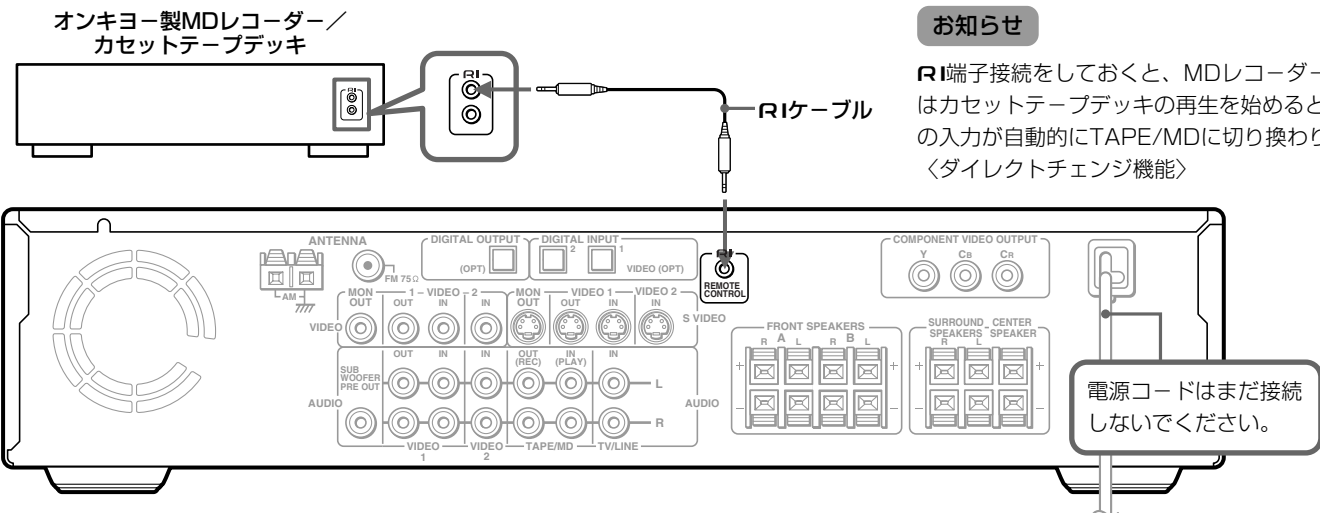
FM室内アンテナの位置を調整しても受信状態が悪いときは、FM室内アンテナを外してFM室外アンテナを接続してください。

ご注意

- 建物の陰にならず、FM放送電波が直接受信できるところに設置してください。
- ネオンや交通の激しい道路などのノイズの発生源から離して設置してください。
- 送電線の近くは危険ですので、絶対に設置しないでください。
- 落雷や感電による事故を防ぐため、アースは必ず接続してください。
- アンテナ工事は技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

オンキヨー製のテープ／MDデッキを本機のリモコンで操作するための接続〈RI端子接続〉

付属のリモコンで、本機以外に、次のAV機器を操作することができます。（☞33ページ）

- テレビ
- RI端子付きのオンキヨー製MDレコーダー（RI端子接続が必要です。）
- RI端子付きのオンキヨー製カセットテープデッキ（RI端子接続が必要です。）

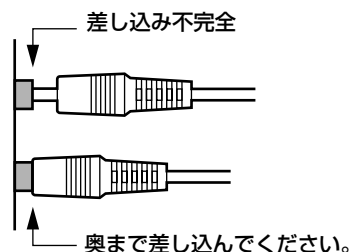
RI端子接続にはRIケーブルが必要です。
RIケーブルは、MDレコーダーやカセットテープデッキに付属されています。

お知らせ

RI端子接続をしておくと、MDレコーダーもしくはカセットテープデッキの再生を始めると、本機の入力が自動的にTAPE/MDに切り換わります。〈ダイレクトチェンジ機能〉

お願い

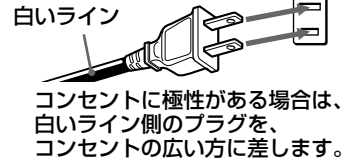
- プラグは奥までしっかり接続してください。
- 必ずRIマークのついた端子に接続してください。
- RIケーブルで接続をした場合も、13ページの接続は必ず行ってください。
- 本機のRI端子は、オンキヨー製品以外の機器とは接続しないでください。故障の原因になります。

ご注意

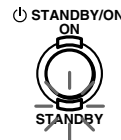
RI端子付きのオンキヨー製MDレコーダーおよびカセットテープデッキは、両方同時にRI端子接続しないでください。誤動作することがあります。

本機の電源をつなぎ、電源を入れる

接続する前に

- 12〜17ページの接続がすべて終了しているか確認してください。（テレビとのビデオ接続は必ず必要です。）
- 本機の電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントにつなぐようにしてください。

1 電源コードを壁のコンセントにつなぐ

コンセントに極性がある場合は、白いライン側のプラグを、コンセントの広い方に差します。

2 ⊙ POWERスイッチを押して、主電源を入れる

本機がスタンバイ状態になり、STANDBYインジケーターが赤く点灯します。

お知らせ

- 工場出荷時は、主電源はオン（ON）になっています。
- 主電源をオフ（OFF）にするには、⊙ POWERスイッチをもう一度押します。
- 主電源がオフになっていると、リモコンボタンは働きません。

カーソル操作の前に

MODE DVDまたは、MODE AUDIOを押してください。

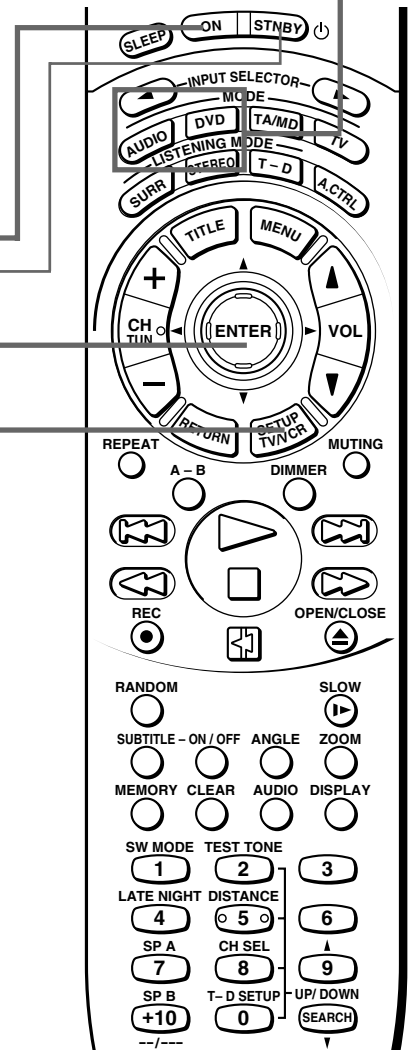
3 本体の⏻ STANDBY/ONか、リモコンのONを押して、電源を入れる

電源が入り、ONインジケーターがオレンジ色に点灯します。
スタンバイインジケーターは消えます。

本機ご購入後に初めて電源を入れたときは、**初期設定画面**があらわれます。画面表示言語（☞56ページ）とテレビの画面形状（☞57ページ）を選んでください。
リモコンのカーソルで操作します。

1. **▲/▼を押して『画面表示言語』を選び、ENTERを押す。**
2. **▲/▼を押して言語を選び、ENTERを押す。**
3. **▼を押して『TV 画面形状』を選び、ENTERを押す。**
4. **▲/▼を押してテレビの画面形状を選び、ENTERを押す。**
5. **SETUPを押して、終了する。**初期設定画面が消えます。

お知らせ

- 本機の電源を切り、スタンバイ状態にするには、本体の⏻ STANDBY/ONまたは、リモコンのSTNBY ⏻を押します。次回使用時のために、音量を最小にしてから、電源を切ってください。
- 本手順で行った初期設定は、「メニュー画面を使って機能の設定変更をする」（☞54ページ）で再変更することができます。

接続したスピーカーの設定をする

マルチチャンネル再生を楽しむには、スピーカーの構成や、視聴位置までの距離、音量バランスの調整をする必要があります。
ここでは、SPEAKERS A端子に接続したスピーカー（☞15ページ）の設定をします。
（SPEAKERS Bの設定はありません。）

スピーカー構成や配置を変えない限り、通常は設定を繰り返す必要はありません。※

※ 例外として、「高周波数（kHz）／高ビット（bit）音声をそのままの音質で聞く」（☞50ページ）の手順があります。

お知らせ

ヘッドフォンを接続しているとき（☞35ページ）や、SPEAKERS Bがオンになっているとき（☞34ページ）は設定できません。

オンキヨー製のスピーカーを接続している場合〈スマートコンフィグ設定〉

SPEAKERS A端子に接続したスピーカーが下の表にあるか確認してください。

- 1つでもある場合は、「スマートコンフィグを使って設定する」（☞次ページ）を行ってください。
  スマートコンフィグ設定をすると、スピーカーの構成や、視聴位置までの距離設定、音量バランスの調整などが自動的に行われます。
- 表のスピーカーとまったく一致しないときは、「オンキヨー製以外のスピーカーを接続している場合」（☞21ページ）の手順を行ってください。

■ オンキヨー製スピーカーと認識番号表

各スピーカーの型番の左にある数字が、「スマートコンフィグを使って設定する」の手順で使用する認識番号です。
手順中、接続していないスピーカーについては「0」を、接続しているスピーカーがオンキヨー製以外の場合は「9」を、選びます。フロント左右スピーカーは、必ず接続していなくてはなりません。

フロント左右		センター		サラウンド左右		サブウーファー	
		0	接続していない場合	0	接続していない場合	0	接続していない場合
1	D-105F/D-30	1	D-105F/D-30	1	D-105F/D-30	1	SKW-205※
2	D-205F	2	D-205F	2	D-205F	2	SKW-305※
3	D-305F	3	D-305C	3	D-305SR	3	SKW-310※
4	D-602F/D-40	4	D-602F/D-40	4	D-602F/D-40	4	SKW-320※
5	D-605F/D-77MRX	5	D-605F	5	D-605F	5	SL-7
6	D-80	6	D-80	6	D-80	6	SL-10
7	D-202AX/D-202AXLTD	7	SKC-301/305	7	SKR-301/305		
8	D-66RX						
9	上記以外のオンキヨー製品、または、オンキヨー製以外のスピーカーの場合	9	上記以外のオンキヨー製品、または、オンキヨー製以外のスピーカーの場合	9	上記以外のオンキヨー製品、または、オンキヨー製以外のスピーカーの場合	9	上記以外のオンキヨー製品、または、オンキヨー製以外のスピーカーの場合

※ サブウーファーにMOVIE／MUSICの設定がありますが、「MUSIC」にしてください。

接続したスピーカーの設定をする

■ スマートコンフィグを使って設定する

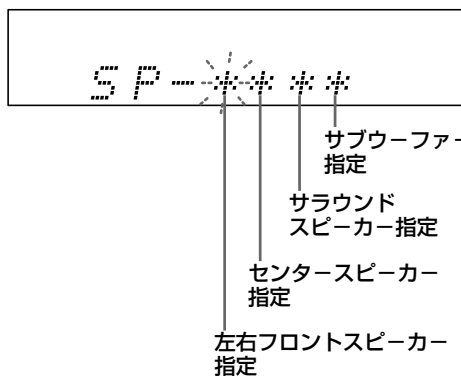
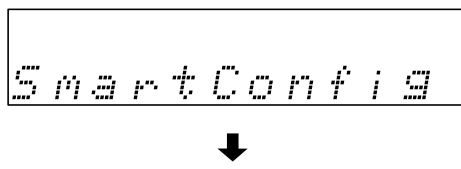
1 本体のみ

SPEAKER SETUPを押す

本体の表示部に『SmartConfig』が表示されたあと、『SP-＊＊＊＊』が表示されます。

お知らせ

SPEAKER SETUPを押したときに、『SmartConfig』以外が表示されたときは、SPEAKER SETUPを繰り返し押して、『Smartconfig』を表示します。

⬇

各『＊』は、前ページの表中に記載されたスピーカー認識番号を入力するためのフィールドです。
点滅しているフィールドが現在選ばれています。

2 本体

リモコン

本体の▼ DOWN／UP ▲、またはリモコンのUP ▲/DOWN ▼を押して、スピーカーの認識番号を選ぶ

SP-3＊＊＊

お知らせ

- スピーカーを接続していない入力フィールドでは、『0』を選んでください。ただし、フロント左右スピーカーは必ず接続することが前提ですので、『0』は選べません。
- 表に記載されていないスピーカーを接続している入力フィールドでは、『9』を選んでください。

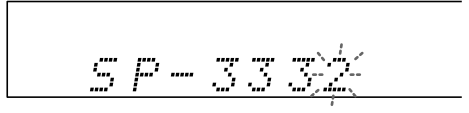
3 本体

CH SEL

リモコン

CH SELを押して、次のフィールドを選ぶ

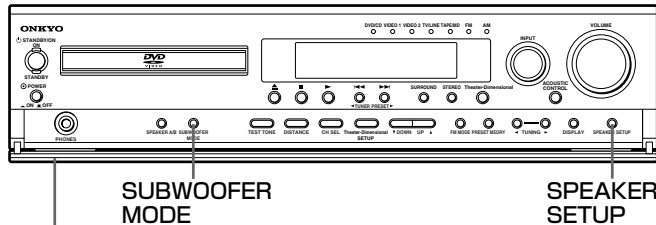
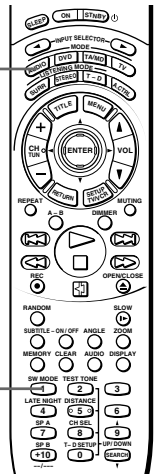
選んだあとは、サブウーファーの設定が終わるまで、手順**2**と**3**を繰り返します。

SP-3332

サブウーファーの指定が終わり、CH SELを押すと、スマートコンフィグ設定が完了します。

Complete

お知らせ

- 『9』を設定したフィールドのスピーカーについては、音量バランスを調整してください。（☞23ページ）
- より詳細な設定をするには、「視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定する」（☞22ページ）の手順を行います。

オンキヨー製以外のスピーカーを接続している場合

リモコン操作をする前に
スピーカー設定をリモコンで操作するときは、最初にMODE AUDIOを押します。

■ スピーカー構成を設定する

本体のみ

SPEAKER SETUPを3秒以内に繰り返し押して、スピーカー構成を選ぶ

Speaker 3ch

表示とスピーカー構成の内容
（●のスピーカーが認識されます。）

表示部の表示 ＼ スピーカー	Speaker			
	2ch	3ch	4ch	5ch
左右フロント	●	●	●	●
センター		●		●
左右サラウンド			●	●

お知らせ

SPEAKER SETUPを押すと、『SmartConfig』（☞20ページ）も表示されますが、ここでは選びません。

3秒経過すると、通常表示に戻ります。

お知らせ

- ここでスピーカー構成を設定、再設定すると、リスニングモードは自動的に『Stereo』（ステレオ）（☞40ページ）になります。
- 表示部が通常表示のときに、現在設定されているスピーカー構成を確認するときは、SPEAKER SETUPを1度だけ押します。現在のスピーカー構成が表示されている間にSPEAKER SETUPをさらに押すと、スピーカー構成を変更することができます。

■ サブウーファーの設定をする

本体

SUBWOOFER MODE

リモコン

SW MODE 1

本体のSUBWOOFER MODE、または、リモコンのSW MODEを（繰り返し）押して、サブウーファーモードを選ぶ

SW Mode 2

SUBWOOFER MODEを1度だけ押すと、現在の設定を確認するとこができます。さらにSUBWOOFER MODEを押していくと、サブウーファーモードを変更することができます。

- 『SW Mode 1』
  小さい、低音領域が限られたフロントスピーカーを接続しているとき
- 『SW Mode 2』
  大きい、広域周波数帯のフロントスピーカーを接続しているとき
- 『SW Off』
  サブウーファーを接続していないとき

3秒経過すると、通常表示に戻ります。

接続したスピーカーの設定をする

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定する

視聴位置から、各スピーカーまでの距離を、あらかじめ測っておきます。
設定するときは、実測値に最も近い値を選んでください。

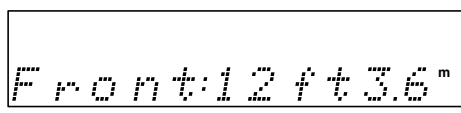
左右にあるスピーカーは、片方の距離を測ってください。
（左右スピーカーは、視聴位置から等距離とします。）

1 本体 DISTANCE ／ リモコン DISTANCE 5

DISTANCEを押す

本体の表示部に、左右フロントスピーカーの設定表示があらわれます。

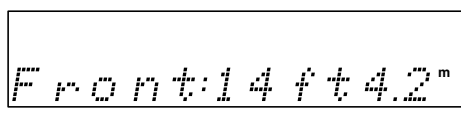
Front:12ft3.6m

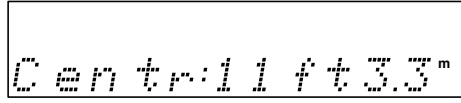
2 本体 DOWN UP ／ リモコン 9 UP/DOWN SEARCH

本体の▼ DOWN／UP ▲、またはリモコンのUP ▲/DOWN ▼を押して、左右フロントスピーカーの距離を選ぶ

最短0.3mから最長9mまで設定できます。

Front:14ft4.2m

- 次のような数値は入力できません。
  - 左右フロントスピーカーの距離より長い値
  - 左右フロントスピーカーの距離から1.5m引いた値より短い距離

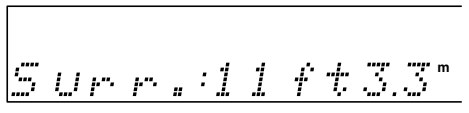
3 本体 DISTANCE → DOWN UP ／ リモコン DISTANCE 5

DISTANCEを押し、本体の▼ DOWN／UP ▲、またはリモコンのUP ▲/DOWN ▼を押して、センタースピーカーの距離を選ぶ

Centr:11ft3.3m

お知らせ

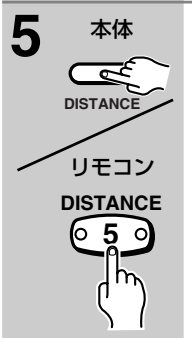
- センタースピーカーを含まないスピーカー構成を設定をしている場合は、この設定はありません。

4 本体 DISTANCE → DOWN UP ／ リモコン DISTANCE 5 → 9 UP/DOWN SEARCH

DISTANCEを押し、本体の▼ DOWN／UP ▲、またはリモコンのUP ▲/DOWN ▼を押して、サラウンドスピーカーの距離を選ぶ

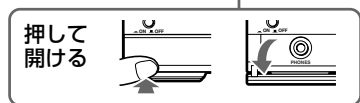
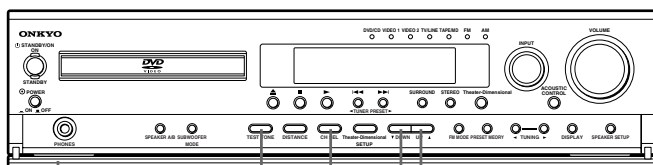
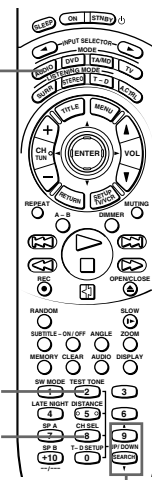
Surr.:11ft3.3m

お知らせ

- サラウンドスピーカーを含まないスピーカー構成を設定をしている場合は、この設定はありません。
- 次のような数値は入力できません。
  - 左右フロントスピーカーの距離より長い値
  - 左右フロントスピーカーの距離から4.5m引いた値より短い距離

5 本体 DISTANCE ／ リモコン DISTANCE 5

DISTANCEを押す

設定が終わり、通常表示に戻ります。

各スピーカーの音量バランスの調整をする〈Test Tone〉

すべてのスピーカーの音が、視聴位置から同じ大きさに聞こえるように調整していきます。

1 本体

TEST TONE

リモコン

TEST TONE 2

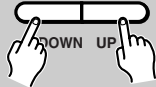
TEST TONEを押す

次の順序で各スピーカーが表示部に表示され、表示されたスピーカーからテストトーンが出力されます。

Left (左フロント)	→	Center (センター)
↑		↓
Subwfr (サブウーファー)		Right (右フロント)
↑		↓
Surr L (左サラウンド)	←	Surr R (右サラウンド)

お知らせ

設定したスピーカー構成にないスピーカーからは（実際は接続していても）、テストトーンは出力されません。

2 本体

CH SELを（繰り返し）押してスピーカーを選び、本体の▼ DOWN／UP ▲、またはリモコンのUP ▲/DOWN ▼を押して、音量を調整する

音量レベルは－12dB～+12dBの間で調整できます。

3 本体

調整が終わったら、TEST TONEを押す

テストトーンが止まり、表示部は通常表示に戻ります。

お知らせ

TEST TONEを押さなくても、10周すると、テストトーンは解除されます。

DVDビデオ、ビデオCD、音楽用CDを再生する

再生を始める前に

- DVDビデオ、ビデオCD、音楽用CD以外は再生しないでください。（☞「再生できるディスク」、8ページ）
- ディスクを再生するときは、テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機器を接続した入力に切り換えてください。

DVD VCD CD マークについて

DVD はDVDビデオの操作に関する説明です。
VCD はビデオCDの操作に関する説明です。
CD は音楽用CDに関する説明です。

DVD **右のようなスクリーンセーバー画面があらわれたときは**

ディスク再生中、一定時間以上一時停止（ポーズ）状態にしておくと、スクリーンセーバーがはたらきます。
（この機能をオフにするとこともできます。☞59ページ）
再生を始めるときは、►を押してください。

DVD VCD CD

ディスクの基本的な再生

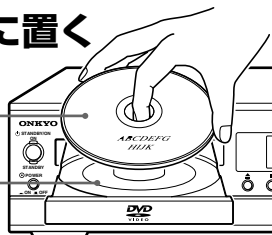
1 ⏏を押す

ディスクトレイが開きます。

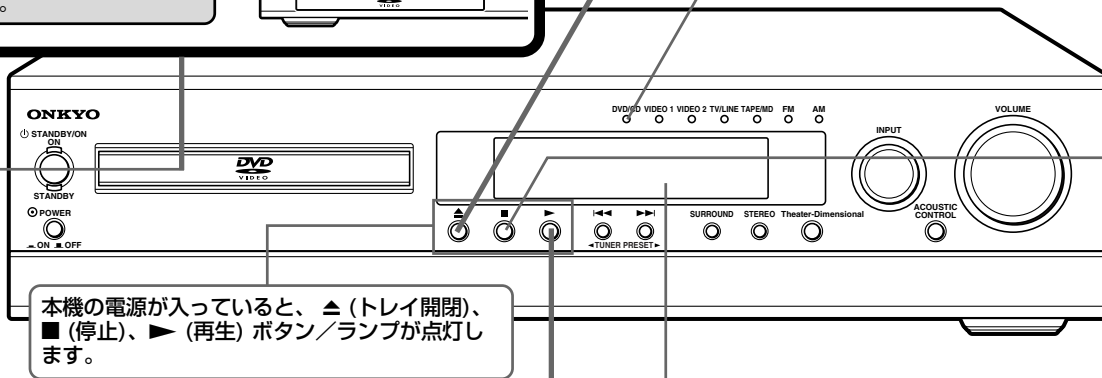
お知らせ

本機がスタンバイ状態のときに、⏏を押したときは本機の電源が入り、ディスクトレイが開きます。このときは、ディスクトレイが開くのに数秒かかります。

2 ディスクをディストレイに置く

ディスクのラベル面を上にします。
ディスクには2種類のサイズがあります。トレイのそれぞれのガイド内に収まるように置いてください。

本機の入力が、内蔵DVDプレーヤーになっていると、点灯します。

ご注意

ディスクトレイに手を入れないでください。指をはさみ、けがの原因となることがあります。

本機の電源が入っていると、⏏（トレイ開閉）、■（停止）、►（再生）ボタン／ランプが点灯します。

3 ►を押す

ディスクトレイが閉まり、再生が始まります。
ディスクによっては手順**2**の後に⏏を押すと自動的に再生が始まります。

再生している音声方式が表示されます。（☞36ページ）
DOLBY DIGITAL、DTS、PCM（2チャンネルデジタルステレオ）

セットしたディスクの種類が表示されます。
その他の表示情報については、52ページと53ページを参照しください。

DVD VCD **テレビにメニュー画面があらわれたときは**

DVDビデオのメニュー機能か、ビデオCDのPBC（ピービーシー）機能（☞「ビデオCDについて」、8ページ）がはたらいています。
「メニュー画面でタイトルを指定して再生する」（☞27ページ）の手順**2**と**3** を参照してください。
PBC機能のオン／オフについては61ページを参照してください。

DVD **音声方式の選択画面があらわれたときは**

音声方式について詳しくは「いろいろな音声効果を楽しむ」（☞36ページ）を参照してください。
リモコンのカーソル（▲/▼/◀/▶）を使って音声方式を選び、ENTER（エンター）（カーソルの中心）を押して確定します。
例えば、『DTS』（ディーティーエス）か『Stereo』（ステレオ）の選択をするときは、DTSを選んでください。本機ではDTSの再生ができます。

CD **音楽用 CD がディスクの最初から再生されないときは**

「お知らせ」（☞次ページ右下）の一項目を参照してください。

DVD **よりよい映像を得るためには**

DVDビデオを再生すると、通常はあらわれないノイズが時折画面にでることがあります。これはDVDビデオが高解像度で情報量が多いためです。ノイズ量はテレビにもよりますが、ノイズがでるときは、テレビのシャープネスをマイナス方向に調整してください。

リモコンを操作する前に

DVD機能を操作するときは、最初にMODE DVDを押します。
（数字とSEARCHボタンを使用しないときは、MODE AUDIOを押しても操作できます。）

DVD VCD

■ ディスクを取り出す　DVD VCD CD

⏏を押して、ディスクトレイを開く

ディスクトレイが完全に開いたら、デイスクを取り出します。
その後、再度⏏を押してトレイを閉じてください。

■ 再生を一時停止する　DVD VCD CD

再生中に ⏸（リモコンのみ）を押す

再生を再開するには、再度►を押してください。

DVD VCD **コマ送り再生をするには**

一時停止中に ⏸ を繰り返し押してください。押すごとに、1コマずつ進みます。通常の再生に戻すときは►を押してください。

お知らせ

一時停止中やコマ送り再生中は、音声は再生されません。

■ 再生を停止する　DVD VCD CD

■を押す

再度再生を始めるときは、►を押してください。再生を止めたところから再生が始まります。

お知らせ

再生が始まるところは、ディスクや再生場所によって異なります。

最初から再生を始めるには

再生停止後、もう一度■を押してから►を押してください。

DVD 現在のタイトルの始めから再生が始まります。
ディスクの始めから再生するときは、一度ディスクトレイを開き、そのまま閉じてから再生を始めます。

VCD CD ディスクの始めから再生が始まります。

お知らせ

再生を止めたところから再生が始まるのは止めた場所（ロケーション）が本機のメモリーに記録されているからですが、以下の場合は、メモリーが初期化されます。

- 電源コードをコンセントから抜いたとき
- 本機をスタンバイにしたとき
- ディスクトレイを開いたとき
- 『パレンタルロック』の設定を変えたとき（☞60ページ）や、『ディスクメニュー言語』を変えたとき（☞56ページ）
- 入力を切り換えたとき（DVDのみ）

お知らせ

- 音楽用CDをかけると、音声方式（DTS方式やPCM方式）を検知するまでの短い間、音声が再生されないことがあります。ディスクを最初から再生し直すときは、■を2回押してから再生を始めます。
- 再生中は本機を移動したり揺らしたりしないでください。ディスクを傷つけるおそれがあります。
- ディスクトレイを開け閉めするときは⏏を押してください。また、ディスクトレイが動いているときは、トレイに触れないでください。故障につながります。
- ディスクトレイを上から押さないでください。また、本機で再生可能なディスク以外のものをのせないでください。故障につながります。
- 映画などの再生が終わると、多くの場合メニュー画面があらわれます。メニュー画面を長く表示させているとそれがテレビ画面に焼き付いて、画面を傷める場合があります。これを避けるため、再生が終わったら、■を押してください。

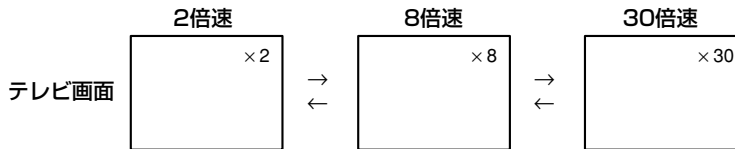
DVD ビデオ、ビデオ CD、音楽用 CD を再生する

■ 早送り、早戻しをする

DVD VCD CD

再生中に、►►（早送り）／◄◄（早戻し）を押す

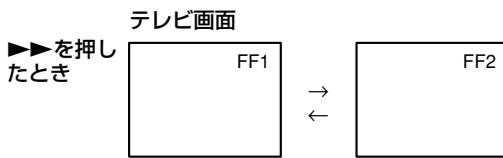
DVD 2倍速の早送り／早戻しになります。
同じボタンを押すたびに、以下のように再生速度が変わります。

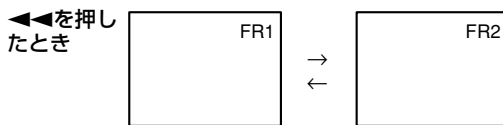
	2倍速		8倍速		30倍速
テレビ画面	×2	→←	×8	→←	×30

お知らせ

- 早送り、早戻し再生のときは、音声は再生されません。
- 2倍速、8倍速、30倍速はおおよその再生速度のめやすです。再生速度はディスクによって多少違います。

VCD CD 同じボタンを押すたびに、以下のように再生速度が変わります。

音楽用CDを再生しているときに右の画面を確認したいときは、テレビの電源を入れ、本機接続の入力に切り換えてください。

	テレビ画面		
►►を押したとき	FF1	→←	FF2
◄◄を押したとき	FR1	→←	FR2

お知らせ

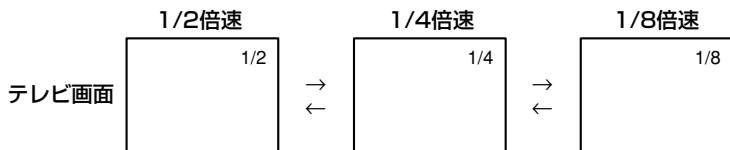
ビデオCDのときは、字幕言語は表示されず、音声も再生されません。
音楽CDのときは、音声が再生されます。

通常の再生に戻すときは、►を押します。

■ スローモーションで再生する

DVD VCD

再生中に、I►を押す

I►を押す度に、以下のように再生速度が変わります。

	1/2倍速		1/4倍速		1/8倍速
テレビ画面	1/2	→←	1/4	→←	1/8

お知らせ

スローモーション再生中は、音声は再生されません。

通常の再生に戻すときは、►を押します。

SEND LEARN
SLEEP ON STNBY
INPUT SELECTOR MODE
AUDIO DVD TA/MD TV
LISTENING MODE
SURR STEREO T－D A.CTRL
TITLE MENU
CH TUN ENTER VOL
RETURN SETUP TV/VCR
REPEAT A－B DIMMER MUTING
REC OPEN/CLOSE
RANDOM SLOW
SUBTITLE－ON / OFF ANGLE ZOOM
MEMORY CLEAR AUDIO DISPLAY
SW MODE TEST TONE
1 2 3
LATE NIGHT DISTANCE
4 5 6
SP A CH SEL
7 8 9
SP B T－D SETUP UP/ DOWN
+10 0 SEARCH
--/---
ONKYO
REMOTE CONTROLLER
RC-437M

ディスク再生中に使ういろいろな機能

以下の機能が使えます。34ページを参照してください。

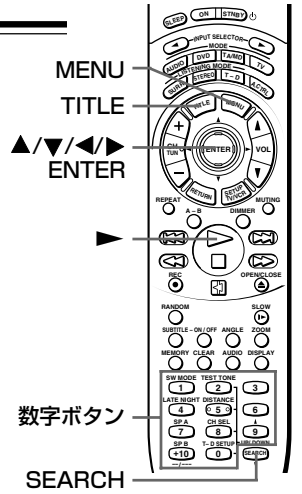
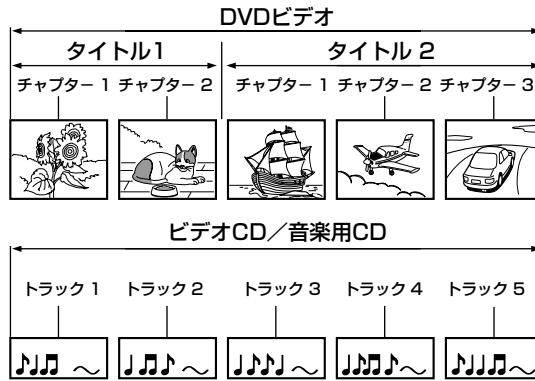
- SPEAKERS A、Bをオンオフする
- 音量を調節する
- 音声を一時的に小さくする〈ミュート機能〉
- ヘッドフォンで聞く
- 表示部の明るさを暗くする
- スリープタイマーを使う

いろいろな音声効果を楽しむ

36ページを参照してください。

タイトル／チャプター／トラックを指定して再生する

通常、DVDビデオは『タイトル』に分かれ、タイトルはさらに『チャプター』に分かれます。
ビデオCDや音楽用CDは『トラック』に分かれます。

ここではタイトルやチャプター、トラックを指定して再生する方法を説明します。

■ メニュー画面でタイトルを指定して再生する

DVDビデオにメニューがあるときは、そのメニュー機能を使用してタイトルを選べます。リモコンで操作します。

1 リモコンのみ

TITLE（タイトル）を押す（ディスクによってはMENU（メニュー）ボタンを押す）

メニューがテレビ画面に表示されます。

メニュー例

2

▲/▼/◀/▶ を押して、タイトルを選ぶ

お知らせ

タイトルに番号がついているときは、数字ボタンを押して直接タイトルを指定することもできます。

3

ENTER（エンター）を押す

選んだタイトルのチャプター1から再生が始まります。

お知らせ

- 上記の操作は基本的な説明で、実際はディスクによってことなる場合もあります。画面に操作方法が表示されたときはそれにしたがって操作してください。
- 再生中にTITLE（ディスクによってはMENU）を押してメニューを表示し、タイトルを選ばずに再度TITLE（ディスクによってはMENU）を押すと、通常、最初にタイトルを押したところから再生が始まります。（ディスクによってことなる場合があります。）
- ディスクにメニューが含まれていないとこの機能は使えません。
- ディスクの説明によってはこのメニューをトップメニュー（TOP（トップ） MENU（メニュー））と表現している場合もあります。

■ タイトルとチャプター番号を指定して再生する

DVD ビデオにタイトルとチャプターに対応した番号があるときは、それぞれの番号を指定してタイトルとチャプターを選ぶことができます。リモコンで操作します。

1 リモコンのみ

SEARCH（サーチ）を押す

『タイトル：』の右の数字が反転しているのを確認してください。（違う場所が反転しているときは、▲/▼で『タイトル：』の右を反転してください。

例：

タイトル　：　1
チャプター　：　1

2

数字ボタンを押して、タイトル番号を入力する

例：タイトル2を選ぶとき

2

タイトル　：2
チャプター　：　1

：タイトル12を選ぶとき

1 → 2

タイトル　：12
チャプター　：　1

タイトル番号の下のチャプター番号を変更する必要がないときは、手順**3**と**4**を飛ばし、手順**5**を行ってください。

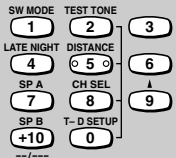
3

▼ を押して、『チャプター：』の右の数字を反転させる

タイトル　：　2
チャプター　：　1

（次ページへ続く）

4

数字ボタンを押して、チャプター番号を入力する

例：チャプター25を選ぶとき

2 → 5

タイトル　：　2
チャプター：　25

5

►を押す

選んだタイトル／チャプターから再生が始まります。

お知らせ

- 番号を入力するときは、+10（プラス10ボタン）を使用することもできます。

+10 → +10 → 5

タイトル　：　2
チャプター：　25

- タイトルやチャプターに対応した番号がディスクに入っていないとこの操作はできません。
- 入力したタイトルやチャプター番号を取り消したいときは、►を押す前に、CLEAR（クリア）を押します。手順1のタイトルとチャプター番号が表示されます。
- タイトル／チャプター画面を閉じるときは、SEARCHを数回押します。（押す回数はディスクによって違います。）

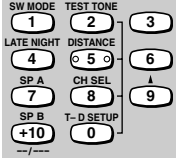
■ トラック番号を指定して再生する

VCD CD

トラック番号を指定して、特定のトラックから再生を始めることができます。リモコンで操作します。

1

リモコンのみ

数字ボタンを押して、トラックを選ぶ

例：トラック25を選ぶとき

トラック：25

2

►を押す

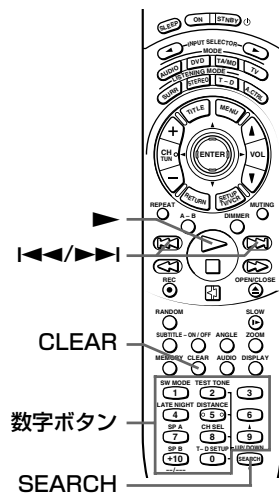
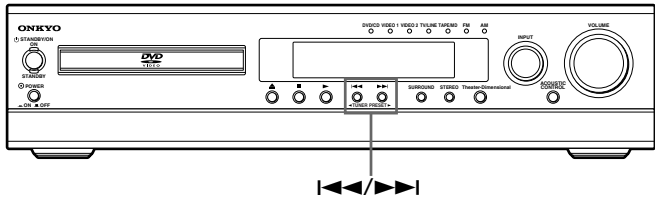
選んだトラックから再生が始まります。

お知らせ

- 番号を入力するときは、+10（プラス10ボタン）を使用することもできます。

+10 → +10 → 5

トラック：25

- 入力したトラック番号を取り消したいときは、►を押す前に、CLEAR（クリア）を押します。現在のトラック番号が表示されます。

■ 再生中や、前後のチャプター／トラックを頭出しする

DVD VCD CD

現在のチャプター／トラックから続いたチャプター／トラックを選んで再生することができます。

リモコン

I◀◀または▶▶Iを（繰り返し）押して、再生するチャプター／トラックの頭出しをする

I◀◀を1回押すと、現在のチャプター／トラックの頭から再生が始まります。

I◀◀を続けて押すと、押すごとに1つ前のチャプター／トラックに戻ります。

▶▶Iを押すと、押すごとに1つずつ次のチャプター／トラックに移ります。

お知らせ

- タイトルによってはチャプター番号を表示しないものもあります。
- 『タイトル停止』（☞61ページ）を『無し』に設定しているときは、他のタイトルのチャプターも続けて頭出しできます。
  ただし、I◀◀を押して前のタイトルに戻ったときは、そのタイトルの最初のチャプターから再生が始まります。
  『タイトル停止』を『有り』に設定していると、現在のタイトル内でのチャプターの頭出しになります。
- 一時停止中にチャプター／トラックを選んだときは、▶を押さないと再生は始まりません。

■ 経過時間を指定して再生を始める

DVD VCD CD

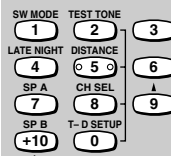
時、分、秒を指定して、再生を始めることができます。
リモコンで操作します。

1 リモコンのみ

SEARCH（サーチ）を2回押す

ディスクによっては2回以上押す必要があります。下の表示が画面にあらわれるまで押してください。

タイム –:– –:– –

2

数字ボタンを押して、時、分、秒を入力する

入力された数字は、入力フィールドの右端に表示され、次の数字を入力するごとに左へ移動します。

例：1→2→5→3→0

お知らせ

入力した経過時間がディスクの総再生時間より長いと、その経過時間はキャンセルされます。

3

▶を押す

指定した経過時間の場面から再生が始まります。

お知らせ

- 時、分、秒に10ずつプラスするときは、+10（プラス10ボタン）を使用することもできます。
- ディスクによってはこの機能は使用できません。
- 場面によっては指定した時間からずれて再生されることがあります。
- この機能は、DVDビデオディスクの場合は現在のタイトル内、ビデオCDや音楽用CDの場合は現在のトラック内ではたらきます。

FM ／ AM 放送を聞く

FM／AM放送を聞くには、手動でチューニングする方法と、放送局をプリセットして選局する、2つの方法があります。

手動でチューニングする

1 本体 INPUT

本体のINPUTつまみを回して、FMまたはAMを選ぶ

例：FMを選んだとき

87.5MHz --ch

お知らせ

FM、AMはリモコンでも選べます。（☞次ページ）

2 本体のみ TUNING

TUNING ◄/►を押して、放送局を選ぶ

放送局を受信すると、点灯します。

- TUNING ◄/► を押すごとに、FMの場合は0.1MHz単位で、AMの場合は9kHz単位で周波数が変わります。
- FMの場合、ボタンを0.5秒以上押し続けると、自動的に放送局の検索を始め、放送を受信すると自動的に止まります。

電波が弱くてFM放送局を受信できないときは

FM放送を受信すると、FM STインジケーターが表示部に点灯します。しかし電波が弱いと放送局を受信できません。

►●◄ FM MUTE
FM ST

このときは、FM MODEを押してください。

FM MUTEインジケーターが消え、モノラル受信となります。この状態で放送局を選んでください。（このときは、放送局間のノイズも聞こえます。）

本体のみ

►●◄

放送局をプリセットする

AM／FM交えて30局まで登録できます。

1

プリセットしたい放送局を左欄の手順で選ぶ

2 本体のみ PRESET MEORY

PRESET MEMORYを押す

MEMORYインジケーターが点灯し、プリセット番号が点滅します。

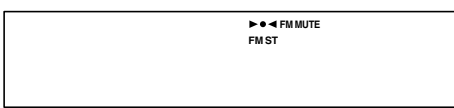
3

MEMORYインジケーターが点灯している間（約8秒）に、TUNER PRESET ◄/►を押して、放送局をプリセットする番号を選ぶ

4

PRESET MEMORYを押す

指定した番号に放送局がプリセットされました。

プリセットを続けるには、手順**1**～**4**を繰り返します。

プリセットした放送局を選ぶ

事前に放送局をプリセットしておく必要があります。
（☞前ページ）

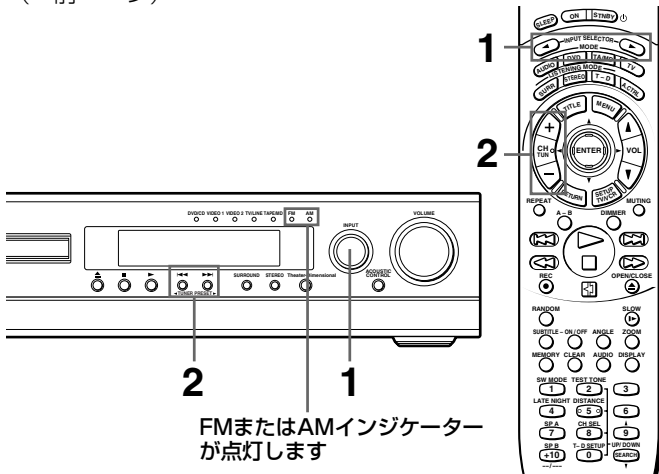
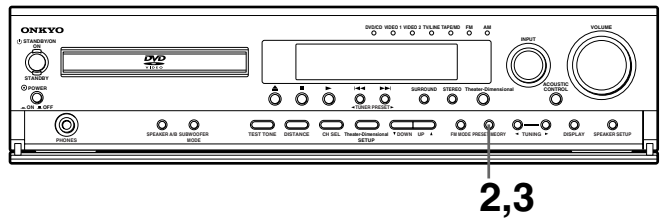
リモコンのINPUT SELECTOR ◄/►を押すか、本体のINPUTつまみを回して、FMまたはAMを選ぶ

FM、AMのどちらを選んでもかまいません。

リモコンのCH TUN +/−、または本体のTUNER PRESET ◄/►を押して、プリセット番号を選ぶ

88.1MHz 3ch

お知らせ

事前にMODE TVが押されていると、本手順の操作ができません（☞33ページ）。
この場合、MODE AUDIO等、他のMODEボタンを押してからCH TUN +/−を押してください。

プリセットした放送局を削除する

1 放送局を削除したいプリセット番号を左欄の手順で選ぶ

2 本体のみ
PRESET MEORY

PRESET MEMORYを押す

『ERASE?』が表示部にあらわれます。

Erase? 3ch

3
PRESET MEORY

『ERASE?』が表示されている間（約8秒）に、PRESET MEMORYを再度押す

選んだプリセット番号の放送局が削除されます。

AM／FM放送を聞きながら使ういろいろな機能

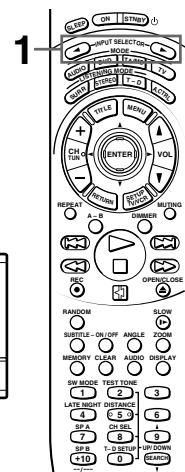
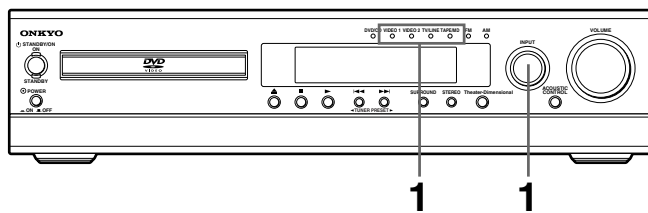
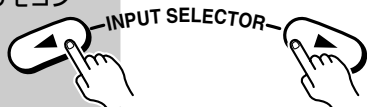
以下の機能が使えます。34ページを参照してください。

- SPEAKERS A、Bをオンオフする
- 音量を調節する
- 音声を一時的に小さくする〈ミュート機能〉
- ヘッドフォンで聞く
- 表示部の明るさを暗くする
- スリープタイマーを使う

いろいろな音声効果を楽しむ

36ページを参照してください。

接続した外部機器を再生する

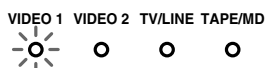
必要に応じて「テレビを接続する」（☞12ページ）と「オーディオ／ビデオ機器を接続する」（☞13ページ）も参照してください。

リモコンのINPUT SELECTOR ◄/►を押すか、本体のINPUTつまみを回して、以下の入力を選ぶ

- VIDEO 1
- VIDEO 2
- TV/LINE
- TAPE/MD

例：VIDEO 1を選んだときの表示部

VIDEO 1

例：VIDEO 1を選んだときの入力インジケーター

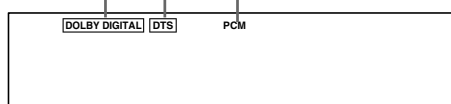
VIDEO 1　VIDEO 2　TV/LINE　TAPE/MD

2　選んだ入力に接続している外部機器の再生を始める

■ デジタル音声について

デジタル端子に接続している機器からのデジタル音声は、自動的にアナログ音声から切り換わって処理されます。

- 入力をVIDEO 1にすると、DIGITAL INPUT 1端子からのデジタル音声が再生されます。
- 入力をVIDEO 2にすると、DIGITAL INPUT 2端子からのデジタル音声が再生されます。

デジタル音声を認識すると、その音声方式によって、DOLBY DIGITAL、DTS、PCM（2チャンネルデジタルステレオ）、いずれかのインジケーターが表示部に点灯します。

DOLBY DIGITAL　DTS　PCM

お知らせ

外部機器からのデジタル信号は、DOLBY DIGITAL、DTS、PCMのみ再生できます。

■ VIDEO 2の映像を鑑賞しながら、接続した外部機器の音声や、FM／AM放送を楽しむ

VIDEO 2に接続したAV機器を再生し、TAPE/MD、または、FM、AM、TV/LINEのいずれかの入力を選ぶと、VIDEO 2の映像と、選んだ入力の音声を同時に鑑賞することができます。

音楽／映画を鑑賞しながら使ういろいろな機能

以下の機能が使えます。34ページを参照してください。

- SPEAKERS A、Bをオンオフする
- 音量を調節する
- 音声を一時的に小さくする〈ミュート機能〉
- ヘッドフォンで聞く
- 表示部の明るさを暗くする
- スリープタイマーを使う

いろいろな音声効果を楽しむ

36ページを参照してください。

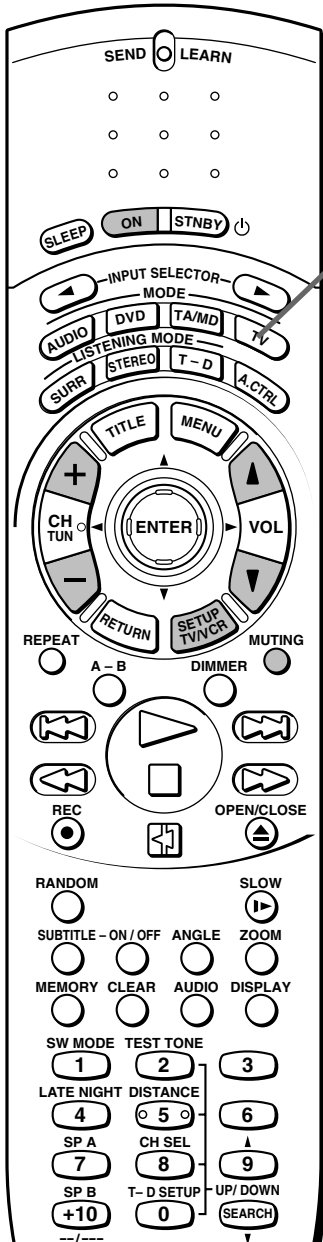
付属のリモコンで、テレビや、オンキヨー製MDレコーダー／カセットテープデッキを操作する

■ テレビを操作する

テレビ操作の前に、リモコンに学習させる必要があります（☞66ページ）。

操作するときは、リモコンをテレビに向けます。

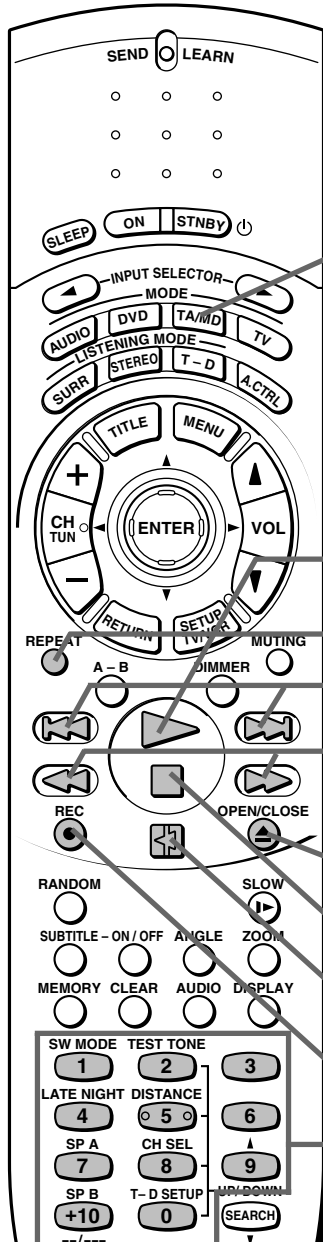
MODE TVを押してから、操作します。

下のリモコンのイラストで、色（グレー）のついたボタンに、テレビのリモコンの信号を学習させて使うことができます。

■ オンキヨー製MDレコーダーもしくはオンキヨー製カセットテープデッキを操作する

リモコンに学習させる必要はありませんが、RI端子接続が必要です（☞17ページ）。

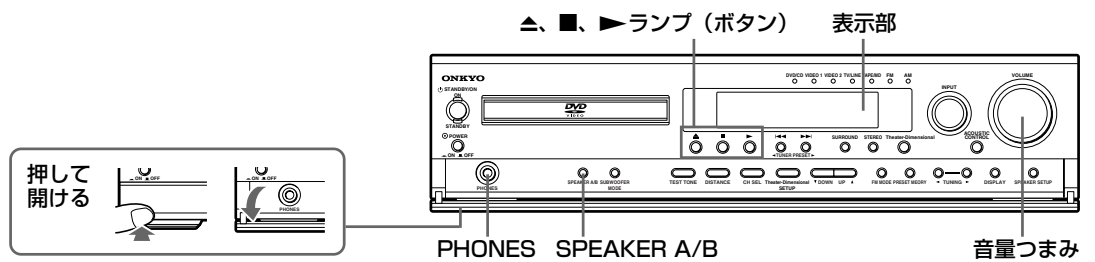
操作するときは、リモコンを本機に向けます。

MODE TA/MDを押してから、操作します。

TA/MD

お知らせ

機種によっては、リモコン信号の違いにより、働かない場合があります。

	MDレコーダー	カセットテープデッキ
►	再生	再生
REPEAT	リピートモード	–
⏮ ⏭	ダウン アップ	巻き戻し 早送り
◄◄ ►►	早戻し 早送り	– –
⏏	取り出し	トレイ開閉
■	停止／取り消し	停止
(リバース)	一時停止	リバース再生
● REC	録音	録音／録音一時停止
1~9, 0 +10 --/---	数字ボタン	–

すべての入力に共通したいろいろな機能

SPEAKERS A、Bをオンオフする

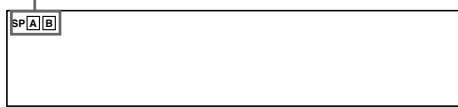
SPEAKERS A端子、SPEAKERS B端子に接続したスピーカーシステム（☞15ページ）のオン、オフをします。

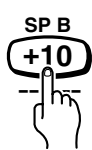
お知らせ

スピーカーシステムBをオンにすると、スピーカーシステムAも強制的に2チャンネル（ステレオ）音声になります。（リスニングモードが『Stereo』になります。（☞40ページ）

後でスピーカーシステムBをオフにしても、他のリスニングモードを選ぶまでは、『Stereo』のまま変わりません。

本体の表示部に点灯しているスピーカーシステムが、オンになっています。

SP A B

■ リモコンで操作する

SP Aを押す度に、スピーカーシステムAのオンオフが切り換わります。

SP Bを押す度に、スピーカーシステムBのオンオフが切り換わります。

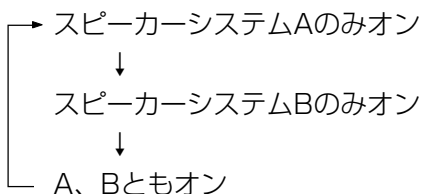
お知らせ

両方のスピーカーシステムを同時にオフにすることはできません。

■ 本体で操作する

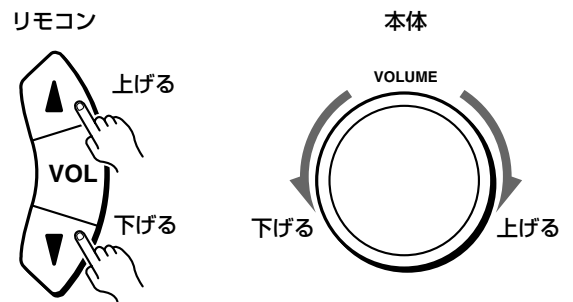
SPEAKER A/Bを繰り返し押す

押す度に、以下のように切り換わります。

スピーカーシステムAのみオン
↓
スピーカーシステムBのみオン
↓
A、Bともオン

音量を調節する

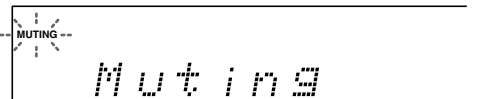
左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーの音量を同時に調節します。

ヘッドフォンを接続しているときは（☞次ページ）、ヘッドフォンの音量を調節します。

リモコンのVOL ▲／▼を押すか、本体の音量調節つまみを回す

音声を一時的に小さくする〈ミュート機能〉

リモコンのみ

MUTINGを押す

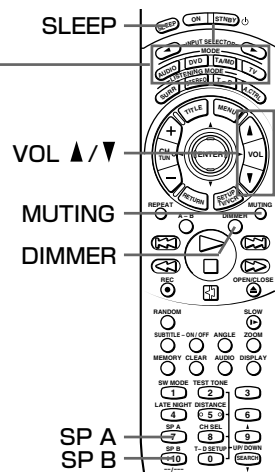
『Muting』が約3秒間多目的表示部にあらわれます。
ミュート機能が働いている間は、MUTINGインジケーターが表示部で点滅しています。

MUTINGをもう一度押すと、元の音量に戻ります。

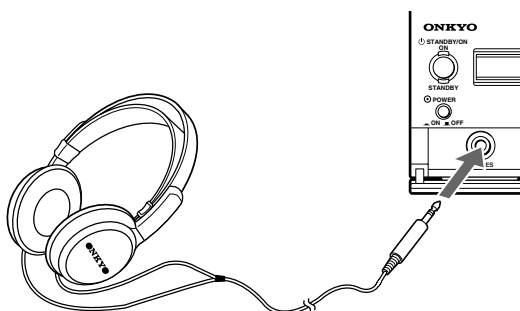
お知らせ

電源を切り、再度電源を入れてもミュート機能は解除します。

MODEボタンと、34、35ページで説明されている操作との関係

操作＼ボタン	MODEボタン			
	AUDIO	DVD	TA/MD	TV
SLEEP	●	●	●	–
VOL ▲/▼	●	●	●	※1
MUTING	●	●	●	※1
DIMMER	●	●	–	–
SP A	●	※2	※3	–
SP B	●	※2	※3	–

● 34、35ページの操作説明どおりに働きます。
– 働きません。
※1 学習させていると（☞66ページ）、テレビを操作します。
学習させていないと働きません。
※2 内蔵DVDプレーヤーを操作するときの、数字ボタンの一つとして働きます。
※3 オンキヨー製MDレコーダーを操作するときの、数字ボタンの一つとして働きます。

ヘッドフォンで聞く

ヘッドフォンを本体のPHONES（フォン）端子に接続する

お知らせ

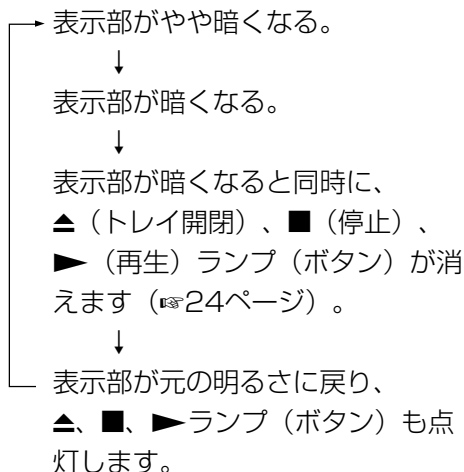
- ヘッドフォンを接続すると、スピーカーからは音声は出力されません。
- 音声は自動的にステレオ音声になります。（リスニングモードが『Stereo』になります。☞38ページ）
  ヘッドフォンを抜くと、接続前のリスニングモードに戻ります。

表示部の明るさを暗くする

リモコンのみ

DIMMER（ディマー）を押す

押す度に、以下のように明るさが変わります。

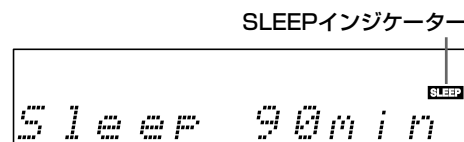
→ 表示部がやや暗くなる。
↓
表示部が暗くなる。
↓
表示部が暗くなると同時に、⏏（トレイ開閉）、■（停止）、►（再生）ランプ（ボタン）が消えます（☞24ページ）。
↓
表示部が元の明るさに戻り、⏏、■、►ランプ（ボタン）も点灯します。

スリープタイマーを使う

リモコンのみ

SLEEP（スリープ）を押す

『Sleep 90min』が多目的表示部に約5秒間あらわれ、SLEEPインジケーターが表示部に点灯します。

90分後に電源が切れてスタンバイになります。

SLEEPインジケーター

SLEEP
Sleep 90min

SLEEPを押すごとに、電源の切れる残り時間が10分ずつ少なくなります。

■ スリープタイマーの残り時間を確認する

スリープタイマーをセットした後で、SLEEPを押す

残り時間が表示されます。

残り時間表示中にSLEEPを押すと、押す度に、電源の切れる残り時間が10分ずつ少なくなります。

■ スリープタイマーをキャンセルする

SLEEPインジケーターが消えるまで、SLEEPを繰り返し押す

いろいろな音声効果を楽しむ

本機のサラウンド効果で、お部屋に映画館やコンサートホールの臨場感を再現することができます。
サラウンド効果を再現するには、スピーカーの設定を正しく行う必要があります（☞19〜23ページ）。
また、スピーカー構成（☞15ページ）や、スピーカーの配置（☞14ページ）も重要な要素です。
まず始めに本機で再生可能な音声方式を説明します。

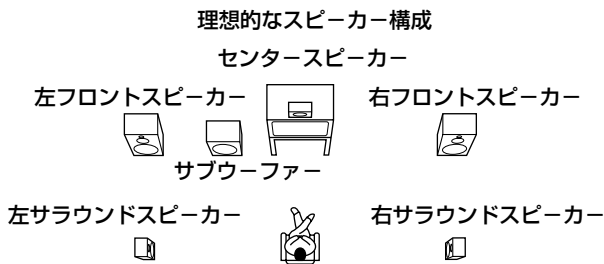
■ DOLBY DIGITAL（ドルビー デジタル）サラウンドとDTS（ディーティーエス） (Digital Theater System（デジタル シアター システム）)サラウンド

理想的なスピーカー構成

センタースピーカー

左フロントスピーカー　右フロントスピーカー

サブウーファー

左サラウンドスピーカー　右サラウンドスピーカー

この音声は、5.1チャンネルデジタルサラウンド方式です。5つ（左右フロント、センター、左右サラウンド）のフルレンジ（20Hz-20kHz）チャンネルと、低音域効果のためのLFE（エルエフイー）（Low（ロー） Frequency（フリクエンシー） Effect（イフェクト））チャンネルが独立して記録されており、再生することができます。これにより、劇場やコンサートホールの臨場感を再現することができます。

DOLBY DIGITAL（ドルビーデジタル）サラウンド

DOLBY DIGITAL マークのついたDVDビデオはこの音声方式で記録されています。外部機器からのドルビーデジタルサラウンド音声を本機を通して再生するには、デジタル接続が必要です。

DTSサラウンド

DTS マークのついたDVDビデオや音楽用CDがこの音声方式で記録されています。外部機器からのDTSサラウンド音声を本機を通して再生するには、デジタル接続が必要です。

DTS音声についてのお知らせ

- DTSサラウンド音声がエンコードされたディスクを本機で再生したり、 デジタル接続した外部機器で再生したりすると、本機のDTSデコーダーが、DTSがエンコードされた信号を検知し解析しだすまでの短い間、ノイズが発生することがあります。これは機械の故障ではありません。
- DTSサラウンド音声の再生中に早送り、早戻しをしたり、一時停止したり、チャプター／トラックをスキップしたりすると、ノイズが発生することがあります。これは機械の故障ではありません。
- DTSサラウンド音声の再生を止め、DTS信号の入力が止まっても、本機はDTSモードを解除せず、表示部のDTSインジケーターも消えません。これは、一時停止、早送り、早戻し、チャプター／トラックのスキップをするときに発生するノイズを回避するためです。このため、DTS信号がPCM（ピーシーエム）（2チャンネルデジタルステレオ）信号に突然変わると、PCM信号は再生されません。このときは、再生を3秒ほど止めてから再生を始めてください。
- CDプレーヤー（本機は音楽用CDも再生できますが、もし本機にCDプレーヤーを接続していた場合）やLDプレーヤーによってはDTSサラウンド音声を正しく再生できないものがあります。この場合、いくらデジタル接続をしても、再生されたデジタル信号（出力レベル、サンプリング周波数、周波数反応など）は、本機ではDTS信号として検知することができず、正しい音声の代わりにノイズが発生してしまいます。

■ Dolby Pro Logic（ドルビープロロジック）サラウンド

このサラウンド方式は、4チャンネル（左右フロント、センター、左右サラウンド）で構成されています。この方式は、音楽や会話における音の移動や、フロント3チャンネルからの音の3次元空間を表現するのにとても効果的です。また、劇場の脇や後ろの壁から反響するサラウンド音声効果や雰囲気も強調します。

DOLBY SURROUND マークのついたVHSビデオ、VHS Hi-Fiビデオ、LD、DVDビデオがこの音声方式で再生するのに適しています。

■ オンキヨーのオリジナル音声効果、DSP（ディーエスピー） (Digital（デジタル） Signal（シグナル） Processing（プロセッシング）)モード

ドルビーデジタルやDTSサラウンド音声以外の音声に、オンキヨー独自のDSP効果をかけあわせることができます。

Orchestra（オーケストラ）

クラッシックやオペラに適した音声効果です。センターチャンネルをカットし、サラウンドチャンネルを強調することでステレオイメージの広がりを強調します。
大ホールにいるかのような自然な音響効果を高めます。

Unplugged（アンプラッグド）

ボーカルやジャズなど、アンプを使わない楽器演奏に適した音声効果です。
フロントステレオイメージを強調して、ステージのまん前にいるかのような音響効果を高めます。

Studio-Mix（スタジオミックス）

ロック、ポピュラーミュージックなどに適した音声効果です。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV Logic（ティーヴィー ロジック）

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適した音声効果で、局のスタジオにいるような臨場感を高めます。
すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch Stereo（オール チャンネル ステレオ）

バックグラウンドミュージックに適した音声効果です。
フロントとサラウンドチャンネルが立体音響効果を高めます。

■ Theater-Dimensional※（T-D）モード

理想的なホームシアターは、14ページで説明されているすべてのスピーカーを接続し、正しく配置した状態で実現されます。しかし、実際にはフロントスピーカーしかなかったり、サラウンドスピーカーを正しい位置に置けなかったりする場合もあるかもしれません。

そのような場合は、シアターディメンショナルモードを使うことで、マルチチャンネルサラウンド音声を楽しむことができます。シアターディメンショナルモードは、20ページ、または、21ページで設定したスピーカーのチャンネル数に応じて、出力チャンネルを振り分け、最適なバーチャルサラウンド再生を行います。

スピーカー設定の重要性

ホームシアターの音声再生にとって、各スピーカーの音圧調整（キャリブレーション）が非常に重要です。これは、バーチャルサラウンド再生においても同じです。

特にバーチャルサラウンド信号を再生する2つのスピーカーのレベル調整（レベルマッチング）と、時差調整（タイムアラインメント）は、通常のマルチチャンネル再生以上に重要な要素になります。

本機では、マルチチャンネル再生用のキャリブレーションとして以下の設定、調整があり、その結果、最適なレベルマッチングが行われます。

- 「視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定する」（☞22ページ）
- 「各スピーカーの音量バランスの調整をする〈Test Tone〉」（☞23ページ）

お知らせ

- サラウンドチャンネル信号を含む入力音声（ドルビーデジタルやDTSサラウンドのようなマルチチャンネル音声）の場合は、サラウンドチャンネル信号がバーチャル処理されます。
- 2チャンネルの入力音声の場合、サラウンドチャンネル要素はドルビープロロジック処理により自動的に抽出され、その後、バーチャル処理されます。
- モノラルや、3チャンネルステレオ音声の場合は、サラウンドチャンネル信号が含まれていないため、バーチャルサラウンド効果は働きません。

※ Theater-Dimensionalは、当社で開発されたバーチャルサラウンド技術です。この技術はバーチャルドルビーデジタルおよびバーチャルドルビーサラウンドとして米国ドルビー社から認可されています。

入力音源と選択できるリスニングモード

選択できるリスニングモードは、入力音源のタイプによって異なります。以下の表で確認してください。（●のリスニングモードが選択できます。）

入力音源の信号 →	アナログ/PCM	ドルビーデジタル	DTS
考えられる → 音源 リスニングモード ↓	カセットテープ 音楽用CD ビデオCD レコード FM放送 AM放送	DVDビデオ LD デジタル衛星放送	DVDビデオ 音楽用CD LD
Stereo	●	●	●
Theater-Dimensional	●	●	●
DOLBY DIGITAL		●	
DTS			●
DOLBY PRO LOGIC/3 Stereo※	●		
Orchestra	●		
Unplugged	●		
Studio-Mix	●		
TV Logic	●		
All Ch Stereo	●		

※「Dolby Pro LogicとオンキヨーのオリジナルDSPモードを使う」（☞40ページ）

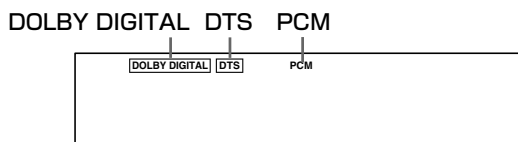
お知らせ

- サンプリング周波数が48kHzよりも高いPCM音声（DVDビデオなど）を再生すると、リスニングモードは『Stereo』になります。
- DTS音声再生中にリスニングモードを『Stereo』にしたいときは、「スピーカー構成を設定する」（☞21ページ）の手順にしたがって、『Speaker 2ch』を設定してください。それ以外のスピーカー構成が設定されていると、音源によっては、意図された音が再生されない場合があります。

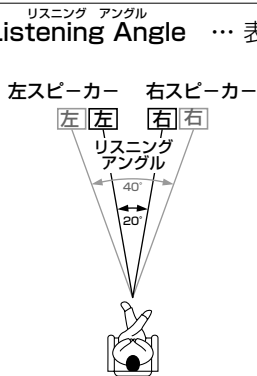
再生している音声方式を確認する

ドルビーデジタル（DOLBY DIGITAL）、DTS（dts）、PCMデジタル（2チャンネルデジタルステレオ）音声は、自動的に検知され、表示部に表示されます。

DOLBY DIGITAL　DTS　PCM

DOLBY DIGITAL　DTS　PCM

Theater-Dimensionalモードを選択する

シアターディメンショナルモードは、視聴者の左右の耳に届く音声特性を操作する技術です。このため、シアターディメンショナル効果を最もよく体験できる場所（スウィートスポット）が存在します。
最適なシアターディメンショナル効果を得るために、スウィートスポット、その他の要素の調整を行ってください。

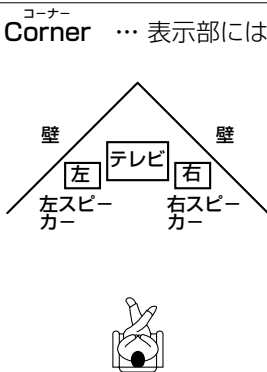
● **Listening Angle** … 表示部には、『Lisng. Angle』と表示されます。（工場出荷時には、『Normal』が設定されています。）

左と右のスピーカーが離れるほど、視聴者との角度が広がります。

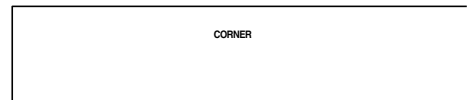
視聴者と、バーチャルサラウンド信号を再生する左右のスピーカーとの角度をリスニングアングルと呼んでいます。以下の場合にリスニングアングルの調整が必要です。

● **サラウンドスピーカーがスピーカー構成にない場合**
（20ページで、サラウンドスピーカーのフィールドに『0』を設定したとき、または、21ページで、『Speaker 2ch』または『Speaker 3ch』を設定したとき。）
リスニングアングルの対象は、左右フロントスピーカーです。（バーチャルサラウンド信号は左右フロントスピーカーが再生します。）

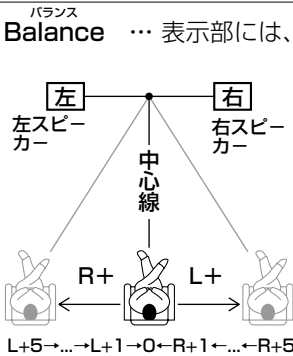
● **サラウンドスピーカーは接続しているが、正しい位置に置けない場合**
この場合、左サラウンドスピーカーは左フロントスピーカーの上か外側に、右サラウンドスピーカーは右フロントスピーカーの上か外側に置いてください。
リスニングアングルの対象は、左右サラウンドスピーカーです。（バーチャルサラウンド信号は左右サラウンドスピーカーが再生します。）

リスニングアングルには、Normal（30°）、Wide（40°）、Narrow（20°）の3つの設定が用意されています。（　）内は、その設定を選んだときの理想的な角度です。
視聴位置で、最もサラウンド効果が得られる設定を選んでください。

● **Corner** … 表示部には、『Corner』と表示されます。（工場出荷時には、『Off』が設定されています。）

シアターディメンショナルは壁からの反射音ではなく、スピーカーからの直接音を操作します。したがって、部屋の角にスピーカーを配置したときのように、スピーカーと壁との距離が近すぎると、反射音が視聴者にすぐに届いてしまい、バーチャルサラウンド音声に干渉してしまいます。
このようなときは、コーナーを『On』にしてみてください。状況により改善される場合があります。『On』にすると、表示部にCORNERインジケーターが点灯します。

CORNER

お知らせ

コーナーモードを『On』にしてもバーチャルサラウンド音声が改善されないときは、スピーカー配置を変えるか、壁に吸音材を貼るなどの処置をしてください。

● **Balance** … 表示部には、『Balance』と表示されます。（工場出荷時には、『0』が設定されています。）

視聴者は、左右のスピーカーの中心線上にいなければなりません。しかし、状況によりどうしても中心線上で鑑賞できないときは、バランス調整することができます。
R+5、R+4、R+3、R+2、R+1、0、L+1、L+2、L+3、L+4、L+5の11種類の設定があります。『0』が、視聴者が左右スピーカーの中心線上にいるときの設定です。
視聴者がフロントスピーカーに向かって、中心線より左にいる場合は『R+』の数字を、右にいる場合は『L+』の数字を、また、中心線から離れるほど大きい数字を選びます。
視聴位置で、最もサラウンド効果が的確に得られる設定を選んでください。

お知らせ

- バランス調整による効果は、実際に中心線上にいるときの効果よりは劣ります。
- 鑑賞位置が中心線から遠すぎると、調整範囲外となり、バランス調整がうまく働かない場合があります。

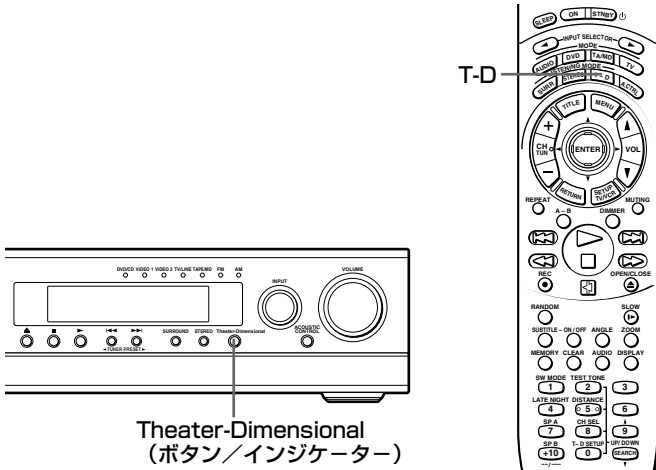
● **Dialog Mode** … 表示部には、『Dialog Mode』と表示されます。（工場出荷時には、『Normal』が設定されています。）

映画や場面によって、センターチャンネルにある台詞や会話が、音楽や他の音声効果のために聞き取りにくい場合は、ダイアログモードを『Enhance』に設定してください。

お知らせ

- この調整は、センターチャンネルにある台詞（会話）音声を強調します。ほとんどの映画の場合、台詞音声はセンターチャンネルに振り分けられていますが、そうでない場合は効果がありません。
- 再生しているソフトによってはあまり効果のない場合があります。

■ シアターディメンショナルモードをオンにする

このリスニングモードに対応する音源については、「入力音源と選択できるリスニングモード」（☞37ページ）を参照してください。

Theater-Dimensional
（ボタン／インジケーター）

リモコンのT-D、または、本体のTheater-Dimensionalを押す

表示部に、『Theater-Dimensional』がスクロール表示され、本体のTheater-Dimentionalインジケーターが点灯します。

お知らせ

- シアターディメンショナルモードは、以下の場合は選べません。
  - ミュート機能がオンになっているとき（☞34ページ）
  - ヘッドフォンを接続しているとき（☞35ページ）
  - SPEAKERS Bをオンにしているとき（☞34ページ）
  - サンプリング周波数が48kHzよりも高いPCM音声を再生しているとき
- シアターディメンショナルモードは、以下の場合は解除され、Theater-Dimensionalインジケーターが消えます。
  - 別のリスニングモードを選んだとき（☞40ページ）
  - シアターディメンショナルの選択が不可能な音声に切り換わったとき（☞37ページ）

■ シアターディメンショナルモードの設定内容を変更する

設定変更する前に
リモコンで設定変更を行うときは、最初にMODE AUDIOを押します。

1 **シアターディメンショナルモードをオンにする（☞左欄）**

2 リモコン / 本体

リモコンのT-D SETUP、または、本体のTheater-Dimensional SETUPを繰り返し押して、変更する項目を選ぶ

以下の順序で項目が切り換わります。

Lisng. Angle → Corner → Balance → Dialog Mode → 通常表示 → Lisng. Angle

3 リモコン / 本体

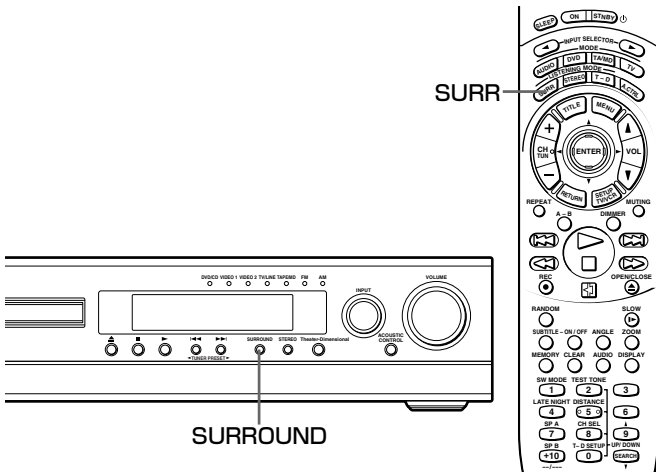
リモコンのUP ▲/DOWN ▼、または、本体の▼ DOWN／UP ▲を押して、手順2で選んだ項目の設定を選ぶ

設定についての詳しい説明は、前ページを参照してください。

次の項目の設定をするときは、手順**2**と**3**を繰り返します。

シアターディメンショナルモードの設定内容の変更を終了するときは、手順**2**にしたがって、通常表示に戻します。

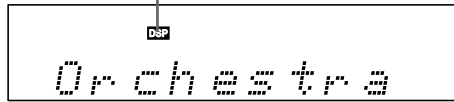
Dolby Pro Logicとオンキヨーのオリジナル DSPモードを使う

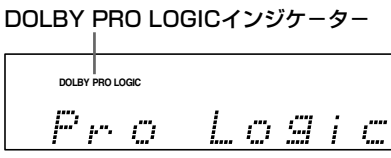
このリスニングモードに対応する音源については、「入力音源と選択できるリスニングモード」（☞37ページ）を参照してください。

リモコンのSURRか、本体のSURROUNDを押して、『Dolby Pro Logic』か、DSPモードを選ぶ

ボタンを1回押すと、現在の設定が表示されます。
設定表示中に繰り返しボタンを押すと、モードが切り換わります。

DSPインジケーター

各モードは、次の順序で表示部にあらわれます。

Dolby Pro Logic※ → Orchestra
↑ ↓
All Ch Stereo　Unplugged
↑ ↓
TV Logic ← Studio-Mix

※
- ドルビーサラウンド音声の再生に適しています。
- 表示部に『Pro Logic』が表示され、DOLBY PRO LOGICインジケーターが点灯します。

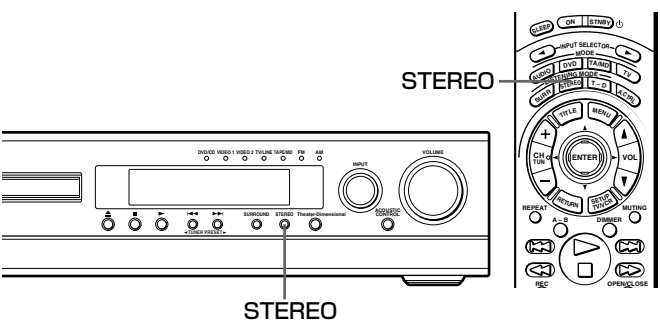
DOLBY PRO LOGICインジケーター

- 以下の場合は、『Pro Logic』の代わりに『3 Stereo』が表示されます。
  - オンキヨー製のスピーカー設定（☞20ページ）で、センタースピーカーに『0』以外の数値を、サラウンドスピーカーに『0』を設定したとき
  - オンキヨー製以外のスピーカー設定（☞21ページ）で、『Speaker 3CH』を設定したとき
- 以下の場合は、表示されません。
  - オンキヨー製のスピーカー設定（☞20ページ）で、センタースピーカーとサラウンドスピーカーの両方に『0』を設定したとき
  - オンキヨー製以外のスピーカー設定（☞21ページ）で『Speaker 2CH』を設定したとき

お知らせ

別のリスニングモード［Stereo（☞下記）またはシアターディメンショナルモード（☞38ページ）］を選んだ後で、リモコンのSURR、または本体のSURROUNDを押すと、前回の設定にかかわりなく、『Pro Logic』（『3 Stereo』）の選択から始まります。

DVDビデオのドルビーデジタル音声にDSPモードを使うには

再生中の音声信号方式を、メニュー画面を使って違う方式に変換することができます（☞50ページ）。
例えば、ドルビーデジタルサラウンド音声を再生するときに、出力設定をPCM（48kHz/16bit）に変えてスピーカーから出力すると、ドルビーデジタルサラウンド音声の代わりに、DSPモードによる音声効果を楽しむことが可能になります。

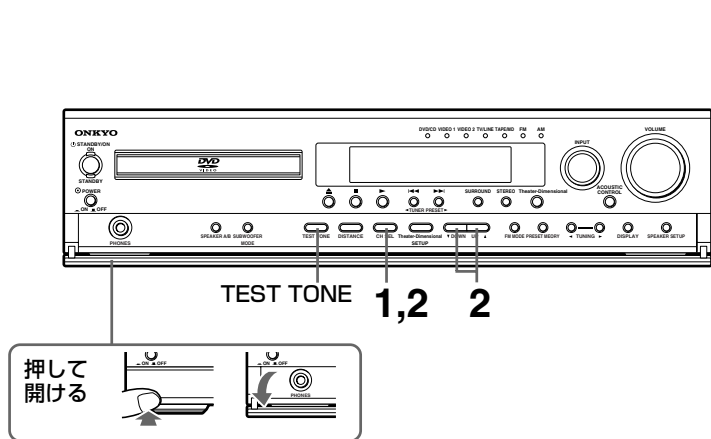
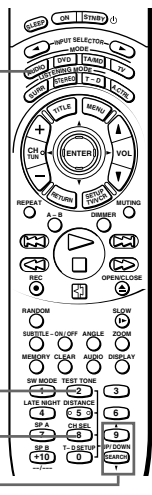
ステレオ音声にする

STEREOを押す

リスニングモードが『Stereo』になり、表示されます。また、STEREOインジケーターが点灯します。

STEREOインジケーター

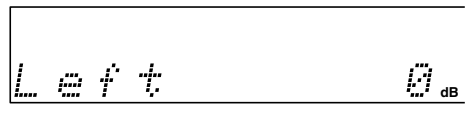
STEREO
Stereo

各スピーカーの音量バランスを一時的に調整する

再生している音声を聞きながら、各スピーカーの音量バランスをお好みで調整することができます。
ここで調整した音量バランスは、本機の電源を切るか、主電源をオフにすると、23ページで調整した値に戻ります。
ここで調整した音量バランスを記憶させることもできますが、その場合は、23ページで調整した音量バランスは消えてしまいます。

1

（各スピーカーからの音量を確認する）

音声再生中に、CH SEL（チャンネル セレクト）を（繰り返し）押す

次の順序でスピーカーが表示され、表示されたスピーカーのみから音声が出力されます。

Left（左フロント）
↓
Center（センター）
↓
Right（右フロント）
↓
Surr R（右サラウンド）
↓
Surr L（左サラウンド）
↓
Subwfr（サブウーファー）
↓
音量バランス調整モードがオフになります。

お知らせ

設定したスピーカー構成にないスピーカーは（実際は接続していても）、選ばれません。

2

（各スピーカーの音量を調整する）

音声再生中にCH SELを（繰り返し）押してスピーカーを選び、リモコンのUP（アップ） ▲/DOWN（ダウン） ▼、または、本体の▼ DOWN（ダウン）／UP（アップ） ▲を押して、音量を調整する

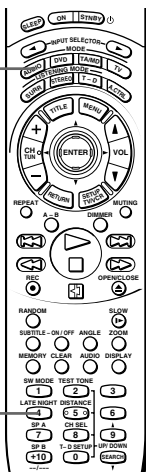
音量レベルは－12dB～+12dBの間で調整できます。

■ 調整した内容を記憶させるには

TEST TONE（テストトーン）を押す

LATE NIGHTとFRONT EFFECT機能を使う

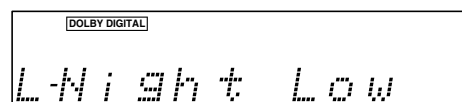
● **LATE NIGHTはドルビーデジタルサラウンド音声に対してはたらきます。**
夜に映画などを音量をしぼって鑑賞するときに、この機能を『Low』または『High』にします。ダイナミックレンジを狭くして、聞きやすくします。

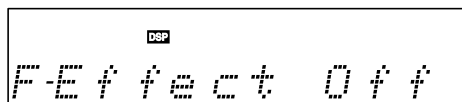
● **FRONT EFFECTはAll Ch Stereo以外のDSP音声効果に対してはたらきます。**
すでに反響音が記録された音声にDSP音声効果をかけると、反響効果が重なって音が不明瞭になるときがあります。そんなときにこの機能を『Off』にすると、DSPは左右フロントとセンタースピーカーに対する反響音効果を停止します。

リモコンのみ

LATE NIGHTを押す

現在の設定が表示されます。
表示中にボタンを（繰り返し）押すと、設定が切り換わります。

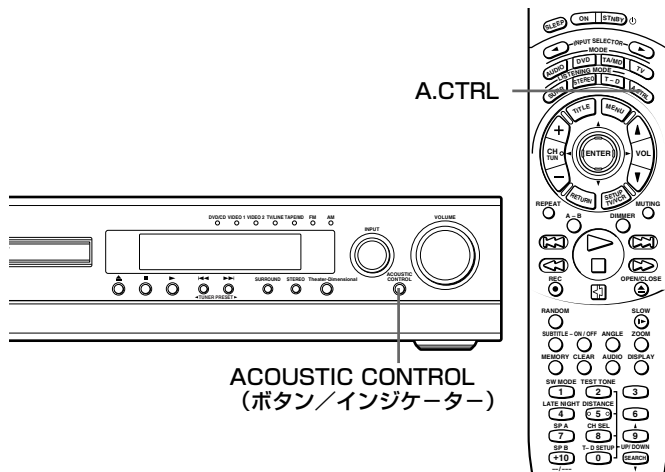
● DOLBY DIGITALサラウンド音声再生中は、『L-NIGHT』の『Low』、『High』、『Off』から選択できます。

DOLBY DIGITAL
L-Night Low

● DSP音声効果使用中は、『FRONT EFFECT』の『Off』か『On』を選択できます。

DSP
F-Effect Off

お知らせ

LATE NIGHT機能は、再生しているドルビーデジタルのソフトによって効果がうすかったり、なかったりする場合があります。

重低音／高音を強調する〈Acoustic Control〉

小音量でも、重低音や高音を強調した迫力のあるサウンドを楽しむことができます。音声方式に関係なく設定できます。

リモコン

リモコンのA.CTRL、または、本体のACOUSTIC CONTROLを押す

ボタンを押す度に、以下のようにモードが変わります。

『A. Ctrl 1』（アコースティックコントロール1）が表示され、ACOUSTIC CONTROLインジケーターがオレンジに点灯します。

重低音が強調されます。

↓

『A. Ctrl 2』（アコースティックコントロール2）が表示され、ACOUSTIC CONTROLインジケーターが緑に点灯します。

重低音がさらに強調され、高音も強調されます。

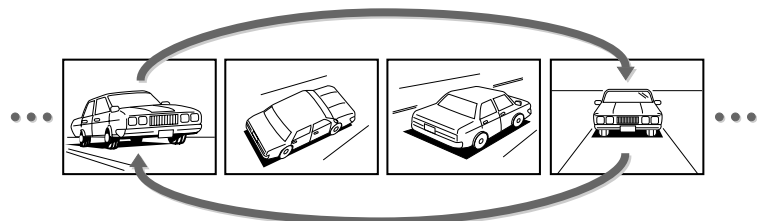
↓

『A. Ctrl Off』（アコースティックコントロール　オフ）が表示され、ACOUSTIC CONTROLインジケーターが消えます。

A. Ctrl 2

繰り返し再生をする〈リピート再生〉

選んだタイトルやチャプター、トラックを繰り返し再生したり、
ある部分を選び、そこだけ繰り返し再生したりすることができます。

リモコン操作をする前に
MODE DVD
（またはMODE AUDIO）を
押します。

DVD VCD CD

選んだタイトル、チャプター、トラックをリピート再生する

1 リピート再生したいタイトル、チャプター、トラックを選ぶ
（☞27〜29ページ）

2 リモコンのみ

REPEAT

REPEAT（リピート）を押す
本体表示部に、REPEATインジケーターが点灯します。
画面表示とリピートモードは、押す度に、以下のように変わります。

DVD

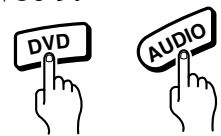
VCD CD

■ 通常再生に戻すには

CLEAR

CLEAR（クリア）を押す

お知らせ

ディスクによってはリピート再生はできません。

DVD VCD CD

選んだ部分だけを繰り返して再生する〈A-Bリピート再生〉

A点とB点を選び、A点からB点までを繰り返し再生します。

1 リモコンのみ

A – B

繰り返しを始めるところで、A-B（エー ビー）を押す
A点が設定されます。
画面には、『A-』が点滅表示し、本体表示部にA-B（エービー） REPEAT（リピート）インジケーターが点灯します。

A–

2 A – B

繰り返しの終わりで、A-Bを押す
B点が設定されます。
自動的にA点に戻り、A-Bリピート再生が始まります。
画面には、『A-B』が点灯し、本体表示部には引き続きA-B REPEATインジケーター表示が点灯します。

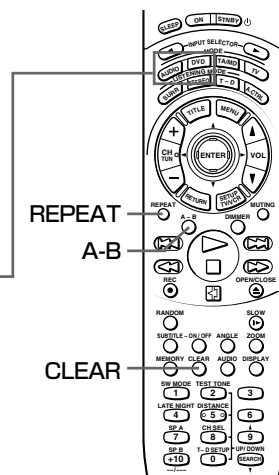
A–B

■ 通常再生に戻すには

CLEAR

CLEAR（クリア）を押す

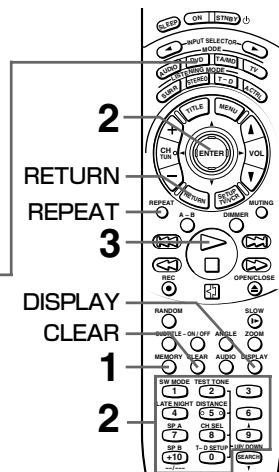
お知らせ

- ディスクによってはA-Bリピート再生はできません。
- A-Bリピート再生は、選んだタイトル内、トラック内ではたらきます。
- マルチアングルで記録されている部分は、A-Bリピート再生はできません。
- ディスクによって、A-Bリピート再生したときの始点（A点）の位置が変わることがあります。

お好みの順序で再生する〈メモリー再生〉

タイトル、チャプター、トラックを好みの順序で再生することができます。最大28通りまで設定することができます。

リモコン操作をする前に
MODE DVDを押します。

DVD

2
RETURN
REPEAT
3
DISPLAY
CLEAR
1
2

DVD VCD CD

タイトル、チャプター、トラックの再生順序をメモリーに記憶させて再生する

1

リモコンのみ

MEMORY

ディスクを本機にセットし、停止中にMEMORY（メモリー）を押す

左の表示が画面にあらわれ、本体表示部に、MEMORYインジケーターが点滅します。

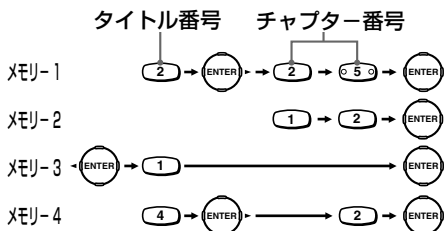
DVD	VCD CD
T　タイトル番号	T　トラック番号
C　チャプター番号	C　番号が入力されても無視されます。

2

DVD

1 **数字ボタンを押して、タイトル番号を入力する**
2 **▶を押して『C』列の『--』を反転し、数字ボタンでチャプター番号を入力する**
3 **ENTER（エンター）を押して、確定する**

- 同じタイトルの別のチャプターを入力するときは、数字ボタンでチャプター番号を入力してください。
- 違うタイトルを選ぶときは、◀ を押して『T』列の『--』を反転させてから、上記手順を繰り返します。

例：順に、以下のような選択をするとき
　タイトル2のチャプター25
　タイトル2のチャプター12
　タイトル1のすべてのチャプター
　タイトル4のチャプター2

VCD CD

数字ボタンを押してトラック番号を入力し、ENTERを押して確定する

この繰り返しで次のトラックを選びます。

3

MEMORY画面が表示されている間に▶を押す

メモリー再生が始まり、本体表示部のMEMORYインジケーターが点灯に変わります。

■ メモリー再生の内容を変更する／消去する

a MEMORY画面が表示されている間に、▲/▼を押して変更／消去するプログラムを選ぶ

b 変更するときは、手順2にしたがって別のプログラムを入力する
消去するときは、CLEAR（クリア）を押す

■ 通常再生に戻すには

CLEAR（クリア）を押す

■ 再生中にメモリー再生を始めるには

a MEMORYを押す
コマンドを受け付ける画面が表示されます。

b DIPLAY（ディスプレイ）を押してMEMORY画面を表示し、手順2と3を行う

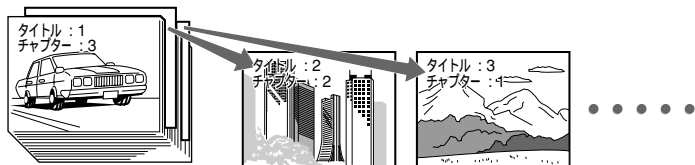
お知らせ

- 番号を10ずつ増やすときは、+10 も使用できます。
- ディスクによってはメモリー再生はできません。
- メモリー再生中にREPEAT（リピート）を押すと、メモリー再生を繰り返し再生することができます。
- ディスクにないタイトル、チャプター、トラック番号も入力できますが、再生時には無視されます。
- MEMORY画面表示中に、MEMORYまたはRETURN（リターン）を押すと、MEMORY画面は消えます。
- 電源を切ると、メモリー再生の内容は消去されます。

順不同で再生する〈ランダム再生〉

チャプターや、タイトル、トラック、また、特定のタイトル内のチャプターをランダムに再生することができます。

リモコン操作をする前に
MODE DVDを押します。

DVD

DVD VCD CD

チャプター／タイトル／トラックをランダム再生する

1 リモコンのみ

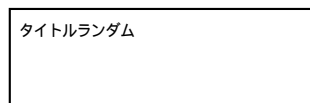
RANDOM

DVD

ディスク停止中に、RANDOM（ランダム）を2回押す

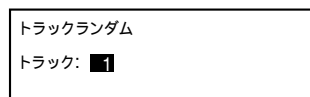
次にRANDOMを押す度に、ランダム再生モードが以下のように変わります。

チャプターランダム→タイトルランダム
↖ ランダム切り ↙

タイトルランダム

VCD CD

ディスク停止中に、RANDOMを1回押す

再度RANDOMを押すと、ランダム再生が解除されます。

トラックランダム
トラック: 1

再生中にRANDOMを押すと、現在再生中のチャプター／タイトル／トラックが終了してからランダム再生が始まります。

2

5秒以内に、►を押す

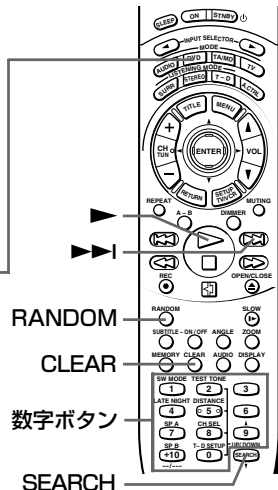
ランダム再生が始まります。

■ 通常再生に戻すには

CLEAR

CLEAR（クリア）を押す

お知らせ

- ディスクによってランダム再生はできません。
- メモリー再生との併用はできません。
- ランダム再生中に►►Iを押すと、別のチャプター／タイトル／トラックに移り、ランダム再生が続きます。

DVD

特定のタイトル内のチャプターをランダム再生する

1 リモコンのみ

SEARCH（サーチ）を押したあと、数字ボタンを押してランダム再生したいタイトル番号を入力する

例：タイトル2のチャプターをランダム再生する場合

SEARCH → 2

タイトル　：2
チャプター：　1

2 RANDOM

ディスク停止中に、RANDOM（ランダム）を押す

チャプターランダム
タイトル　：2
チャプター：　1

再生中にRANDOMを押すと、現在再生中のチャプターが終了してからランダム再生が始まります。

3

5秒以内に、►を押す

ランダム再生が始まります。

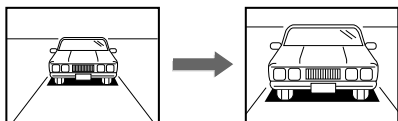
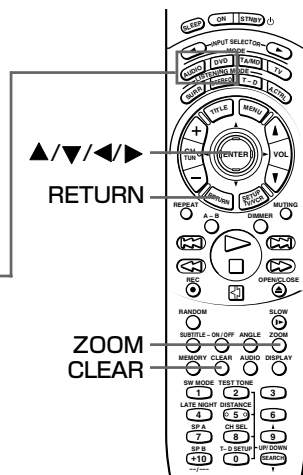
■ 通常再生に戻すには

CLEAR

CLEAR（クリア）を押す

お知らせ

- 番号を10ずつ増やすときは、+10も使用できます。
- ディスクによってランダム再生はできません。
- メモリー再生との併用はできません。
- ランダム再生中に►►Iを押すと、別のチャプターに移り、ランダム再生が続きます。

ズーム機能を使う

画像を拡大することができます。

DVD

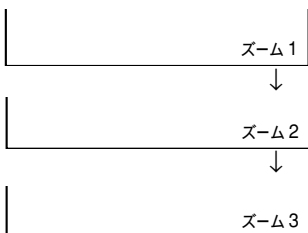
画像を拡大する／拡大した画像の中心を移動する

リモコンのみ

ZOOM

再生中に、ZOOM（ズーム）を押す

スローモーション再生や一時停止のときにも操作できます。

押す度に、以下のように拡大レベルが変わります。

拡大レベルを下げるには

RETURN（リターン）を押す

拡大した画像の中心点を移動するには

▲/▼/◀/▶を押す

画像の中心をそれ以上動かせなくなったときは、『ズーム』の色が変わります。

CLEAR

中心点を移動した後、元（画像の中心）に戻すには

CLEAR（クリア）を押す

お知らせ

- ディスクによってはズーム機能ははたらきません。
- 場面によって上記の説明通りにボタン操作ができない場合もあります。
- ズーム機能はディスクに含まれたサブタイトルや、メニュー画面に対してははたらきません。
- 拡大の倍率は、『TV画面形状』（☞57ページ）の設定によって違ってきます。

■ 通常の大きさの画像に戻すには

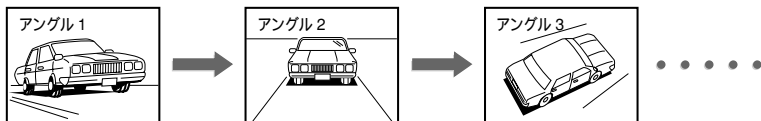
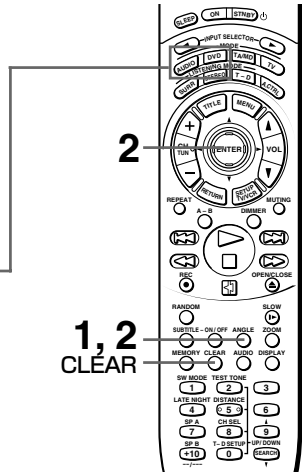
ZOOM

『ズーム』が画面から消えるまで、ZOOMを繰り返し押す

カメラアングルを切り換える

複数のカメラアングルが記録された場面では、お好みの
カメラアングルを選ぶことができます。

リモコン操作をする前に
MODE DVD
（またはMODE AUDIO）を
押します。

DVD　AUDIO

DVD

複数のカメラアングルが記録された場面から、アングルを選ぶ

1 リモコンのみ

複数のカメラアングルが記録されている場面で、ANGLE（アングル）を押す

複数のカメラアングルが記録されている場面では、『 』がテレビ画面に表示されます。

2

アングル番号が表示されている間に、ANGLEまたは ▲を押す

押すたびに、以下のようにアングルが切り換わります。

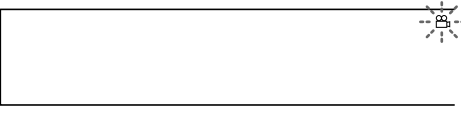
▼を押すと、逆回りにアングルが切り換わります。

数字ボタンで、直接アングル番号を選ぶこともできます。

■ アングル番号表示を消すには

CLEAR（クリア）を押す

■ テレビ画面にアングルアイコンを表示させなくするには

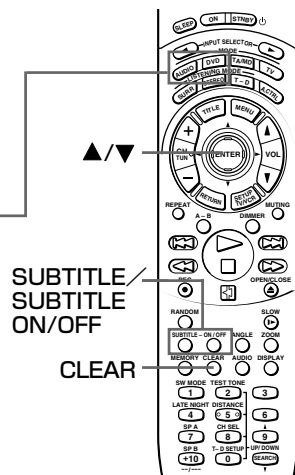
『画面表示』を『無し』に設定します。（☞59ページ）
この場合、本体の表示部のアングルインジケーターで確認します。複数のカメラアングルが記録されているか場面では、本体表示部の『 』が点滅します。

お知らせ

- 一時停止中もアングル番号を選ぶことができますが、このときは、再生を再開してから選んだアングルに切り換わります。
- アングルを選んだ後すぐに一時停止すると、再生を再開したときに選んだアングルにならないときがあります。

字幕を表示させる／字幕言語を選ぶ

ディスクに字幕が記録されていれば、再生画面に字幕を表示させることができます。また、複数の字幕言語が記録されていたら、字幕の言語を選ぶこともできます。

字幕を表示させる

DVD

1 リモコンのみ

再生中にSUBTITLE ON/OFFを押す

ボタンを押すたびに、字幕機能が『入り』、または『切り』になり、字幕設定が3秒間表示されます。

お知らせ

- ディスクによっては自動的に字幕が表示されるように設定されています。このときは、字幕機能を『切り』にしても、字幕を消すことはできません。
- 場面によっては字幕を『入り』にしても、すぐに字幕があらわれないこともあります。
- ディスクによっては、ディスクに用意されたメニューでしか、字幕の入り、切りを操作できない場合があります。

字幕言語を切り換える

1 リモコンのみ

再生中にSUBTITLEを押す

現在の字幕設定が3秒間表示されます。

言語名はコードで表示されます。言語コード表で確認してください。
（☞62ページ）

2

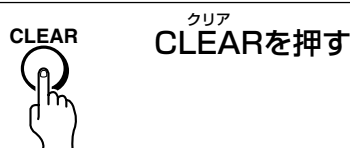
字幕設定画面が表示されている間に、SUBTITLEまたは ▲を押す

ボタンを押すたびに、以下の例のように表示が変わります。

例：

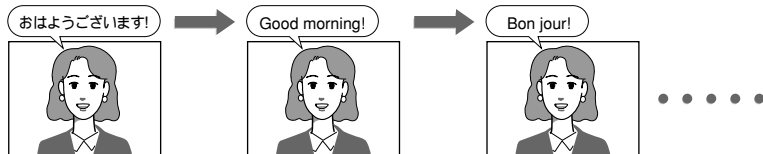
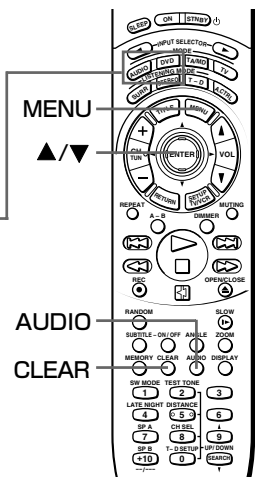
▼を押すと、逆回りに表示が切り換わります。

■ 字幕設定画面を消すには

CLEARを押す

お知らせ

- 電源を切ったり、ディスクを入れ替えたりすると、字幕設定は、機能設定メニュー（☞56ページ）の設定に戻ります。
- ディスクにない字幕言語を選ぶと、選ぶ前の字幕言語に戻ります。
- 場面によっては上記手順**2**のあと、すぐには字幕言語が切り換わらない場合もあります。

お好みの音声言語や、音声方式を選ぶ

ディスクに複数の音声言語や音声方式が用意されていたら、そのうちの1つを選ぶことができます。

リモコン操作をする前に
MODE DVD
（またはMODE AUDIO）
を押します。

音声言語・方式を選ぶ

『機能設定メニュー』の設定（☞54、56ページ）で自動的に選択された音声言語を以下の手順で一時的に変えることができます。また、ディスクが複数の音声方式で記録されている場合は、音声言語とのセットで音声方式も選べます。

1 リモコンのみ AUDIO

再生中に、AUDIO（オーディオ）を押す

現在の設定が約3秒間表示されます。

この項目に関しては、次ページを参照してください。

言語名はコードで表示されます。言語コード表で確認してください。
（☞62ページ）

2 AUDIO

音声言語・方式設定画面が表示されている間に、AUDIOまたは ▲ を押す

ボタンを押すたびに、以下の例のように表示が変わります。

例：

▼を押すと、逆回りに表示が切り換わります。

お知らせ

Dolby Digital 5.1（ドルビー デジタル 5.1）チャンネル音声は、『▯▯ 6CH』と表示される場合があります。

■ 音声言語・方式設定画面を消すには

CLEAR

CLEAR（クリア）を押す

■ 音声方式について

本機は、Dolby Digital (▯▯ 5.1CH)方式、DTS（ディーティーエス）方式、PCM（ピーシーエム）方式を再生できます。それ以外の方式で記録されたディスクは再生できません。

お知らせ

- ディスクによっては、ディスクに用意されたメニューでしか、音声言語や音声方式を選べない場合があります。このときは、MENU（メニュー）を押してディスクのメニューを表示させて選んでください。
- ディスクによっては音声言語・方式が1セットしか用意されていないものもあります。このときは、音声言語・方式を選べません。
- 電源を切ったり、ディスクを入れ替えたりすると、音声言語の設定は『機能設定メニュー』（☞56ページ）の設定に戻ります。

ビデオCDの音声チャンネルを選ぶ

ビデオCDには左右の音声チャンネルが含まれている場合があり、それぞれのチャンネルに音声や言語が割り当てられている場合、チャンネルを切り換えることができます。

リモコンのみ AUDIO

再生中に、AUDIO（オーディオ）を繰り返し押して、音声チャンネルを選ぶ

L. R：この表示が画面にでると、左右のチャンネルが同時に聞こえます。
L：この表示が画面にでると、左チャンネルのみが聞こえます。
R：この表示が画面にでると、右チャンネルのみが聞こえます。

音声出力設定を変える

本機で再生された音声は、『音声出力設定』が『ビットストリーム』に設定されているとき（☞58ページ）に、最適な音声方式でスピーカーや各出力端子に出力されます。しかし、目的やお好みで『音声出力設定』を変更することもできます。

例として、以下のような場合があります。

- 高周波数（kHz）／高ビット（bit）で記録された音声をそのままの音質で聞くとき（下記）
- DVDビデオのDOLBY DIGITALサラウンド音声を再生し、その音声を本機のDIGITAL OUTPUT （OPT）端子に接続したMDレコーダーなどで録音するとき（☞次ページ）

音声出力設定は、ディスクを本機にセットしたときに『機能設定メニュー』の『音声出力設定』にしたがって自動的に選択されます（☞54、58ページ）が、ここでは音声出力設定を一時的に変更する方法を説明します。

DVD VCD CD

音声出力設定を一時的に変える

1 リモコンのみ

AUDIO

再生中に、AUDIOを押す

現在の設定が約3秒間表示されます。

これらの項目に関しては、前ページを参照してください。

音声：　1 JPN PCM 2CH
音声出力設定:ビットストリーム

現在の音声出力設定が表示されます。

2

音声言語・方式設定画面が表示されている間に、◀/▶ を押す

音声：　1 JPN PCM 2CH
音声出力設定: 96kサウンド

ボタンを押すたびに、以下のように音声出力設定が変わります。

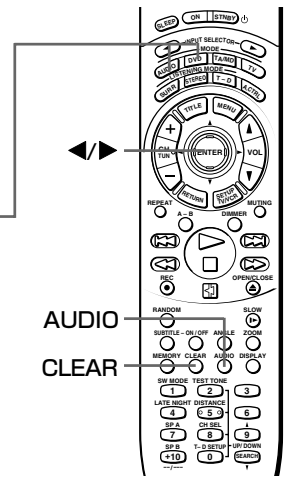
ビットストリーム↔96kサウンド↔PCM
↑＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿↑

各音声出力設定項目の詳しい説明は、58ページを参照してください。

■ 音声言語・方式設定画面を消すには

CLEARを押す

お知らせ

- ディスクを本機にセットしたときの音声出力設定は、『機能設定メニュー』の『音声出力設定』（☞58ページ）にしたがって自動的に選択されます。ここで音声出力設定を変更しても、『機能設定メニュー』の設定は変更されません。
- 電源を切ったり、ディスクを入れ替えたりすると、音声出力設定は、『機能設定メニュー』（☞58ページ）の設定に戻ります。

DVD

高周波数（kHz）／高ビット（bit）音声をそのままの音質で聞く

高周波数（kHz）／高ビット（bit）の音声信号は、『音声出力設定』が『ビットストリーム』に設定されているときは48kHz/16bit信号に変換されてスピーカーから出力されます。

高周波数（kHz）／高ビット（bit）の音声信号

- 48kHz/24bit
- 96kHz/16bit
- 96kHz/20bit
- 96kHz/24bit

これらの高周波数（kHz）／高ビット（bit）の音声をそのままの音質で聞きたいときは、以下のようにします。

1

左欄の手順で、『音声出力設定』を『96kサウンド』にする

次ページの表の**a** を参照してください。
48kHz/24bitや、96kHz/16bit、96kHz/20bit、96kHz/24bitで記録されているDVDビデオ信号は、そのままのkHz/bitでスピーカー端子に出力され、再生されます。

2

サブウーファーが接続されているときは、『サブウーファーの設定をする』（☞21ページ）にしたがって、設定を『SW Off』にする

3

ステレオ音声にする（☞40ページ）

これでオリジナル音声を再生することができます。

お知らせ

スマートコンフィグ設定（☞20ページ）をしている場合、上記手順でサブウーファーのモードを変更すると、周波数特性などの情報が消えてしまいます。情報を元に戻すときは、スマートコンフィグ設定を再度行ってください。

DVD

DOLBY DIGITALサラウンド音声を録音可能な周波数（kHz）とビット（bit）に変えてデジタル端子から出力する

『音声出力設定を一時的に変える』（☞前ページ）の手順で、『音声出力設定』を『PCM』にする

下の表の**c**を参照しくてください。DOLBY DIGITALサラウンド音声は、録音可能な48kHz/16bit信号に変換されます。

■ 音声出力設定による、音声方式の変換表

表中の記号について

- 記号**a** と**c** は前ページと本ページで説明されています。
- 記号**b** 、**c**、**d** 、**e**、**f**は『接続した外部機器で録音／録画する』（☞６４、６５ページ）で説明されています。

「音声出力設定」と、スピーカー端子出力信号の相関表

			音声出力設定※2		
ディスク	ディスクの音声信号※1		ビットストリーム	96kサウンド	PCM
DVDビデオ	DOLBY DIGITAL		DOLBY DIGITAL		48 kHz/16 bit
	Linear PCM	48 kHz/16 bit	音源と同じkHz/bit		
		48 kHz/20 bit	48 kHz/16 bit	48 kHz/16 bit	48 kHz/16 bit
		48 kHz/24 bit		a 音源と同じkHz/bit	
		96 kHz/16 bit			
		96 kHz/20 bit			
		96 kHz/24 bit			
	DTS		DTS		f 無音声
ビデオCD	MPEG1		44.1 kHz/16 bit		
音楽用 CD	Linear PCM 44.1kHz/16 bit		音源と同じkHz/bit		
	DTS		DTS		

※1 ディスクによっては複数の音声方式で記録されている場合があります（☞49ページ）。

※2 音声出力設定は前ページの方法で一時的に変えることができます。また、『機能設定メニュー』の中の、『音声出力設定』（☞54、58ページ）で恒常的に変えることもできます。

「音声出力設定」と、デジタル端子出力信号、アナログ信号変換の相関表

			DIGITAL OUTPUT (OPT)（デジタル）端子からのデジタル信号			アナログ信号に変換されるときの周波数（kHz）／ビット（bit）		
			音声出力設定※2			音声出力設定※2		
ディスク	ディスクの音声信号※1		ビットストリーム	96kサウンド	PCM	ビットストリーム	96kサウンド	PCM
DVDビデオ	DOLBY DIGITAL		b ビットストリーム		c 48 kHz/16 bit	48 kHz/20 bit	48 kHz/20 bit	48 kHz/20 bit
	Linear PCM	48 kHz/16 bit	音源と同じkHz/bit			48 kHz/16 bit	48 kHz/16 bit	48 kHz/16 bit
		48 kHz/20 bit	48 kHz/16 bit	48 kHz/16 bit	48 kHz/16 bit	48 kHz/20 bit	48 kHz/20 bit	48 kHz/20 bit
		48 kHz/24 bit		d 無信号			48 kHz/24 bit	
		96 kHz/16 bit				48 kHz/16 bit	96 kHz/16 bit	48 kHz/16 bit
		96 kHz/20bit				48 kHz/20 bit	96 kHz/20 bit	48 kHz/20 bit
		96 kHz/24 bit					96 kHz/24 bit	
	DTS		ビットストリーム		f 無信号	e 無信号		
ビデオCD	MPEG1		44.1 kHz/16 bit			44.1 kHz/16 bit		
音楽用 CD	Linear PCM 44.1kHz/16 bit		音源と同じkHz/bit			44.1 kHz/16 bit		
	DTS		ビットストリーム			e 無信号		

画面表示と本体表示部の情報を確認する

ディスク情報や、操作内容、使用状況をテレビ画面や、本体の表示部で確認することができます。

お知らせ

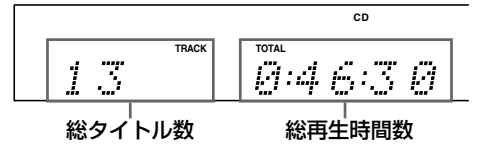
DVDビデオによって、チャプター番号や経過時間が表示されない場合があります。

DVD VCD CD

総タイトル・トラック数、残り／経過時間、現在のタイトル／チャプター／トラック等を確認する

ディスクを本機にセットしたとき

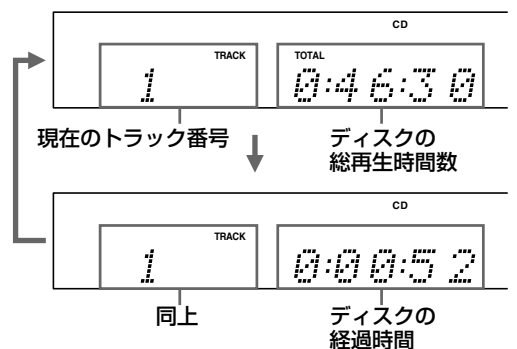
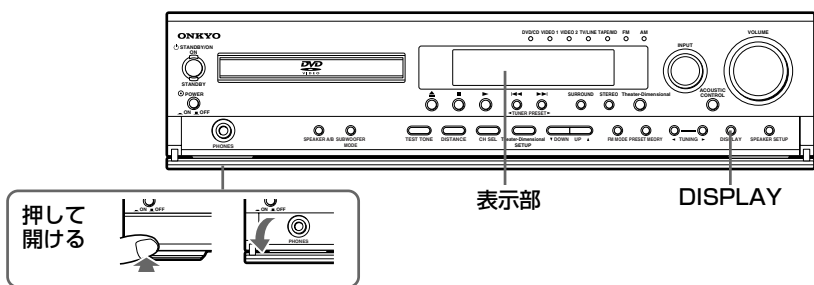
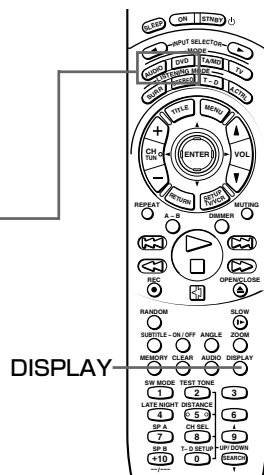
次のような情報が5秒間本体表示部に表示されます。

※ DVDビデオによっては自動的に再生が始まるものがあります。そのときは、左記の情報は表示されません。

ディスク停止中（再生後STOP（ストップ）を1度押して停止している状態）に、DISPLAY（ディスプレイ）を押す

DISPLAYを押すたびに、テレビ画面の表示情報が以下の例のように切り換わります。

DISPLAYを押すたびに、表示部の情報が以下の例のように切り換わります。

ビデオCD／音楽用CD
例：

ビデオCD／音楽用CD
例：（音楽用CDが入っているとき）

再生中に、DISPLAY（ディスプレイ）を押す

DISPLAYを押すたびに、テレビ画面の表示情報が以下の例のように切り換わります。

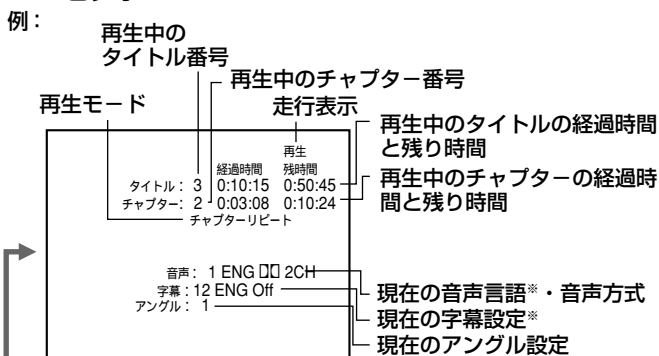
DVDビデオ

例：

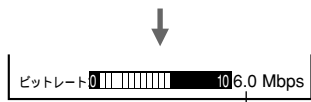
再生中のタイトル番号
再生中のチャプター番号
再生モード
走行表示
再生中のタイトルの経過時間と残り時間
再生中のチャプターの経過時間と残り時間

		経過時間	再生残時間
タイトル：	3	0:10:15	0:50:45
チャプター：	2	0:03:08	0:10:24

チャプターリピート

音声： 1 ENG DD 2CH — 現在の音声言語※・音声方式
字幕：12 ENG Off — 現在の字幕設定※
アングル： 1 — 現在のアングル設定

※ 言語はコードで表示されます。言語コード表で確認してください。（☞62ページ）

↓

ビットレート 0 ▮▮▮▮▮▮▮▮▮ 10 6.0 Mbps

ビットレート（Mbit/s）（メガビット パー セカンド）
1秒間に送られるDVDビデオディスクの画像、音声、字幕の情報量です。数字が大きいほど処理される情報量は増えますが、必ずしも画質がよくなるとは限りません。

↓

情報表示が消える

DISPLAYを押すたびに、表示部の情報が以下の例のように切り換わります。

DVDビデオ

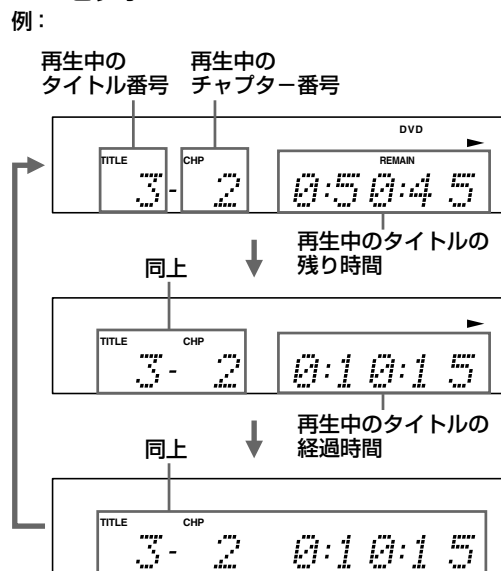
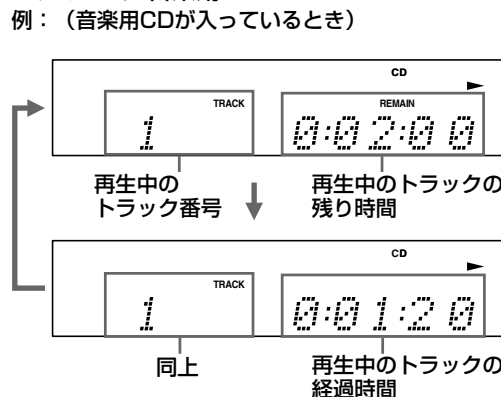
例：

ビデオCD／音楽用CD

例：

再生中のトラック番号
再生モード
走行表示
再生中のトラックの経過時間と残り時間
再生中のディスクの経過時間と残り時間

ビデオCD／音楽用CD

例：（音楽用CDが入っているとき）

機能設定メニューを確認／変更する

ディスクを本機にセットしたときに、いろいろな再生機能がこの機能設定メニューによってセット（リセット）されます。機能設定メニューの内容は、お好みで変更することができます。

リモコン操作をする前に
MODE DVD
（またはMODE AUDIO）
を押します。

設定変更のしかた

機能設定メニューは、LANGUAGE（ランゲージ）（言語関係）、PICTURE（ピクチャー）（画像関係）、AUDIO（オーディオ）（音声関係）、DISPLAY（ディスプレイ）（画面表示関係）、OPERATION（オペレーション）（操作関係）の5つのカテゴリーに分かれています。各カテゴリーの下に、詳細機能の項目があります。

1 リモコンのみ

ディスク停止中に、SETUP（セットアップ）を押す

メニューがテレビ画面に表示されます。

各カテゴリーのシンボルマーク

2

◀/▶ を押してカテゴリーを選ぶ

（言語関係）

（画像関係）

（音声関係）

（画面表示関係）（操作関係）

3

▲/▼を押して項目を選び、ENTER（エンター）を押して確定する

例 手順**2**で『PICTURE』（画像関係）を選び、項目で『TV画面形状』を選んだとき

4

▲/▼を押して設定を選び、ENTER（エンター）を押して確定する

例 『TV画面形状』の設定で、『16:9ワイド』を選んだとき

5

選んだ項目や設定によっては、さらに設定手順が続く場合があります。56ページ以降の各項目の説明にしたがってください。

6

- **同じカテゴリーの他の項目設定をするときは、手順3～5を繰り返す**
- **他のカテゴリーの項目設定をするときは、手順2～5を繰り返す**

7

メニュー表示を消すときは、SETUPを押す

■ 1つ前の画面に戻るには

RETURN（リターン）を押す

お知らせ

- 再生中でもSETUPボタンは働きます。ただし、機能設定の内容によっては、操作が受け付けられない場合があります。その旨のメッセージが表示されたら、再生を止め、もう一度SETUPを押してください。
- 機能設定メニュー画面表示中は、機能設定以外の操作が受け付けられない場合があります。このときは、SETUPを押して、メニュー表示を消してください。

カテゴリーと項目一覧

（言語関係）

項目	関連ディスク	設定内容	ページ
画面表示言語	DVD VCD CD	画面表示に使う言語を選びます。	56
ディスクメニュー言語	DVD	ディスクから表示されるメニューの言語を選びます。	56
音声言語	DVD	音声言語を選びます。	56
字幕言語	DVD	字幕言語を選びます。	56

（画像関係）

項目	関連ディスク	設定内容	ページ
TV画面形状	DVD	接続したテレビの画面形状を設定します。	57
画質	DVD VCD	再生する画面の明るさを設定します。	57

（音声関係）

項目	関連ディスク	設定内容	ページ
音声出力設定	DVD VCD CD	音声を出力端子から出力するときの、音声変換の方式を選びます。	58
Dレンジコントロール	DVD	夜間など、音量を下げて再生するときに、小さい音までよく聞こえるようにする機能を設定します。	58
カラオケボーカル	DVD	DVDカラオケディスクを再生するときに、ボーカル（歌声）を出力するかどうかを設定します。	58
音声拡張機能	DVD	視覚が不自由な方のために、場面を解説する音声機能をはたらかせるかどうかを設定します。	58

DISPLAY

（画面表示関係）

項目	関連ディスク	設定内容	ページ
画面表示	DVD VCD CD	本機の動作状態を画面に表示するかどうかを設定します。	59
背景色	DVD VCD CD	設定画面などの背景の色を設定します。	59
字幕拡張機能	DVD	聴覚が不自由な方のために、効果音など場面の状況を解説する字幕機能を働かせるかどうかを設定します。	59
スクリーン・セーバー	DVD	スクリーン・セーバー（画面焼き付け防止機能）をはたらかせるかどうかを設定します。	59

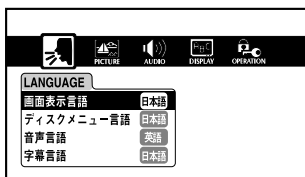
（操作関係）

項目	関連ディスク	設定内容	ページ
静止画	DVD	一時停止させた時の画像、または写真等の解像度を設定します。	60
パレンタルロック	DVD	パレンタルロック機能の内容や入／切を設定します。	60
タイトル停止	DVD	1つのタイトルが終わったら再生をやめるか、そのまま続けるかを設定します。	61
PBC	VCD	ビデオCD（PBC付き）のメニュー画面再生をするかどうかを設定します。	61

LANGUAGE（言語）関係の設定

お知らせ

工場出荷時の設定を確認するときは、左の画面イラストを参照してください。

画面表示言語 DVD VCD CD

画面表示言語を、以下から選びます。

- **英語**
- **日本語**

ディスクメニュー言語 DVD

ディスクメニュー言語を、以下から選びます。

- **英語**
- **日本語**
- **その他**　→「その他の言語を選ぶ」に進んでください。

お知らせ

言語を選んでも選んだ言語がディスクに含まれていないときは、ディスクによって決められた初期言語でディスクメニューが表示されます。

音声言語 DVD

音声言語を、以下から選びます。

- **英語**
- **日本語**
- **その他**

お知らせ

言語を選んでも、ディスクによっては、ディスクで決められた初期言語で音声が出力されます。

字幕言語 DVD

画面表示言語を、以下から選べます。

- **英語**
- **日本語**
- **字幕なし**　字幕を表示させないときに選びます。
- **その他**　→「その他の言語を選ぶ」に進んでください。

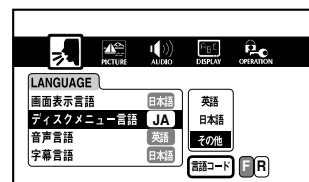
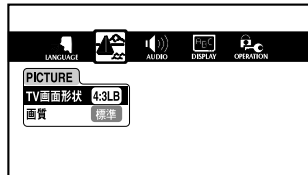
お知らせ

- ディスクによっては、ディスクで決められた初期言語で字幕が表示されます。
- ディスクによっては字幕言語をディスクメニューからしか変更できないことがあります。この場合は、MENU（メニュー）を押してディスクメニューを表示させて字幕言語を選んでください。

■ その他の言語を選ぶ

「設定変更のしかた」の手順4（☞54ページ）でENTER（エンター）を押した後、以下の手順を続けてください。

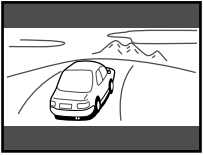
1. **「言語コード表」（☞62ページ）で選びたい言語のコードを確認する**
2. **▲/▼を押して、コードの1文字目を入力する**
3. **◀/▶を押して隣の文字欄に移動し、▲/▼でコードの2文字目を入力する**
4. **ENTER（エンター）を押す**

例：「ディスクメニュー言語」で「その他」を選んだとき

PICTURE（画像）関係の設定

お知らせ

工場出荷時の設定を確認するときは、左の画面イラストを参照してください。

TV画面形状

DVD

● 4:3レターボックス

従来の4:3テレビを接続しているときに選びます。
テレビ画面に対して横長に表示します。

● 4:3ノーマル

従来の4:3テレビを接続しているときに選びます。
デレビ画面全体に再生画面を表示します。画面の片側または両側の画像部分がカットされます。

● 16:9ワイド

16:9ワイドテレビを本機に接続しているときに選びます。

お知らせ

● DVDビデオには、再生できる画面形状があらかじめ設定されています。その場合、ここで選んだ画面形状通りに再生されないことがあります。
● 4:3の画面形状だけで記録されたDVDビデオディスクは、ここで選んだ画面形状にかかわらず、4:3の画面形状で再生されます。
● 4:3のテレビを本機に接続した状態で『16:9ワイド』を選ぶと、再生画面に水平方向の歪みや縦方向の縮みが生じます。お使いのテレビに合わせて設定を行ってください。

画質

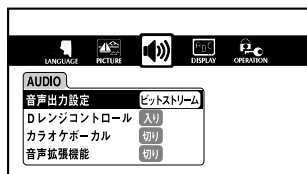
DVD VCD

接続したテレビに合わせてお好みで選んでください。

● **標準**　普通の明るさの画面です。
● **明るい**　『標準』より明るい画面になります。

AUDIO（音声）関係の設定

お知らせ

工場出荷時の設定を確認するときは、左の画面イラストを参照してください。

音声出力設定　DVD　VCD　CD

目的やお好みにより『音声出力設定』を変えることで、音声の変換方法を変更することができます。

音声の変換方法には下記の3通りが用意されています。
（『音声出力設定』の3つの選択項目は、本機器の音声変換方法の名称で、変換後の音声方式ではありません。）

『音声出力設定』が『ビットストリーム』に設定されているときは、音声は最も適した音声方式でスピーカーや出力端子へ出力されます。したがって、通常は機能設定メニューの『音声出力設定』は『ビットストリーム』のまま変更しないことをお勧めします。一時的に音声の変換方法を変えるときは、『音声出力設定を変える』（☞50ページ）の手順にしたがうと、機能設定メニューの内容は変更されません。

音声出力設定の詳細（この機能の使い方のヒントや、音声方式の変換表など）については、50、51ページを参照してください。

- **ビットストリーム**
  通常はこの設定にしておいてください。
- **96kサウンド**
  次のような高周波数（kHz）／高ビット（bit）音声を、そのままの音質で聞きたいとき（☞50ページ）などに設定します。
  96 kHz/24 bit／96 kHz/20 bit／ 96 kHz/16 bit／48 kHz/24 bit
- **PCM**
  ドルビーデジタルサラウンド音声を、DIGITAL OUTPUT（OPT）端子に接続したMDレコーダーなどで録音したいとき（☞13、51ページ）に設定します。

Dレンジコントロール　DVD

- **切り**　Dレンジコントロール機能が働きません。
- **入り**　Dレンジコントロール機能が働きます。

お知らせ

- 本機能はドルビーデジタルサラウンド音声で記録されたディスクにのみはたらきます。
- Dレンジコントロールによる効果はディスクによって差があります。

カラオケボーカル　DVD

- **切り**　ボーカル（歌声）を出力しません。
- **入り**　ディスクに記録されているボーカル（歌声）を出力します。

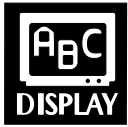
お知らせ

この機能は、ドルビーデジタルマルチチャンネルで記録されたDVDカラオケディスクのみにはたらきます。

音声拡張機能

この機能を「入り」にしておけば、目の不自由の方のためのナレーション（場面を解説する音声）が入ったDVDビデオを再生すると、自動的にナレーションも再生されます。

- **切り**　この機能を停止します。
- **入り**　ナレーションを自動的に再生します。

DISPLAY（画面表示）関係の設定

お知らせ

工場出荷時の設定を確認するときは、左の画面イラストを参照してください。

画面表示

DVD VCD CD

- **無し**　動作状態表示を画面に出しません。
- **有り**　『再生』、『』など、動作状態を表わす表示を画面に出します。

背景色

DVD VCD CD

- **青**　背景を青色にします。
- **灰色**　背景を灰色にします。

字幕拡張機能

DVD

この機能を「入り」にしておけば、耳の不自由な方のために効果音など場面の状況を解説する字幕が記録されているDVDビデオディスクを再生すると、自動的に解説字幕も表示されます。

- **切り**　この機能を停止します。
- **入り**　解説字幕を自動的に表示します。

スクリーン・セーバー

DVD

- **切り**　スクリーン・セーバーは働きません。
- **入り**　スクリーン・セーバーが働きます。

機能設定メニューを確認／変更する

OPERATION（操作）関係の設定

お知らせ

工場出荷時の設定を確認するときは、左の画面イラストを参照してください。

▲/▼/◀/▶ /ENTER

■

静止画

DVD

● **自動** 通常の設定です。動きのある画像でも、ぶれずに一時停止します。

● **フレーム** 動きのない画像を、特に高解像度で一時停止させたいときに選びます。

パレンタルロック

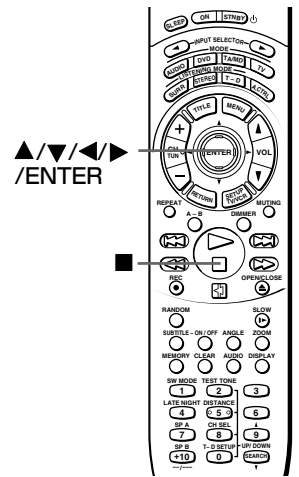
DVD

パレンタルロックに対応したDVDビデオディスクには、あらかじめ規制レベルが設定されています。規制レベルの内容、および規制方法はディスクによって異なります。
例えば、ディスク全体が再生できないようになっていたり、過激な暴力シーンをカットしたり、また、そのようなシーンを別のシーンに自動的に差し替えて再生したりするなどの規制方法があります。

● **切り** パレンタルロックは働きません。
→「パレンタルロックの設定を変える」の手順に進んでください。

● **入り** パレンタルロックの機能を働かせたり、設定内容を変えるときに選びます。
→「パレンタルロックの設定を変える」の手順に進んでください。

お知らせ

DVDビデオによっては、パレンタルロックに対応しているかどうかの区別がつきにくいものがあります。必ず、設定したパレンタルロックの機能がはたらくことを確認してからご使用ください。

■ パレンタルロックの設定を変える

「設定変更の手順」の手順4（☞54ページ）でENTER（エンター）を押した後、以下の手順を続けてください。

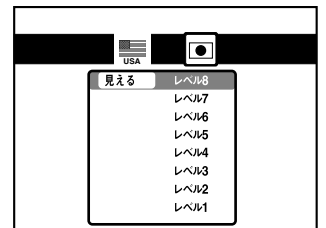
⬇

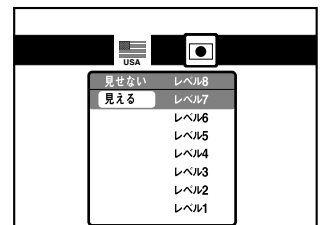
1 数字ボタンを押して4桁の暗証番号を入力し、ENTERを押して確定する

（番号を入れ直すときは、ENTERを押す前にCLEAR（クリア）を押して数字を入力し直します。）

● **『入り』を選んでいるときは**
次の手順に進みます。

● **『切り』を選んでいるときは**
パレンタルロックはこれで解除されます。

2 ◀/▶ を押して設定したい規制レベルの国を選ぶ

3 ▲/▼を押して設定したい規制レベルを選び、ENTERを押す

パレンタルロックがかかります。

選んだ規制レベルより上のレベルのディスクは、パレンタルロックを『切り』にしないかぎり、再生できなくなります。例えば、レベル7を設定すると、レベル8以上はロックされ、再生できなくなります。

お知らせ

- 『JAPAN』（日本）を選んだ場合のレベル設定は、将来のために用意されたものです。適切な設定レベルは、実際にパレンタルロックに対応したDVDビデオを動作させてお確かめください。
- 『USA』（アメリカ）を選んだときの規制レベルは次のように対応しています。

  レベル7：NC-17
  レベル6：R
  レベル4：PG 13
  レベル3：PG
  レベル1：G

■ パレンタルロックのレベルを変えるときは

手順を最初から繰り返します。

■ パレンタルロックの暗証番号を変えるときは

「設定変更の手順」の手順**4**（☞54ページ）で、『入り』もしくは『切り』を選び、ENTERを押した後、以下の手順を続けてください。

1 ■を4回押してから、ENTERを押す

暗証番号が解除されます。

STOP ■ → STOP ■ → STOP ■ → STOP ■ → ENTER

2 数字ボタンで、新たな4桁の暗証番号を入力する

3 ENTERを押す

タイトル停止

- **無し**　1つのタイトルが終わったら、再生を停止します。
- **有り**　1つのタイトルが終わっても再生を続けます。

PBC

VCD

PBCはPlayback Controlの略語です（☞「ビデオCDについて」、8ページ）。

- **無し**　PBC付のビデオCDのメニュー画面を使わず、普通の再生をするときに選びます。
- **有り**　PBC付のビデオCDのメニュー画面を使って再生するときに選びます。

言語コード表

言語コードと対応言語

言語コード	言語名
—	言語なし
CHI (ZH)	中国語
DUT (NL)	オランダ語
ENG (EN)	英語
FRE (FR)	フランス語
GER (DE)	ドイツ語
ITA (IT)	イタリア語
JPN (JA)	日本語
KOR (KO)	韓国語
MAY (MS)	マレー語
SPA (ES)	スペイン語
AA	アファル語
AB	アブバジア語
AF	アフリカーンス語
AM	アムハラ語
AR	アラビア語
AS	アッサム語
AY	アイマラ語
AZ	アゼルバイジャン語
BA	バシキール語
BE	ベラルーシ語
BG	ブルガリア語
BH	ビハーリー語
BI	ビスラマ語
BN	ベンガル語、バングラ語
BO	チベット語
BR	ブルトン語
CA	カタロニア語
CO	コルシカ語
CS	チェコ語
CY	ウェールズ語
DA	デンマーク語
DZ	ブータン語
EL	ギリシャ語
EO	エスペラント語
ET	エストニア語
EU	バスク語
FA	ペルシャ語
FI	フィンランド語
FJ	フィジー語
FO	フェロー語
FY	フリジア語
GA	アイルランド語
GD	スコットランドゲール語
GL	ガルシア語
GN	グアラニ語
GU	グジャラート語

言語コード	言語名
HA	ハウサ語
HI	ヒンディー語
HR	クロアチア語
HU	ハンガリー語
HY	アルメニア語
IA	国際語
IN	インドネシア語
IS	アイスランド語
IW	ヘブライ語
JI	イディッシュ語
JW	ジャワ語
KA	グルジア語
KK	カザフ語
KL	グリーンランド語
KM	カンボジア語
KN	カンナダ語
KS	カシミール語
KU	クルド語
KY	キルギス語
LA	ラテン語
LN	リンガラ語
LO	ラオス語
LT	リトアニア語
LV	ラトビア語、レット語
MG	マダガスカル語
MI	マオリ語
MK	マケドニア語
ML	マラヤーラム語
MN	モンゴル語
MO	モルタビア語
MR	マラータ語
MT	マルタ語
MY	ミャンマー語
NA	ナウル語
NE	ネパール語
NO	ノルウェー語
OC	プロバンス語
OM	（アファン）オロモ語
OR	オリヤー語
PA	パンジャブ語
PL	ポーランド語
PS	バシュト一語
PT	ポルトガル語
QU	ケチュア語
RM	ラエティ＝ロマン語
RN	キルンディ語
RO	ルーマニア語

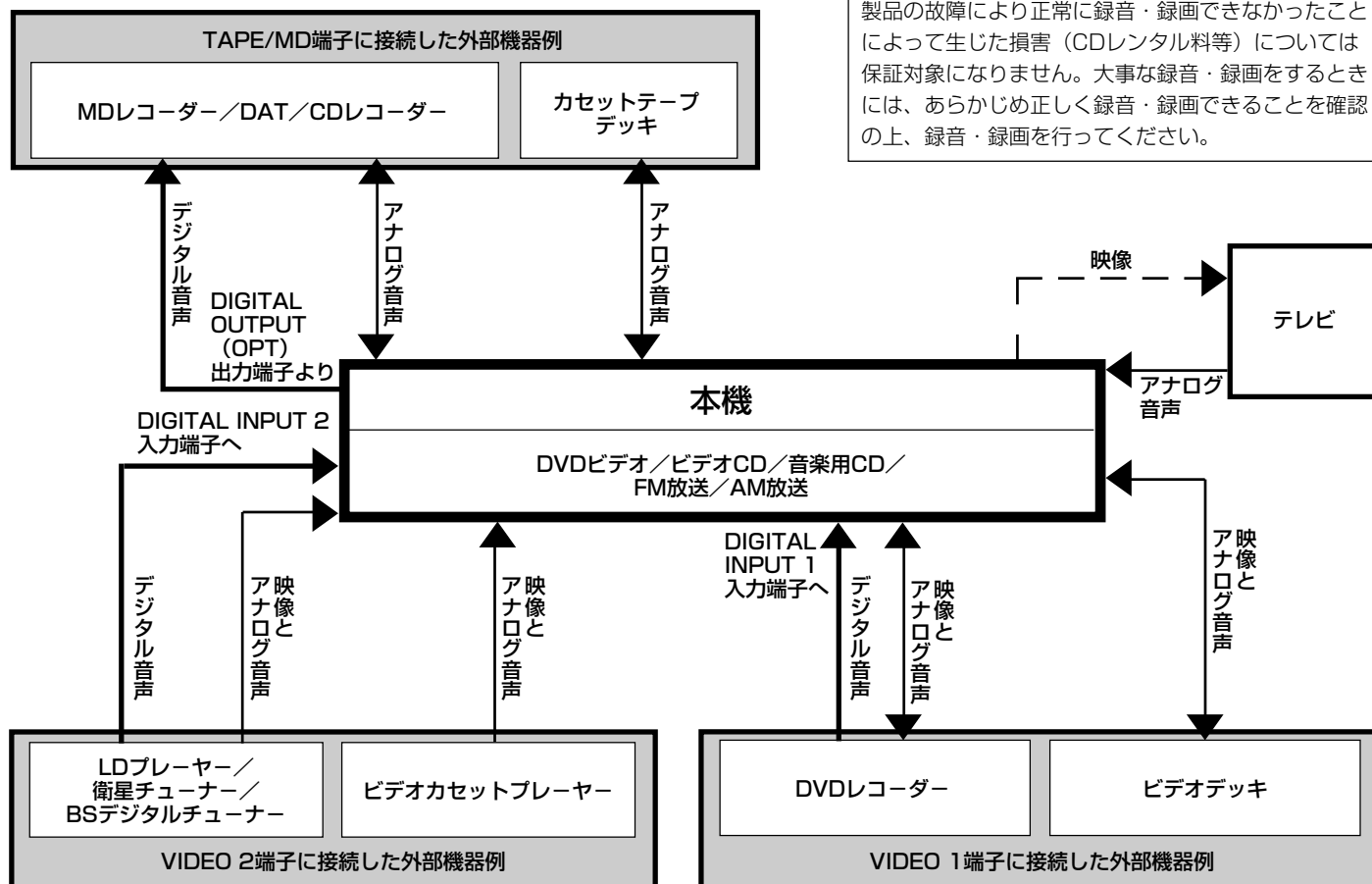
言語コード	言語名
RU	ロシア語
RW	キニヤルワンダ語
SA	サンスクリット語
SD	シンド語
SG	サンゴ語
SH	セルビアクロアチア語
SI	シンハラ語
SK	スロバキア語
SL	スロベニア語
SM	サモア語
SN	ショナ語
SO	ソマリ語
SQ	アルバニア語
SR	セルビア語
SS	シスワティ語
ST	セストゥ語
SU	スンダ語
SV	スウェーデン語
SW	スワヒリ語
TA	タミール語
TE	テルグ語
TG	タジク語
TH	タイ語
TI	ティグリニャ語
TK	トゥルクメン語
TL	タガログ語
TN	セツワナ語
TO	トンガ語
TR	トルコ語
TS	ツォンガ語
TT	タタール語
TW	トウィ語
UK	ウクライナ語
UR	ウルドゥー語
UZ	ウズベク語
VI	ベトナム語
VO	ボラピュク語
WO	ウォロフ語
XH	コーサ語
YO	ヨルバ語
ZU	ズール語

接続した外部機器で録音／録画する

接続した外部機器で以下のような録音／録画ができます。
- 本機で再生した音声や映像
- FM/AM放送
- 接続した外部機器で再生した音声や映像

お知らせ

多くのディスクやメディアはコピープロテクト（コピー防止）されています。そのようなディスクやメディアを再生しても録音／録画はできません。

■ 外部機器と本機の関係（具体的な接続については、12 、13ページも参照してください。）

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音・録画をするときには、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

録音／録画の基本操作

1 **録音／録画する外部機器を録音／録画一時停止にする**
MDレコーダー、DAT、カセットテープデッキ、ビデオテープレコーダー、DVDレコーダー、CDレコーダーなどが録音／録画機器です。

2 **本機の入力を、再生するソースの入力に切り換え、再生機器を再生一時停止にする**
- DVDビデオ、ビデオCD、音楽用CDを再生一時停止するには、25ページを参照してください。
- FM/AM放送の選局については、30ページを参照してください。
- 外部機器への入力切り換えは、32ページを参照してください。

3 **手順1の一時停止を解除して、録音／録画を始める**

4 **手順2の一時停止を解除して再生を始める**

お知らせ

- 外部機器の録音／録画、再生、再生一時停止などについては、外部機器の取扱説明書を参照してください。
- 録音／録画中に他の入力を選ぶと、新たに選んだ入力音声／映像が録音／録画されます。
- 各サラウンド音声と、Theater-Demensional（シアターディメンショナル）、DSP（ディーエスピー）音声効果、LATE NIGHT（レイトナイト）、Front Effect（フロントイフェクト）、Acoustic Control（アコースティックコントロール）、各スピーカーのボリュームバランス（☞36～42ページ）は、記録される音声には反映されません。
- 音声出力設定（☞52、58ページ）を変更すると、録音にも影響します。

接続した外部機器で録音／録画する

特別な録音／録画や、デジタル信号の録音について

■ 映像と音声を別々の機器から録音・録画する

本機の映像は、DVD、VIDEO 1以外の入力を選ぶと、VIDEO 2に接続した機器で再生している信号が出力されます。

これを利用して、VIDEO 2の機器を再生しながら、TAPE/MDまたは、FM、AM放送、テレビを選ぶと、VIDEO 2からの映像と、選んだ入力からの音声を、VIDEO 1に接続した機器で録画・録音することができます。

■ 外部機器で再生したデジタル信号を、外部機器でデジタル録音する

本機のDIGITAL INPUT 1や、DIGITAL INPUT 2入力端子に接続した外部機器からのデジタル音声を、DIGITAL OUTPUT（OPT）出力端子に接続した機器で録音することが可能です。

ただし、以下のような制約により録音できない場合があります。

- シリアルコピーマネジメントシステムによる制約を受けるとき（シリアルコピーマネジメントシステムについて詳しくは、録音機器の取扱説明書を参照してください。）
- デジタル音声信号がビットストリーム方式のとき
  録音可能な音声信号方式は、PCM（2チャンネルデジタルステレオ音声信号方式）です。
- 再生するデジタル音声のサンプリング周波数が、録音機器の対応範囲外のとき（録音機器で対応しているサンプリング周波数については、録音機器の取扱説明書を参照してください。）
  ただし、本機で出力可能なサンプリング周波数の最大は、48kHzです。

■ 本機でDVDビデオを再生して、外部機器でアナログ録音する DVD

DTSサラウンド音声以外のデジタル音声は、自動的にアナログ信号に変換されてアナログ各出力端子へ出力されます。アナログ出力端子に接続した外部録音機器で録音することができます。

DTSサラウンド音声は、再生してスピーカーから出力することはできますが、アナログ出力端子から出力されないので、録音することができません。（51ページの表中の**e**を参照してください。）

お知らせ

『音声出力設定』を『96kサウンド』にすると、再生しているPCM音声信号の周波数（kHz）／ビット（bit）によっては、DIGITAL OUTPUT（OPT）出力端子から信号が出力されなくなります（51ページの表中の**d** を参照してください。）。
詳しくは、『本機でDVDビデオを再生して、外部機器でアナログ録音する』の『お知らせ』の2番目の項目（☞次ページ）を参照してください。

■ 本機でDVDビデオを再生して、外部機器でデジタル録音する DVD

本機で再生したDVDビデオの音声を、DIGITAL OUTPUT（OPT）出力端子に接続した機器でデジタル録音することができます。

デジタル音声信号は、『音声出力設定』が『ビットストリーム』に設定されていると、最適な音声信号方式でスピーカーや各出力端子に出力されます（☞58ページ）。

しかし、DOLBY DIGITALサラウンド音声信号については、『音声出力設定』が『ビットストリーム』や『96kサウンド』に設定されていると、DIGITAL OUTPUT （OPT）出力端子から出力されるデジタル音声信号はビットストリーム方式になります。（51ページの表中の**b**を参照してください。）ビットストリーム方式の音声信号は録音することができません。

したがって、DOLBY DIGITALサラウンドで記録された音声を録音するには、『音声出力設定』を『PCM』に設定する必要があります。このようにすると、DOLBY DIGITALサラウンド音声信号は、2チャンネル48kHz/16bit PCMに変換されてDIGITAL OUTPUT （OPT）出力端子から出力されます。（51ページの表中の**c**を参照してください。）

DTSサラウンド音声については、『音声出力設定』の設定にかかわらず、デジタル出力端子からも、アナログ出力端子からも、録音することはできません。

お知らせ

- 『音声出力設定』が『PCM』に設定されていると、DTSサラウンド音声はスピーカーからも、DIGITAL OUTPUT （OPT）出力端子からも出力されません。（51ページの表中の**f**を参照してください。）
- 『音声出力設定』を『96kサウンド』に設定していると、再生しているデジタル信号の周波数（kHz）／ビット（bit）によっては、DIGITAL OUTPUT （OPT）出力端子からの信号が出なくなります。（51ページの表中の**d**を参照してください。）

  高周波数のPCM音声信号をデジタル録音するには、『音声出力設定』を『ビットストリーム』か『PCM』に設定する必要があります。このようにすると、高周波数のPCM音声信号も録音可能な48kHz/16bit方式に変換されて、DIGITAL OUTPUT （OPT）出力端子から出力されます。

■ 本機でビデオCDを再生して、外部機器でアナログ／デジタル録音する VCD

ビデオCDはMPEG1音声方式で記録されています。
MPEG1音声信号は『音声出力設定』にかかわらず、録音することができます。

- DIGITAL OUTPUT （OPT）出力端子へは、44.1kHz/16bit方式に変換されて出力されます。
- 各アナログ出力端子へは、44.1kHz/16bitでアナログ信号に変換されて、出力されます。

詳しくは、51ページの表を参照してください。

■ 本機で音楽用CDを再生して、外部機器でアナログ／デジタル録音する CD

PCM音声信号は『音声出力設定』にかかわらず、録音することができます。

- DIGITAL OUTPUT （OPT）出力端子へそのまま出力されます。
- 各アナログ出力端子へは、44.1kHz/16bitでアナログ信号に変換されて、出力されます。

DTSサラウンド音声信号は『音声出力設定』にかかわらず、録音できません。

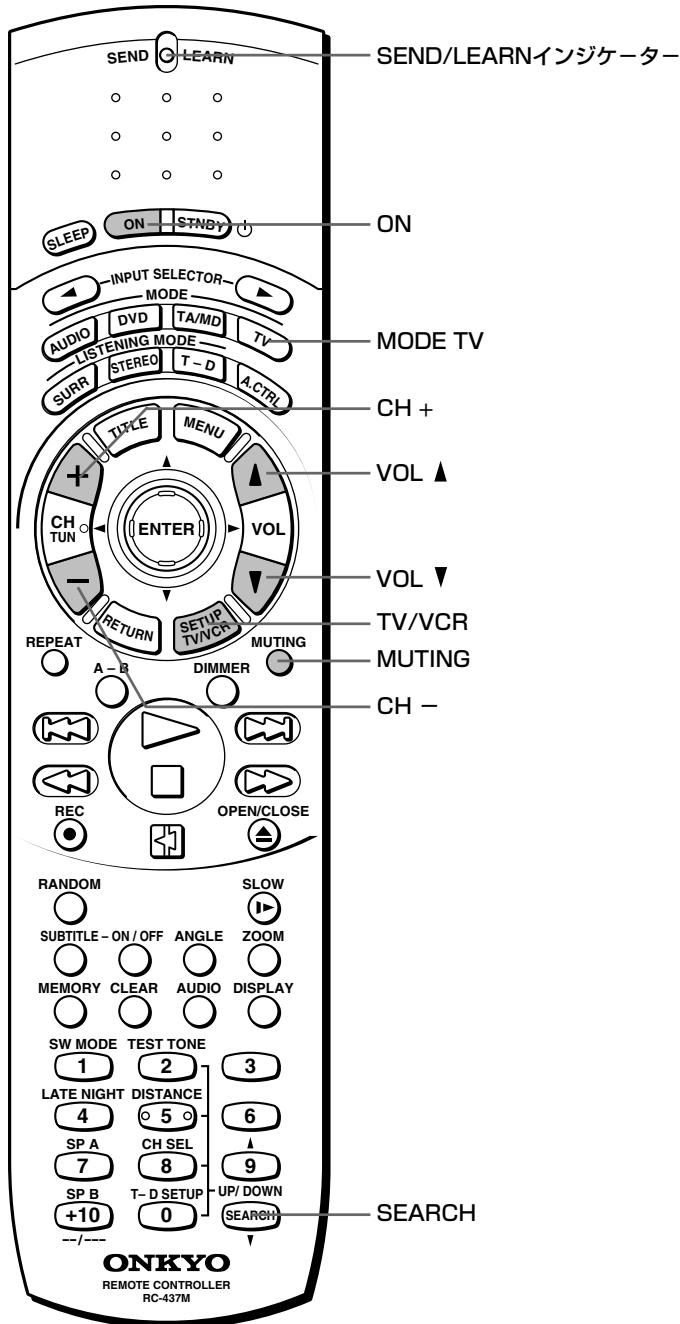
- DIGITAL OUTPUT （OPT）出力端子へ は、ビットストリーム方式で出力されます。（ビットストリーム信号は録音できません。）
- 各アナログ出力端子への音声信号出力はされません。

詳しくは、51ページの表を参照してください。

付属のリモコンでお手持ちのテレビを操作する

本機のリモコン（RC-437M）の7つの学習ボタンに、テレビのボタンの機能を学習させ、テレビを操作することができます。

お願い

本機のリモコンにコピーしたテレビ操作機能は、電池が弱くなったりなくなったりした場合や、その他の原因で消えてしまう場合があります。消えてしまった場合は再度コピーを繰り返す必要があります。テレビのリモコンは使用しない場合でも、大切に保管しておいてください。

学習させる前に

- 手順を行っている途中で、SEND/LEARN（センド/ラーン）インジケーターが3回点滅したときは、学習作業が失敗しました。再度、手順**2**からやり直してください。
- 本機のリモコンも、テレビのリモコンも、新しい乾電池を使ってください。電池が古いと、うまく学習できず、テレビ操作が正しくできないことがあります。
- 本機のリモコンを含め、ほとんどのリモコンは赤外線方式を使用していますが、テレビのリモコンがこれ以外の方式を使用している場合は、学習させられません。
- 本機のリモコンには、テレビ操作用に7個のボタンが用意されていますが、信号をコピーできるボタン数は、テレビのリモコンのタイプやメーカーによって異なります。
- コピーの最中の誤動作を防ぐため、本機とテレビの両方の主電源を切っておいてください。
- テレビのリモコンのボタンによっては、1つのボタンに2つ以上の機能が登録されているものがありますが、本機のリモコンには1つの機能しかコピーできません。
- 一度学習させたボタンに、同じ手順で別の信号を学習させると、新しい信号が前に学習させた信号に上書きされます。
- テレビのリモコンの説明の載っている取扱説明書も併せて参照してください。

本機のリモコンに、テレビのリモコンの信号を学習させる

1 本機のリモコンと、テレビのリモコンの頭が向き合うように、平らで水平なテーブルの上に置く

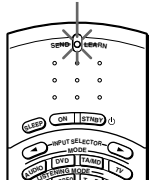
2 MODE TV（モード ティービィー）を押しながら、SEARCH（サーチ）を1回押す

SEND/LEARN（センド/ラーン）インジケーターが点灯し、学習モードに入ります。

30秒以内に次の手順をおこないます。

3

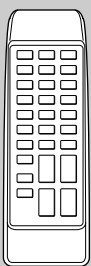
本機のリモコンの学習ボタンのうち1つを、1回押す

SEND/LEARNインジケーターが一度消え、再び点灯します。

30秒以内に次の手順をおこないます。

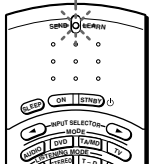
学習させたいボタンを変更するときは

本機のリモコンの別の学習ボタンを30秒以内に押します。

4

テレビのリモコンのボタン

SEND/LEARNインジケーターが点滅するまで、学習元のテレビリモコンのボタンを押す

学習が成功すると、SEND/LEARNインジケーターが2回点滅します。

- 正常に学習できたとき → 2回点滅
- 学習が失敗に終わったとき → 3回点滅
- メモリーオーバーで学習できなかったとき → 6回点滅

お知らせ

メモリーオーバーは、テレビのリモコンのボタンのデータ量が本機のリモコンの学習ボタンの記憶容量よりも大きいことを意味します。
メモリーオーバーになるテレビのリモコンのボタンは学習させることはできません。

■ 特定の学習ボタンを工場出荷時の状態に戻すには

手順**2**を行ったあとで、工場出荷状態に戻したい学習ボタンを2回押します。

- 成功すると、SEND/LEARNインジケーターか2回点滅します。
- 不成功に終わったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回点滅します。この場合、学習ボタンの内容は手順前と変わりません。

■ すべての学習ボタンを工場出荷時の状態に戻すには

1 MODE TVを押しながら、SEARCHを2回押す

SEND/LEARNインジケーターが2回点滅した後、点灯に変わります。30秒以内に次の手順をおこなってください。

2 MODE TVを再度押す

- 成功すると、SEND/LEARNインジケーターが2回点滅します。
- 不成功に終わると、SEND/LEARNインジケーターが3回点滅します。この場合、学習ボタンの内容は手順前と変わりません。

コピーしたボタンがうまくはたらかないときは

- 学習ボタンを押したときに、SEND/LEARNインジケーターが点灯しないときは、再度コピーし直してください。
- リモコンが近距離でしかはたらかなかったり、テレビの反応が遅いときは、乾電池が減っていないか確認してください。
  乾電池が減っていると、正しくテレビ操作機能がコピーされません。再度コピーし直してください。
- 乾電池がなくなってから、また乾電池を取り出してから10分以上リモコンを放っておくと、コピーしたテレビ操作機能が消えてしまいます。この場合はリモコンに新しい乾電池を入れ、再度コピーし直してください。

学習させたボタンでテレビを操作する

テレビを操作する前に、MODE TVを押してから、学習ボタンを押す

一度押せば、他のMODEボタンを押さない限り、本機のリモコンはテレビ操作専用となります。

故障? と思ったら

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーサービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（DR-2000）」と、「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
アンプ部	● 電源が入らない。	● 電源プラグの差し込みが不完全になっている。 ● 主電源がOFFになっている。 ● 本機内蔵のコンピューターが、外部からのノイズに影響を受けた。 ● 本機内部のヒューズが飛んだ。	● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。 ● 主電源をONにしてください。 ● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。 ● オンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	18 18 18 裏表紙
	● 音が出ない。	● ミューティング機能が働いている。 ● 接続に問題がある。 ● ヘッドフォンを接続している。	● リモコンのMUTINGを押して、ミューティングを解除してください。 ● 接続を点検してください。 ● 音量を下げてからヘッドフォンをはずしてください。	35 12〜18 35
	● 表示部に、『T. Protect』が表示され、スタンバイ状態となり、STANDBYインジケーターが点滅を始めた。	● 機器内部の温度が上がり過ぎた。	● 電源を切り、しばらく放置してください。それでも改善されない場合は、オンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	裏表紙
	● センタースピーカーから音が出ない、または、非常に小さい音しか出ない。	● スピーカーが正しく接続されていない。 ● サラウンドモードが『Stereo』か『Orchestra』になっている。 ● 各スピーカーの音量バランス調整で、センタースピーカーの音量を小さくした。 ● センタースピーカーが存在しない設定になっている。	● スピーカー接続を確認してください。 ● 『Stereo』や『Orchestra』のときはセンタースピーカーから音がでません。 ● センタースピーカーの音量を再調整してください。 ● スピーカー構成の設定で、センタースピーカーが存在する設定になっているか、確認してください。	15 40 23, 41 20, 21
	● 他機で再生した映像がテレビ画面にあらわれない。	● テレビが本機を接続した入力に設定されていない。 ● ビデオケーブルが正しく接続されていない。 ● Sビデオ接続のみをしている。	● テレビの入力を、本機を接続した入力端子に対応した入力に切り換えてください。 ● 本機とテレビの接続を確認してください。 ● 通常のビデオ接続もおこなってください。	– 12 12, 13
	● 再生中の音声が聞こえない。	● 別の入力が選ばれている。	● 再生している機器の入力を選んでください。	32
	● リモコンのボタンも、本体のボタンもはたらかない。	● 電源の電圧の変動や、静電気などによって動作がおかしくなった。	● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。	18
リモコン	● 本体のボタンははたらくが、リモコンのボタンがはたらかない。	● リモコンが、操作しようとしている機能モードになっていない。 ● リモコンに乾電池が入っていないか、電池が切れている。 ● リモコンの先が本体の受光部に向けられていない。 ● リモコンが本体から遠すぎる。	● リモコンを操作する前に、正しいMODEボタンを押してください。 ● 新しい乾電池をリモコンに入れてください。 ● リモコンの先を本体の受光部に向けて操作してください。 ● リモコンは、本体から5m以内のところで操作してください。	10 10 10 10

誤動作するときは

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、本体のSPEAKER A/Bを押しながら、⏻ STANDBY/ONを押してください。『Clear』が本体表示部に表示されたのち、スタンバイ状態となり、工場出荷時の状態になります。ただし、お客様が設定した内容もすべて消えますので、改めて設定しなおしてください。

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
DVD／ビデオCD／音楽用CD	● ディスクの再生ができない。	● ディスクが入っていない。	● ディスクを入れる。（入れたディスクによって、本体の表示部に『DVD』または『VCD』、『CD』の表示がでます。確認してください。	24
		● 再生できないディスクを入れた。	● 本機で再生できるディスクを入れてください。	8
		● ディスクの裏表が逆になっている。	● 再生面を下にしてディスクトレイに置いてください。	24
		● ディスクのリージョン番号が本機に合っていない。	● 本機では、リージョン番号「2」または「ALL」のディスクを再生してください。	8
		● ディスクがディスクトレイのガイド内に収まっていない。	● 正しいガイドの内側に置いてください。	24
		● ディスクが汚れている。	● ディスクを取り出して、手入れしてください。	25, 9
		● パレンタルロックが働いている。	● パレンタルロックを解除するか、パレンタルロックのレベルを変えてください。	60
	● DVD操作関係のボタンが働かない。	● SETUPが押されたため、本機が機能設定コマンド入力の待機状態になっている。	● SETUPを1回押してください。それでもボタンが働かないときは、⏏を押してください。	–
	● 再生画像が時々乱れる。	● ディスクが汚れている。	● ディスクを取り出して、手入れしてください。	9
		● 早送り、早戻しをしている。	● 早送り、早戻しをすると画像が多少乱れることがあります。これは本機の故障ではありません。	–
	● 再生画像の明るさが一定しない。または、再生画像にノイズが入る。	● コピープロテクト（コピー防止機能）が働いている。	● 本機を直接テレビに接続してください。本機をビデオデッキ経由で接続しないでください。	12
	● 本機で再生した映像がテレビ画面にあらわれない。	● テレビが本機を接続した入力に設定されていない。	● テレビの入力を、本機を接続した入力端子に対応した入力に切り換えてください。	–
	● ディスクの再生順序で再生されない。	● リピート再生、メモリー再生、ランダム再生などが設定されている。	● 特別な再生モードを解除してください。	43, 44, 45
	● 再生しているディスクの音声が出ない。	● 『音声出力設定』と音源の音声方式が合っていない。	● 現在の『音声出力設定』を確認して、正しい設定にしてください。	50, 58
チューナー	● FMステレオ放送のとき、モノラル放送にくらべ、サーというノイズが出る。	● FMステレオ電波はモノラル電波に比べ、変調のしかたが異なるので放送局の電波の強さによってはノイズが少し出ます。	● モノラルで受信してください。	30
	● モノラル放送、ステレオ放送ともノイズが多い。	● アンテナの設置場所や向きが不適当。 ● 放送電波が弱い。	● アンテナの設置場所、高さ、方向を変えてみてください。 ● 室内アンテナなら屋外アンテナにしてください。 ● 素子数の多いアンテナに変えてみてください。（アンテナ工事には技術と経験が必要ですので販売店にご相談ください。）	16 17 –
	● FMステレオ放送でFM STインジケーターが点滅し、完全に点灯しない。	● アンテナの向きが不適当。 ● 放送電波が弱い。		
	● 音がひずんだり小さくなったりする。	● 電波が乱れている。 ● 近くを自動車が走っていたり、飛行機が飛んでいる。		
	● ステレオ放送でノイズが多く、ときどき音が出なくなる。	● アンテナの設置場所や向きが不適当。 ● 放送電波が弱い。		
	● FMステレオ放送で音にひずみが多い。	● 近くにビルや山がある。［送信所からの電波（直接波）とビルや山に反射した電波（反射波）との干渉によりマルチパスひずみが生じている。］		
	● AM放送受信時、ノイズが入る。	● 電気器具がすぐそばにあり、電源が入っている。	● AM室内アンテナを電気器具から離してください。 ● 電気器具の電源を切ってください。	–
	● プリセットした放送局が選べない	● 長時間電源コードがコンセントから抜かれていたか、主電源が切られていたため、プリセット内容が消失した。	● 再度放送局のプリセットを行ってください。	30
録音	● スピーカーから音声は聞こえるが、録音できない。	● DTSサラウンド音声を録音しようとしている。	● DTSサラウンド音声は録音できません。	64
		● 『音声出力設定』が正しく設定されていない。	● 現在の『音声出力設定』を確認して、正しい設定にしてください。	50, 58

主な仕様

■ アンプ部

定格出力
　全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
　　40W　6Ω　1kHz、EIAJ
　　30W　6Ω　1kHz、全高調波歪率0.6%

全高調波ひずみ率：定格出力時で0.6%
　1W出力時で0.2%

混変調ひずみ率：定格出力時で0.6%
　1W出力時で0.2%

ダンピングファクター：8Ω負荷時で40

入力感度/インピーダンス
　DIGITAL INPUT1、2（光デジタル音声）：−21〜−15dBm
　LINE（VIDEO 1、2、TV/LINE、TAPE/MD：200mV/50kΩ
　コンポジット（VIDEO 1、2）：1Vp-p/75Ω
　S-VIDEO（VIDEO 1、2）　（Y信号）：1Vp-p/75Ω
　　（C信号）：0.28Vp-p/75Ω

定格出力/インピーダンス
　DIGITAL OUTPUT (OPT)（光デジタル音声）：−21〜−15dBm
　REC OUT（TAPE/MD、VIDEO 1）：200mV/2.2kΩ
　PRE OUT（サブウーファー）：1V/2.2kΩ
　コンポジット（MON OUT、VIDEO 1）：1Vp-p/75Ω
　S-VIDEO（MON OUT、VIDEO 1）
　　（Y信号）：1Vp-p/75Ω
　　（C信号）：0.28Vp-p/75Ω
　コンポーネント映像出力（DVD OUT）
　　（Y信号）：1Vp-p/75Ω
　　（CR/CB信号）：0.7Vp-p/75Ω
　周波数特性：20〜30,000Hz、+/−0.8dB
　アコースティックコントロール　1：+6dB（40Hz時）
　　2：+10dB（55Hz時）
　　+5dB（10,000Hz時）
　SN比：100dB（IHF）
　ミュート：−∞dB

■ DVD部

読み取り方式：非接触光学式

線速度：3.49m/s（1層目）、3.84m/s（2層目）

エラー訂正方式：リードソロモンプロダクトコード

信号方式：日米標準NTSCカラーテレビジョン方式

音声周波数特性(デジタル音声)
　DVDリニア音声　：44.1kHzサンプリング4Hz〜20kHz
　：48kHzサンプリング4Hz〜22kHz
　：96kHzサンプリング 4Hz〜44kHz

ワウ・フラッタ：測定限界以下

■ チューナー部

FM
　受信範囲：76.0〜90.0 MHz（100kHzステップ）
　実用感度
　　モノラル：11.2dBf、1.0μV（75Ω）
　　ステレオ：17.2dBf、2.0μV（75Ω）
　キャプチャレシオ：2.0dB
　イメージ妨害比：40dB
　IF妨害比：90dB
　SN比
　　モノラル：76dB
　　ステレオ：70dB
　2信号選択度：55dB
　AM抑圧比：50dB
　ひずみ率
　　モノラル：0.2%
　　ステレオ：0.3%
　周波数特性：30〜15,000Hz、+/−1.0dB
　ステレオセパレーション：45dB（1kHz）
　：30dB（100〜10,000Hz）
　ミューティングレベル：17.2dBf

AM
　受信範囲：522〜1,629kHz（9kHzステップ）
　実用感度：30μV
　イメージ妨害比：40dB
　IF妨害比：40dB
　SN比：40dB
　ひずみ率：0.7%

■ 一般仕様

使用電源：AC 100V、50/60Hz

消費電力（電気用品取締法）：115W

外形寸法：435（幅）× 108（高さ）× 421（奥行き）mm

質量：9.1kg

■ リモコン RC-437M

方式：赤外線

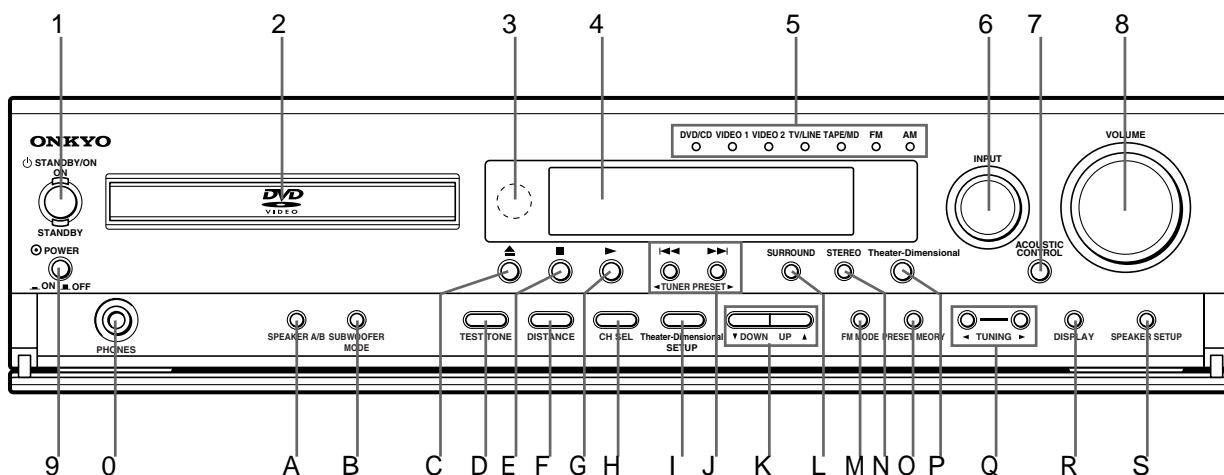
信号到達距離：約5m

使用電池：単3型（1.5V）乾電池2個

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

各部の名称

［　］内のページは、参照ページを示しています。

■ 本体前面

1 ⏻ STANDBY/ON（スタンバイ／オン）ボタン、ON（オン）インジケーター、STANDBY（スタンバイ）インジケーター［18］

2 ディスクトレイ［24］

3 リモコン受光部［11］

4 表示部［35, 72］

5 入力インジケーター［24, 30, 31, 32］

6 INPUT（インプット）つまみ［30, 31, 32］

7 ACOUSTIC CONTROL（アコースティック コントロール）ボタン／インジケーター［42］

8 音量つまみ［34］

9 ⊙ POWER（パワー）スイッチ［18］

0 ヘッドフォン端子［35］

A SPEAKER A/B（スピーカー エー／ビー）ボタン［34］

B SUBWOOFER MODE（サブウーファー モード）ボタン［21］

C ⏏（トレイ開閉）ボタン／ランプ［24, 25, 35］

D TEST TONE（テスト トーン）ボタン［23, 41］

E ■（停止）ボタン／ランプ［25, 35］

F DISTANCE（ディスタンス）ボタン［22］

G ▶（再生）ボタン／ランプ［24, 35］

H CH SEL（チャンネル セレクト）ボタン［23, 41］

I Theater-Dimensional SETUP（シアター ディメンショナル セットアップ）ボタン［39］

J ⏮／⏭ ボタン［29］／TUNER PRESET（チューナー プリセット）◀/▶ ボタン［30, 31］

K ▼ DOWN（ダウン）／UP（アップ） ▲ ボタン［20, 22, 23, 39, 41］

L SURROUND（サラウンド）ボタン［40］

M FM MODE（エフエム モード）ボタン［30］

N STEREO（ステレオ）ボタン［40］

O PRESET MEMORY（プリセット メモリー）ボタン［30, 31］

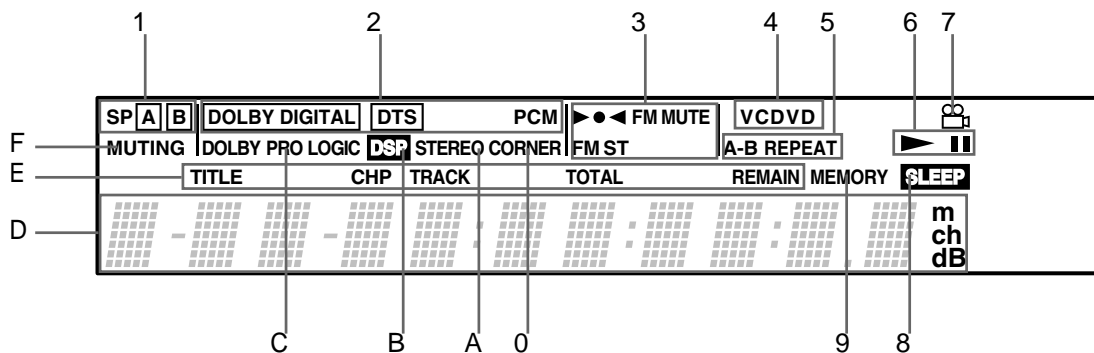
P Theater-Dimensional（シアター ディメンショナル）ボタン／インジケーター［39］

Q TUNING（チューニング） ◀/▶ボタン［30］

R DISPLAY（ディスプレイ）ボタン［52, 53］

S SPEAKER SETUP（スピーカー セットアップ）ボタン［20, 21］

各部の名称

■ 表示部

1 SP A／Bインジケーター［34］

2 入力音声方式表示インジケーター［24, 32, 37］

3 放送局受信、FM MUTE、FM STインジケーター［30］

4 ディスクインジケーター［24］

5 REPEAT／A-B REPEATインジケーター［43］

6 ►（再生）／II（一時停止）インジケーター

7 カメラアングルインジケーター［47］

8 SLEEPインジケーター［35］

9 MEMORYインジケーター［44］

0 CORNERインジケーター［38］

A STEREOインジケーター［40］

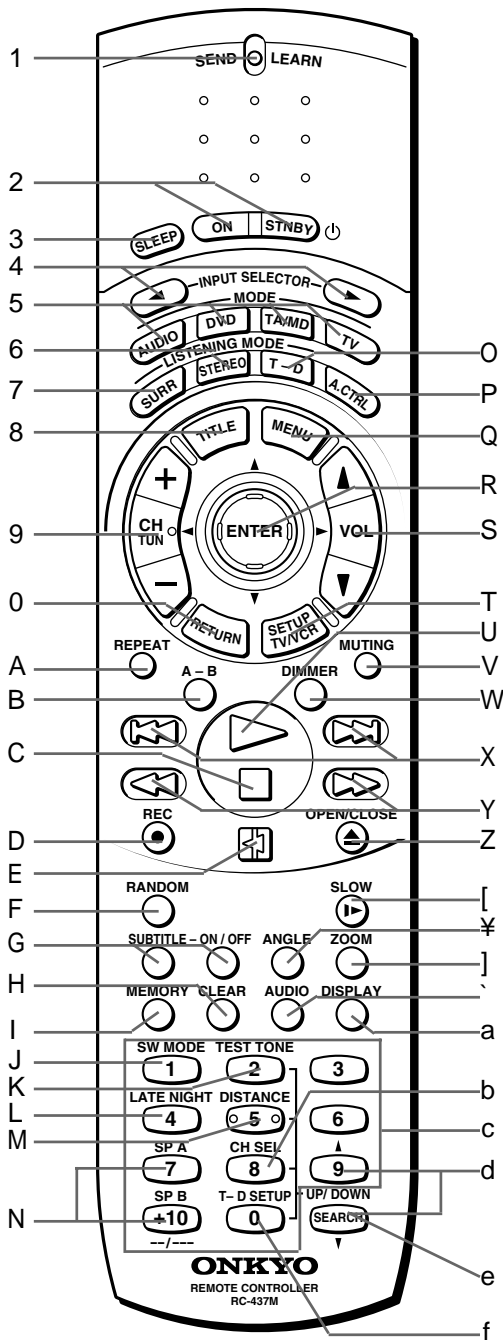
B DSPインジケーター［40］

C DOLBY PRO LOGICインジケーター［40］

D 多目的表示部

E TITLE、CHP、TRACK、TOTLAL、REMAINインジケーター［52, 53］

F MUTINGインジケーター［34］

■ リモコン

1 SEND/LEARNインジケーター［10, 66, 67］
2 ONボタン［18, 32, 66］
STNBY ⏻ ボタン［18］
3 SLEEPボタン［35］
4 INPUT SELECTOR ◄/► ボタン［31, 32］
5 MODE AUDIO ／ DVD ／ TA/MD ／ TVボタン［11］
6 STEREOボタン［40］
7 SURRボタン［40］
8 TITLEボタン［27］
9 CH TUNボタン［31, 33, 66］
0 RETURNボタン［44, 46, 54］
A REPEATボタン［33, 43, 44］
B A-Bボタン［43］
C ■（停止）ボタン［25, 33, 61］
D ● REC（録音）ボタン［33］
E ⏯（再生一時停止）ボタン［25, 33］
F RANDOMボタン［45］
G SUBTITLE／SUBTITLE ON/OFFボタン［48］
H CLEARボタン［43～50］
I MEMORYボタン［44］
J SW MODEボタン［21］
K TEST TONEボタン［23, 41］
L LATE NIGHTボタン［42］
M DISTANCEボタン［22］
N SP A ／ SP Bボタン［34］
O T-Dボタン［39］
P A.CTRLボタン［42］
Q MENUボタン［27, 49］
R カーソル（▲/▼/◄/►／ENTER）
［18, 24, 27, 44, 46～50, 54］
S VOL ▲ /▼ボタン［33, 34, 66］
T SETUPボタン［18, 54］
TV/VCRボタン［33, 66］
U ►（再生）ボタン［24, 33］
V MUTINGボタン［33, 34, 66］
W DIMMERボタン［35］
X ⏮ ／⏭ ボタン［29, 33, 45］
Y ◄◄（早戻し）／►►（早送り）ボタン［26, 33］
Z OPEN/CLOSE（トレイ開閉）／⏏（イジェクト）ボタン［24, 25, 33］
[❙► SLOW（スロー再生）ボタン［26］
\ ANGLEボタン［47］
] ZOOMボタン［46］
` AUDIOボタン［49, 50］
a DISPLAYボタン［44, 52, 53］
b CH SELボタン［23, 41］
c 数字ボタン（0～9、+10、--/---）
［27～29, 33, 44, 45, 61］
d UP ▲/DOWN ▼ ボタン［20, 22, 23, 39, 41］
e SEARCHボタン［27, 29, 45, 66］
f T-D SETUPボタン［39］

用語解説

アスペクト比

テレビ画面の横と縦の比率をいいます。通常のテレビでは、4：3ですが、ハイビジョンテレビやワイドテレビは16：9の比率となっています。横に広がった臨場感溢れる映像が楽しめるようになっています。

パレンタル（視聴制限）

国ごとの規正レベルに合わせて視聴制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDプレーヤーの機能のひとつです。制限のしかたはDVDビデオによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがあります。

スクリーンセーバー

同じ静止画を長時間再生し続けると画面に焼きつき現象が出ることがあります。

これを避けるため、本機ではスクリーンセーバー機能を持っています。基本的には画面の輝度を落とせば同様の効果が得られますが、他のDVDプレーヤーのスクリーンセーバーでは一定時間操作しないと自動的に画面を暗くするもののほか、常に動画を表示して、画面の一カ所に強い光線（明るい色）が集中しないようにするものもあります。

ダイナミックレンジ

ひずみ無く信号を伝送、変換する最大のレベルと雑音その他、機器の性質で制限される最小レベルの差をいいます。単位はデシベル（dB）を使います。

PCM

Pulse Code Modulationの略でデジタル音声のことをいいます。CDやLD、DVDビデオのデジタル音声がPCMです。

マルチアングル

DVDビデオの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル（カメラの位置）で記録されていることです。

ビットレート（Bit Rate）

DVDビデオに圧縮して記憶されている画像の1秒あたりの情報量を示す値です。単位はMbps（Mega bit per second）で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表します。

この値が大きいほど画像の情報量は多くなりますが、必ずしも画質とは直接関係しません。

ビットストリーム

ドルビーデジタルやDTSフォーマットのデジタルデータです。

DVDビデオ

CDと同じ直径で、最大８時間までの動画が記録できるディスクです。

片面一層で4.7GB（Giga Byte）とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できます。

画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2」（エムペグ2）を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録します。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されています。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタルを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめます。またマルチアングル、マルチランゲージなどさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができます。

ビデオCD

MDと同等の音質とVHS並みの画質で動画再生が楽しめるディスクです。デジタル信号の圧縮技術（MPEG1方式）により最大74分のデジタル画像と音声が連続再生できます。ビデオCDにはメニュー画面で見たい場面を選んだり、静止画を再生できる”プレイバックコントロール（PBC）”対応のディスクがあります。

PBC（プレイバックコントロール）

ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号です。

PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面（選択画面）を使って、簡単な対話型ソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめます。

オンキヨーサービス網一覧表

オンキヨーサービス網のご案内

万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談ください。

●製品の故障や修理についてのお問い合わせは、下記へどうぞ。

修理をご依頼になる前に、
取扱説明書の「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」をご確認のうえご依頼ください。

地区 / 窓口	連絡先
北海道地区	
札幌サービスステーション	TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619 〒001-0028　札幌市北区北28条西5-1-28　トーシン北28条ビル
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区	
仙台サービスステーション	TEL 022-297-0571　FAX 022-257-7330 〒984-0051　仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル1F
茨城・栃木地区	
宇都宮サービスステーション	TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308 〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7
群馬・埼玉・新潟地区	
大宮サービスステーション	TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137 〒330-0034　埼玉県大宮市土呂町2-29-2　高安ビル1F
千葉・東京（23区）地区	
東京サービスセンター	TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル
東京（23区を除く）・山梨地区	
八王子サービスステーション	TEL 0426-32-8030　FAX 0426-32-8040 〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地
神奈川地区	
横浜サービスステーション	TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603 〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F
長野・岐阜・静岡・愛知・三重地区	
名古屋サービスステーション	TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331 〒465-0013　名古屋市名東区社口1丁目1001番
富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区	
大阪サービスセンター	TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013　大阪市港区福崎2丁目1番地49号
鳥取・島根・岡山・広島・山口（下関を除く）地区	
広島サービスステーション	TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571 〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28
徳島・香川・愛媛・高知地区	
高松サービスステーション	TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672 〒760-0079　高松市松縄町44-8　西原ビル1F
山口（下関）・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区	
福岡サービスステーション	TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358 〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

●カタログのご請求、製品についてのご相談はカスタマーセンターへどうぞ。

e-mail：customer@onkyo.co.jp
TEL：　ナビダイヤル 0570-01-8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます。）
携帯電話・PHSのかたは、072-831-8111へどうぞ。

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ　→ http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ　→ http://www.e-onkyo.com

2000年11月現在　　修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

SN 29358031E

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(DR-2000)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　月　日
ご購入店名：
Tel.　(　)
メモ：

オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはサービス網一覧表記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 06(6576)7620

ONKYO HOMEPAGE http://www.onkyo.co.jp/

SN 29342956A
Printed in Japan T0011-2